

匝瑳市

まち・ひと・しごと創生総合戦略



ガーデンコミュニティ戦略
～そうさ!!匝瑳で活躍しよう～

平成28年3月
匝瑳市

はじめに



我が国では、急速に人口減少が進行し、消費や経済力の低下は、日本経済にとって大きな重荷になると懸念されています。

このような状況の中で、人口の減少に歯止めをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的に、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」および「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

本市においても、これを受け、人口減少の抑制や地域の活性化を図るため、匠瑤市人口ビジョンと匠瑤市総合戦略から成る、「匠瑤市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。

人口ビジョンでは、人口の現状分析および将来人口の推計を行い、人口の将来展望として、平成72年の人口目標を定めました。

また、総合戦略では、人口目標の達成に向けた基本目標と数値目標を定め、具体的な施策や事業を記載しています。

本計画の策定にあたりましては、匠瑤市まち・ひと・しごと創生市民会議の開催や各種アンケート調査、パブリックコメントなどの実施により、広く市民の皆様からご意見を伺ってまいりました。

本市が次代に向けてさらなる持続的な発展を遂げ、急激な人口減少の歯止めと地域の活性化が図られるよう施策を展開してまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本計画の策定にあたり、多くの貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

匠瑤市長 **太田 安規**

匝瑳市 まち・ひと・しごと創生総合戦略

目次

第Ⅰ部 匝瑳市人口ビジョン

第1章 基本的な考え方	1
第1 趣旨	1
第2 対象期間	1
第2章 人口の現状分析	2
第1 人口	2
1 総人口の推移	2
2 年齢3区分別人口の推移	3
3 人口ピラミッド	5
第2 出生・死亡	6
1 出生数・死亡数(自然増減)の推移	6
2 女性(15～49歳)の年齢別(5歳階級)出生数の推移	7
3 合計特殊出生率の推移	8
第3 人口移動	9
1 転入数・転出数(社会増減)の推移	9
2 年齢階級別純移動数	10
3 年齢階級別純移動数の時系列分析	11
4 主な転出先の地域別状況	12
5 主な転入元の地域別状況	13
第4 その他	14
1 産業別就業人口割合の推移	14
2 産業別年齢構成	15
3 市内外からの通勤者	16
第3章 将来人口の推計と地域に与える影響	17
第1 将来人口の推計	17
1 総人口の推計	17
2 将来人口に及ぼす影響度の分析	19

第2章	地域に与える影響	21
1	一般会計歳入歳出の推移	21
2	公有財産への影響	22
3	公共施設の維持管理・更新などへの影響	23
第4章	人口の将来展望	24
第1節	将来展望に必要な調査・分析	24
1	アンケート調査の概要	24
2	主な結婚・出産・子育てに関するアンケート調査結果	26
3	主な転入者・転出者に対するアンケート調査結果	30
4	主な高校3年生に対するアンケート調査結果	33
5	主なワークショップ実施結果	35
第2節	目指すべき将来の方向の検討	37
1	現状と課題の整理	37
2	基本的視点	38
3	目指すべき将来の方向	39
第3節	人口の将来展望	40
1	設定条件	40
2	人口の将来展望	40

第Ⅱ部 匠瑳市総合戦略

第1章	基本的な考え方	45
第1節	趣旨	45
第2節	計画期間	45
第3節	計画の特色	45
第4節	キャッチフレーズ	46
第2章	基本戦略	47
第1節	基本目標	47
第2節	基本的方向	48
第3節	具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)	54
第3章	推進体制と進行管理	69
第1節	推進体制	69

第2 進行管理	70
第3 普及啓発の方法	70

資料編

1 策定経過	71
2 匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部規則	73
3 匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議規則	76
4 匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議委員名簿	78
5 結婚・出産・子育てに関するアンケート調査結果	79
6 匝瑳市の転入者に対するアンケート調査結果	109
7 匝瑳市の転出者に対するアンケート調査結果	117
8 匝瑳市の高校3年生に対するアンケート調査結果	126
9 ワークショップ実施結果(意見集)	131
10 用語の解説	140

第 I 部

匝瑳市人口ビジョン

第1章 基本的な考え方

第1 趣旨

我が国では、平成20年(2008年)以降人口減少が進行し、国立社会保障・人口問題研究所による平成24年1月の将来推計人口では、このまま推移すると、平成72年(2060年)の人口は8,674万人、65歳以上人口割合は39.9%になるとされており、人口減少による消費や経済力の低下は、日本経済にとって大きな重荷になると懸念されています。

また、日本創成会議が平成26年5月に提言した「ストップ少子化・地方元気戦略」では、全国約1,800自治体のうち、半数の896自治体に消滅の可能性があるとして、全国に大きな衝撃を与えました。

こうした状況の中、日本の急速な少子高齢化の進行に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的に、平成26年11月、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、それに基づき、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」および「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

また、千葉県においても、「人口ビジョン」および「総合戦略」が策定され、今後の地方創生の方向性が示されました。

匝瑳市(以下「本市」という。)では、「匝瑳市総合計画後期基本計画」を平成28年3月に策定し、本市の将来都市像である「海・みどり・ひとがはぐくむ 活力あるまち 匝瑳市」を目指し、総合的な施策に取り組んでいます。

これらの背景を踏まえ、匝瑳市人口ビジョンは、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、匝瑳市総合戦略を策定するにあたり、本市の人口の現状分析および将来人口の推計を行い、将来に向けた持続可能なまちづくりのための効果的な施策を企画立案する上で重要な指標とするために策定するものです。

第2 対象期間

匝瑳市人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間にならい、平成72年(2060年)までとします。なお、人口の変動に応じて、人口ビジョンを見直すこともあります。

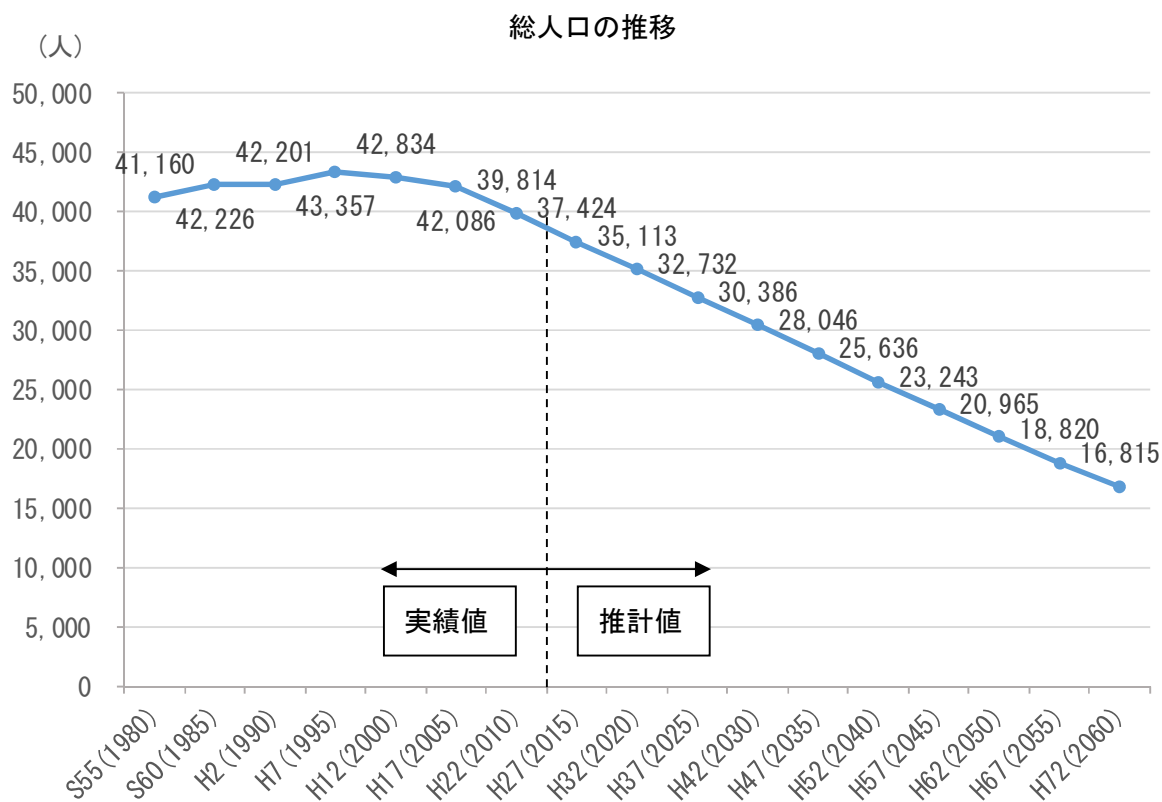
第2章 人口の現状分析

第1 人口

1 総人口の推移

国勢調査の結果を見ると、本市の総人口は、平成7年(1995年)の43,357人から減少に転じ、平成22年(2010年)には39,814人、平成27年10月1日現在の常住人口では37,589人となっています。

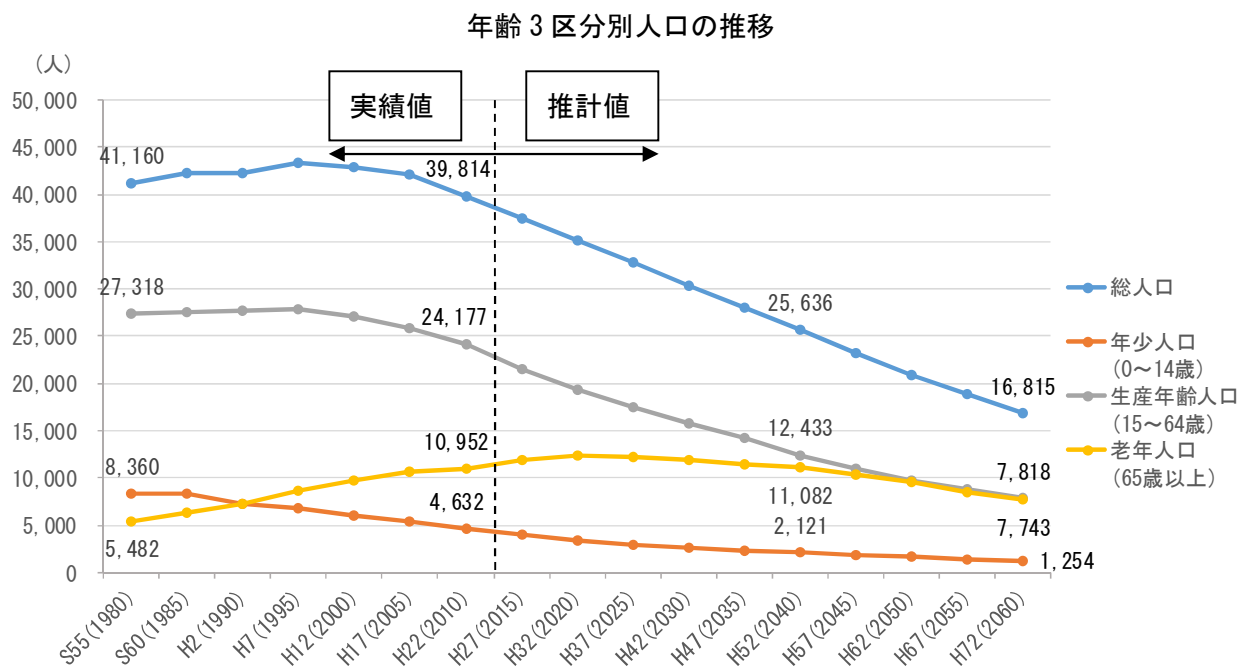
また、国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表した推計(以下「社人研推計」という。)によれば、平成52年(2040年)には約30%減の25,636人、社人研推計に基づくまち・ひと・しごと創生本部の作成資料では、平成72年(2060年)には約55%減の16,815人と、人口減少が急速に進行すると予測されています。



資料：S55(1980)～H22(2010)の実績値・・・総務省「国勢調査」
H27(2015)～H52(2040)の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
H57(2045)～H72(2060)の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に
基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

2 年齢3区分別人口の推移

本市の年齢3区分別人口は、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)が減少する一方で老年人口(65歳以上)が増加していますが、平成32年(2020年)をピークに老年人口も減少に転じると予測されています。

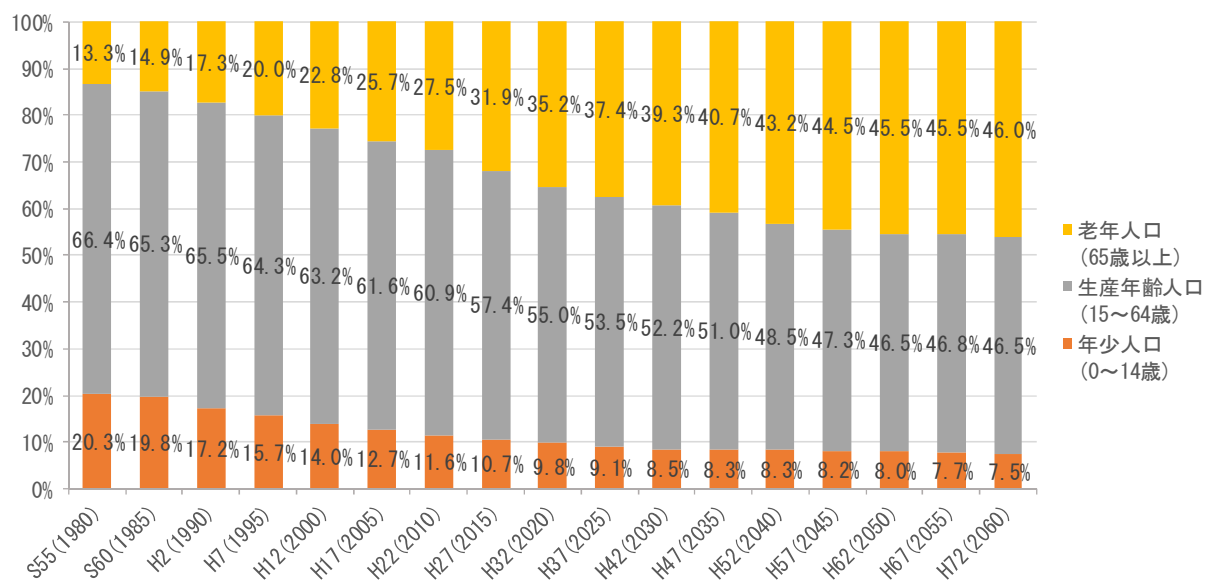


資料：S55(1980)～H22(2010)の実績値 総務省「国勢調査」(H22(2010)の総数は年齢不詳を含むため合わない)
H27(2015)～H52(2040)の推計値 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
H57(2045)～H72(2060)の推計値 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に
基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

また、年齢3区分別人口割合では、年少人口、生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加するという一貫した傾向にあり、高齢化率は平成52年(2040年)には43.2%、平成72年(2060年)には46.0%に達すると予測されています(全国39.9%、千葉県39.5%を大きく上回る予測値となっています)。

人口減少と少子高齢化が並行して進み、各種産業における労働力や後継者の不足、地域コミュニティの活力低下などが懸念されています。

年齢3区分別人口割合の推移



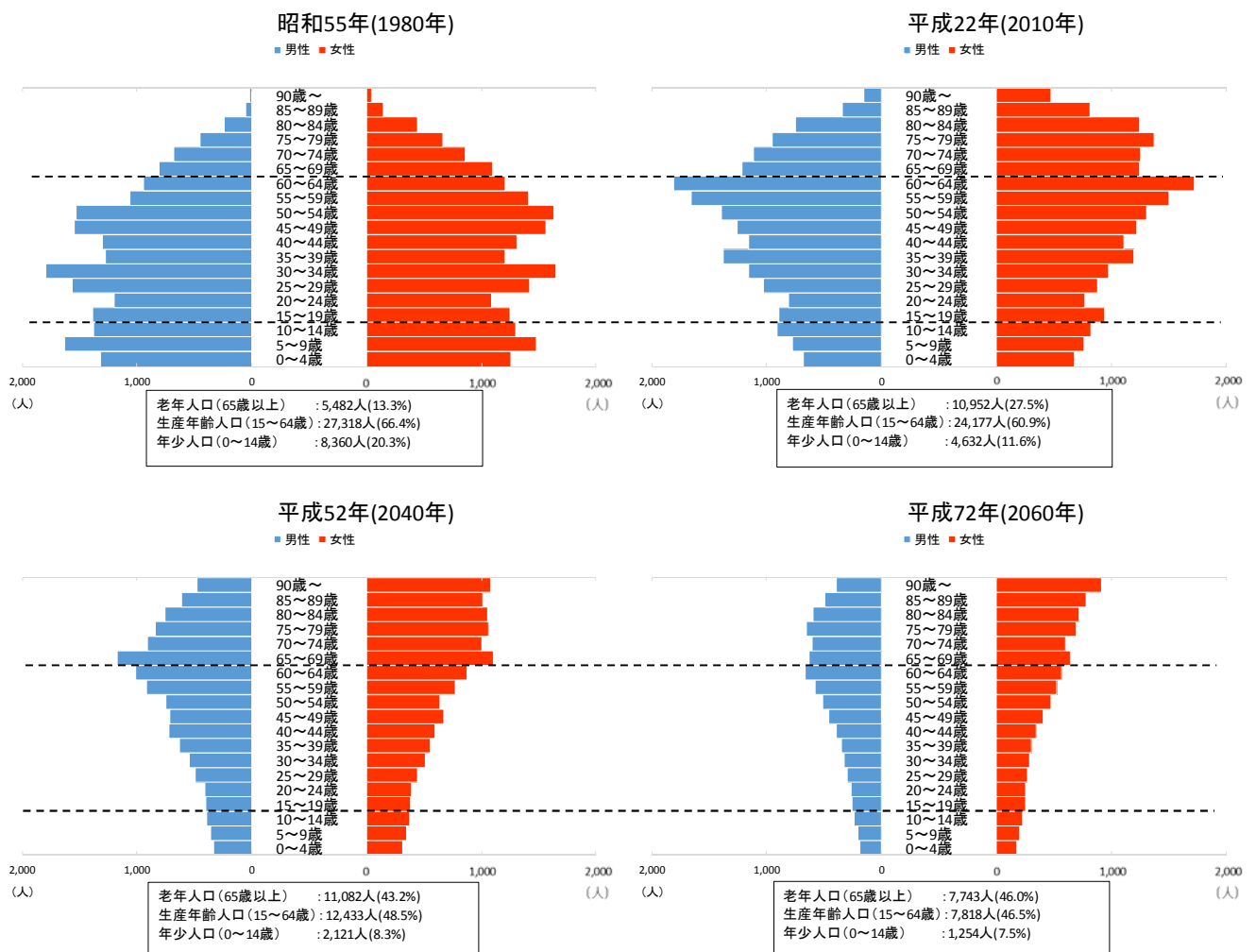
資料：S55(1980)～H22(2010)の実績値 総務省「国勢調査」
H27(2015)～H52(2040)の推計値 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
H57(2045)～H72(2060)の推計値 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に
基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

3 人口ピラミッド

昭和55年(1980年)と平成22年(2010年)の人口ピラミッドを比較すると、形状が「釣り鐘型」から「つぼ型」に変化し、第1次ベビーブーム世代(団塊の世代)の層の厚みが大きい形状となっています。

少子高齢化に伴い、老年人口が増加している一方で、年少人口が減少しています。今後高齢者が増えることで、福祉や医療などにかかる費用が増大し、働き手・子育て世代と子どもが減ることで、経済・地域社会の衰退、本市の将来の存続が懸念されます。

人口ピラミッド



資料 : S55(1980)～H22(2010)の実績値・・・総務省「国勢調査」

H27(2015)～H52(2040)の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

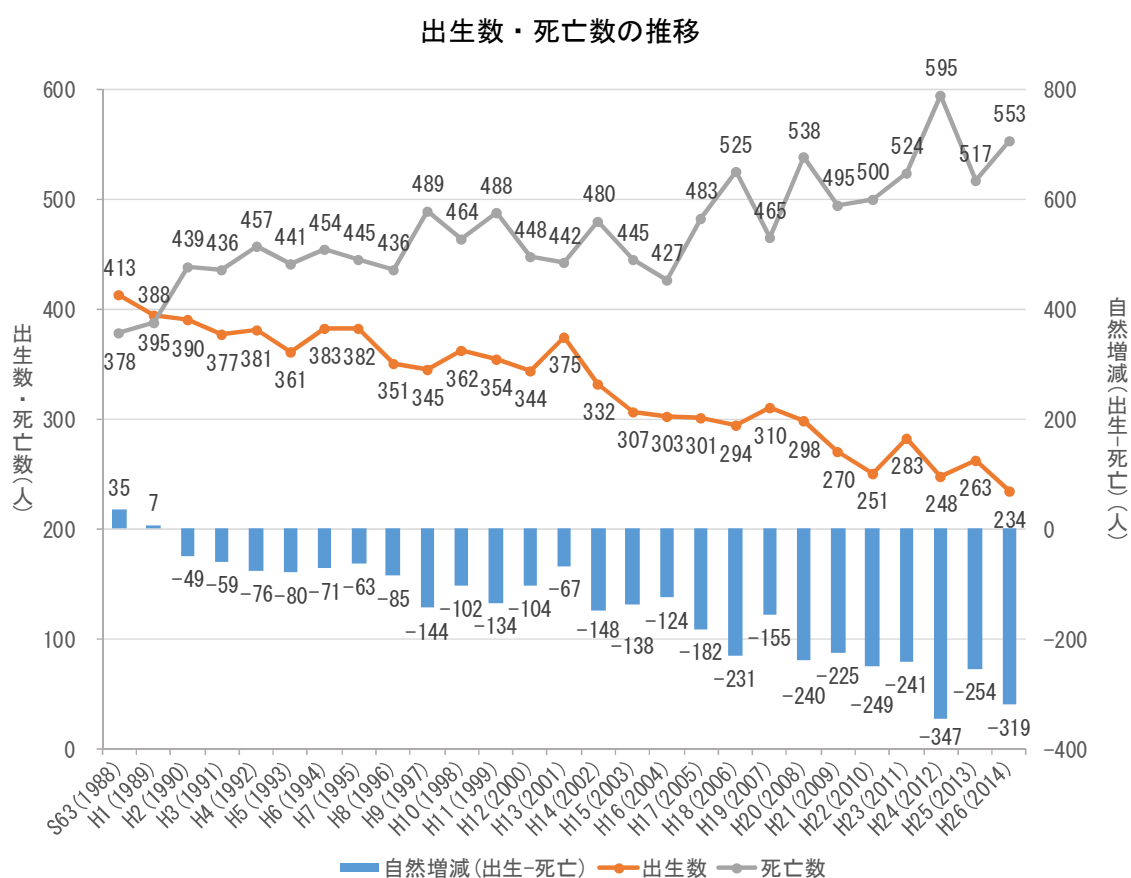
H57(2045)～H72(2060)の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

第2 出生・死亡

1 出生数・死亡数(自然増減)の推移

本市の出生数・死亡数の推移を見ると、自然増減は、平成元年(1989年)までの「自然増」(出生が死亡を上回る)から、「自然減」(死亡が出生を上回る)に転じ、その後も「自然減」が加速しています(千葉県では平成23年(2011年)に初めて「自然減」に転じています)。

今後高齢者が増加し、死亡数の増加が見込まれるため、人口減少に拍車がかかることが予測されます。出生数を増やし、人口減少を抑制することが課題です。



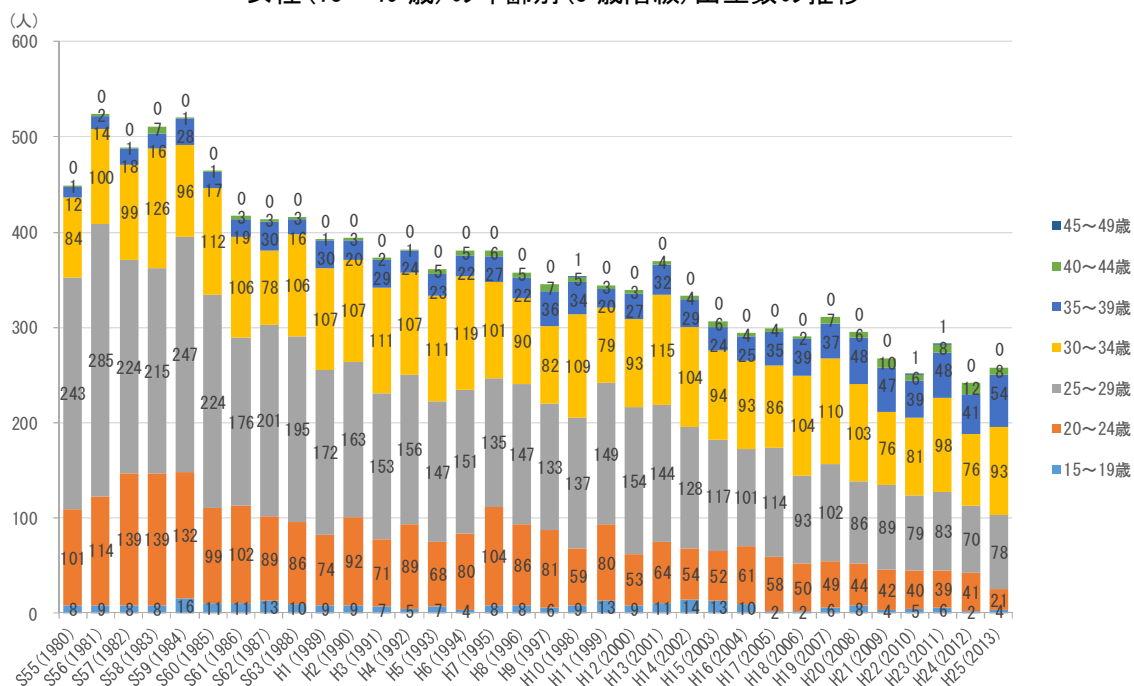
資料：千葉県毎月常住人口調査報告書(年報)

2 女性(15～49 歳)の年齢別(5 歳階級)出生数の推移

本市の女性の年齢別出生数は、昭和 55 年(1980 年)から平成 25 年(2013 年)にかけて、20～24 歳が 101 人から 21 人、25～29 歳が 243 人から 78 人と減少していますが、30～34 歳は 84 人から 93 人、35～39 歳は 12 人から 54 人と増加しています。

出生数が全体的に減少傾向であり、出産年齢が上昇する傾向が見られることから、結婚に対する支援はもとより、若い女性が出産・子育てしやすい環境づくりが必要であると考えられます。

女性(15～49 歳)の年齢別(5 歳階級)出生数の推移

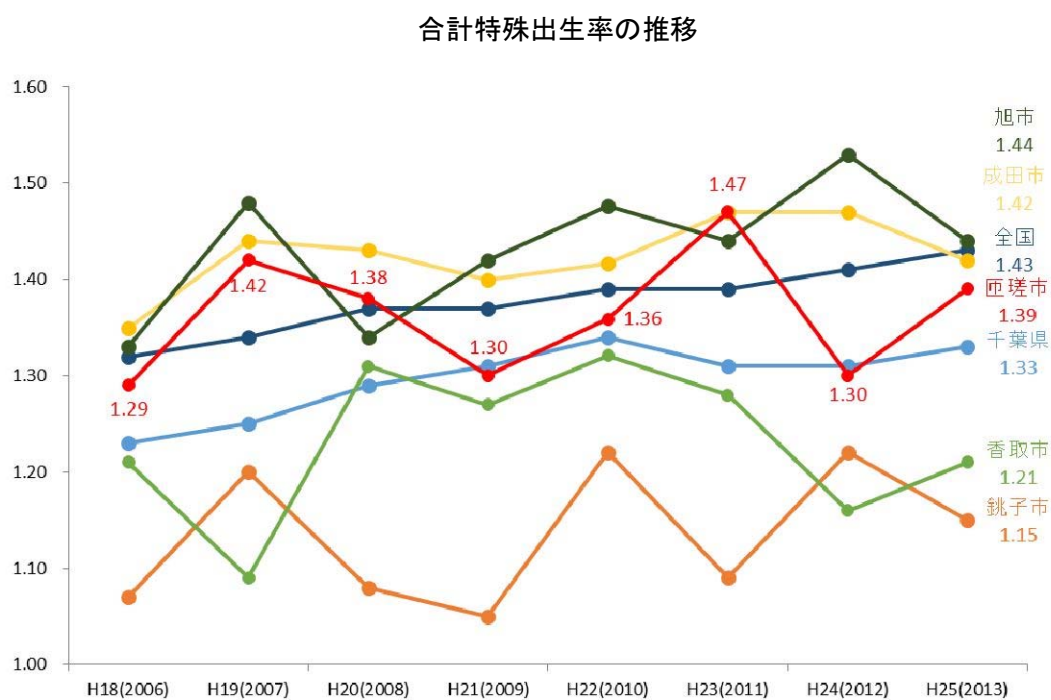


資料：千葉県衛生統計年報

3 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、平成 25 年(2013 年)に 1.39 となっており、全国の 1.43 より
は低いものの、千葉県の 1.33 よりは高くなっています。

全国的に国民希望出生率 1.80 には及ばず、本市においても同様であり、今後は出生率
の向上を図ることが課題です。



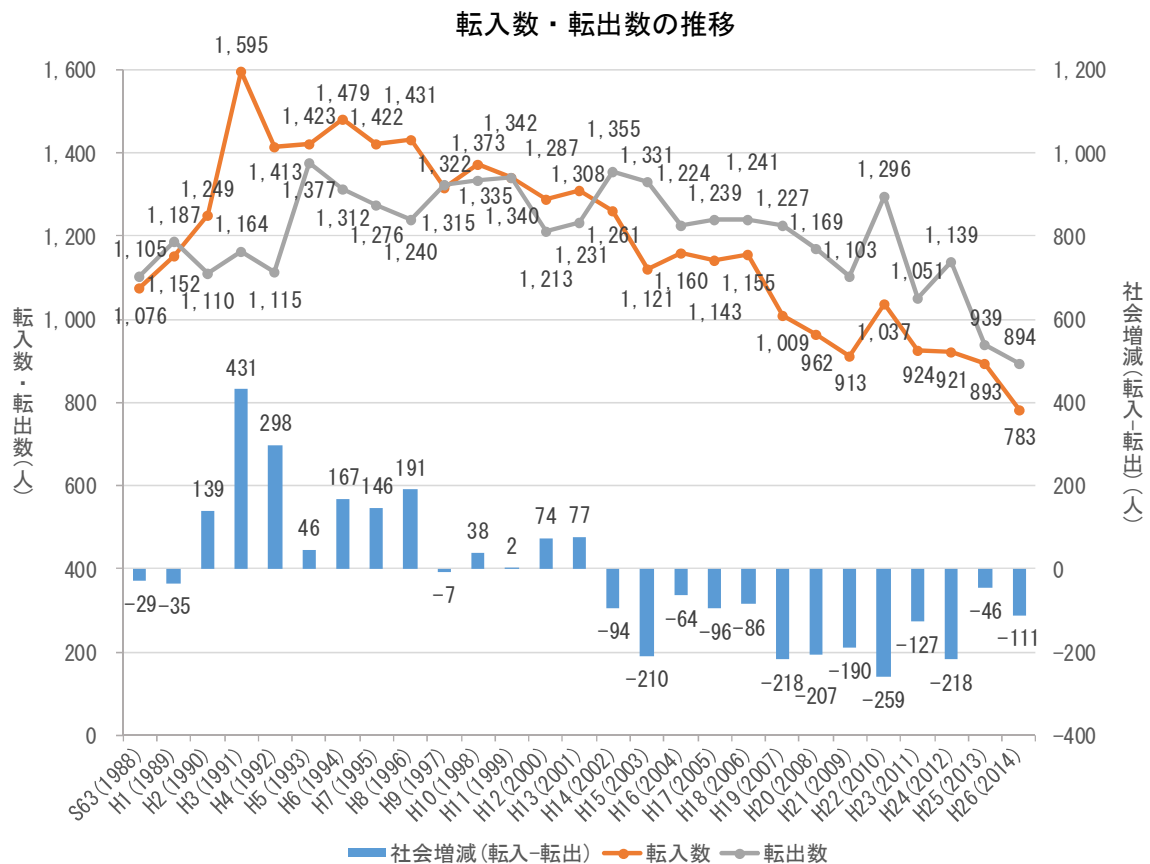
資料：千葉県健康福祉部健康福祉指導課

第3 人口移動

1 転入数・転出数(社会増減)の推移

本市の転入数・転出数の推移を見ると、社会増減は、平成13年(2001年)までの「社会増」(転入数が転出数を上回る)から、「社会減」(転出数が転入数を上回る)に転じ、その後も「社会減」が継続しています(千葉県では東日本大震災が発生した平成23年(2011年)と、翌年の平成24年(2012年)に「社会減」となっていますが、それ以外の各年は「社会増」となっています。)

千葉県全体の傾向を見ると、本市は特に人口流出が進行していることから、今後は、転出数を抑制するとともに、転入数を増やし、定住促進を進めることが課題です。

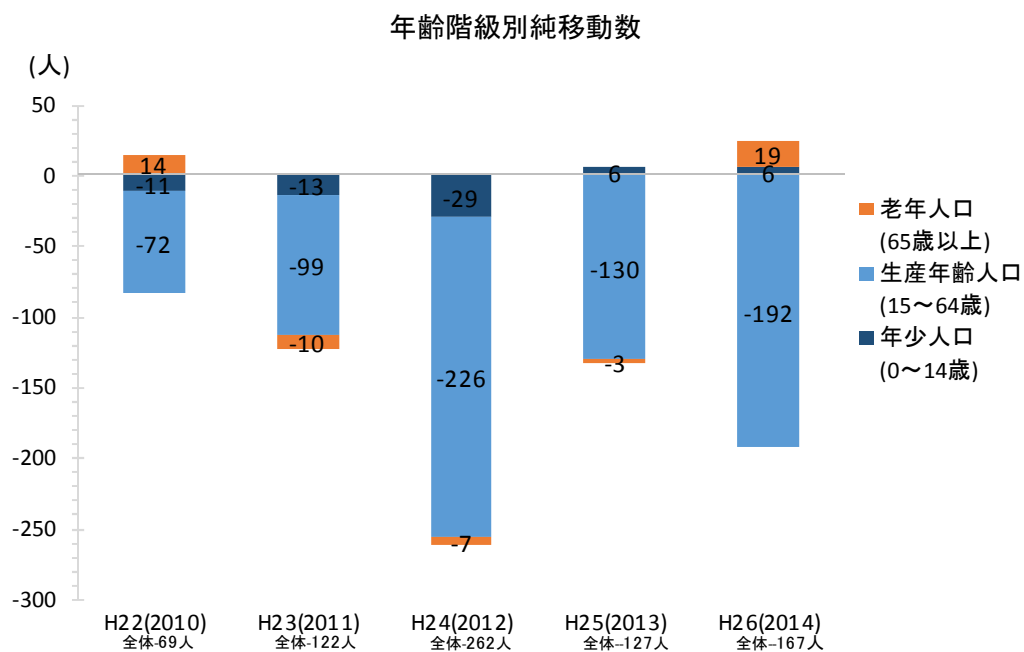


資料：千葉県毎月常住人口調査報告書(年報)

2 年齢階級別純移動数

本市の年齢階級別純移動数は、生産年齢人口（15～64 歳）が転出超過となっており、平成 24 年（2012 年）に-226 人と最も多くなっています。

特に、生産年齢人口の転出が多く、人口流出の対策が課題です。



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

3 年齢階級別純移動数の時系列分析

本市の年齢階級別純移動数については、平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけての純移動数を見ると、「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」に-553 人と大幅な転出超過となっています。

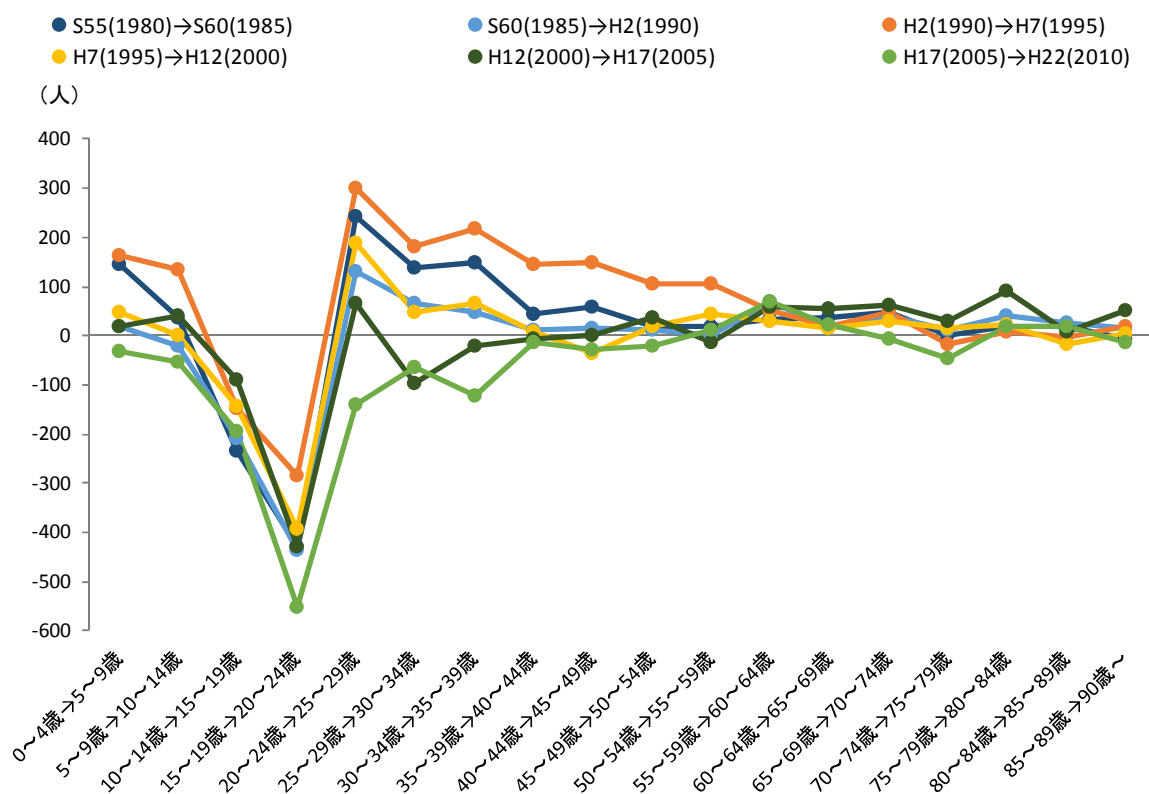
一方、「20～24 歳から 25～29 歳になるとき」には、転出超過の度合いが縮小しています。

また、平成 17 年(2005 年)まではこの年代が転入超過となっていたが、平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけては転出超過となっています。

さらに、平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけて「10～14 歳から 15～19 歳になるとき」においても、-196 人と転出超過となっており、総じて 10～29 歳の若者の市外流出が深刻化していることがわかります。

今後、進学や就職などを契機に、市外への通学・通勤が多くなる 10～29 歳の若者に対し、将来の転出を抑制し、本市への定住を促進することが課題です。

年齢階級別純移動数の時系列分析



資料：総務省「国勢調査」、「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

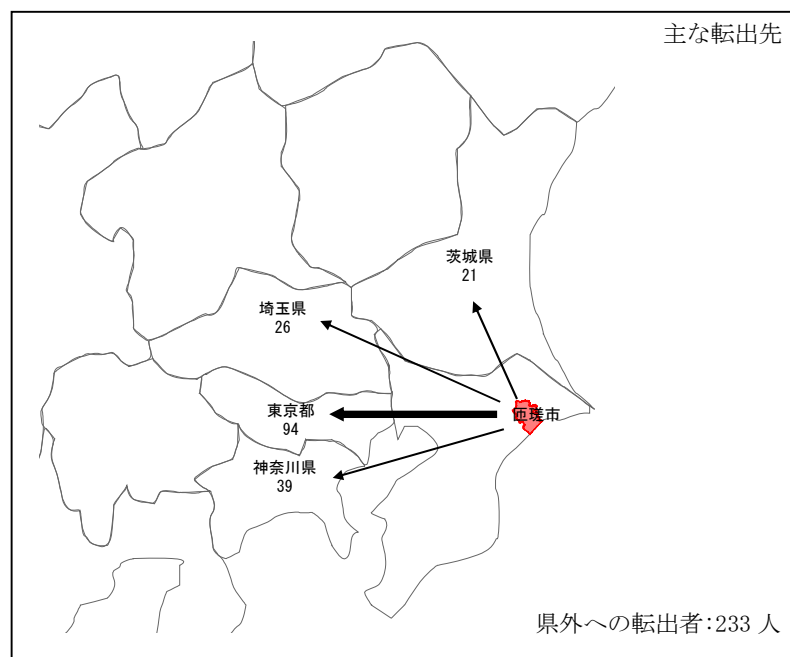
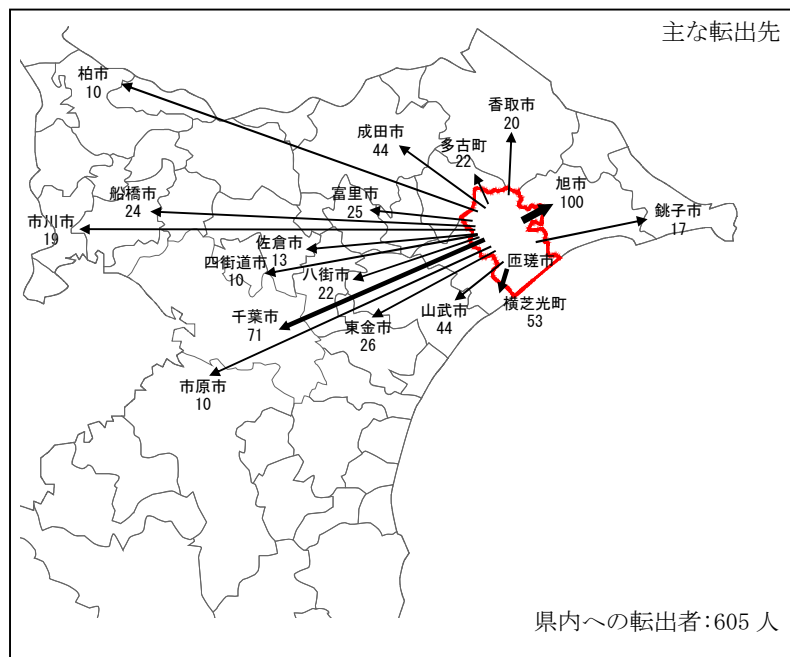
4 主な転出先の地域別状況

平成 26 年(2014 年)の転出者は、県内が 605 人、県外が 233 人となっています。

主な県内転出先は、旭市の 100 人が最も多く、次に千葉市の 71 人が多くなっています。
主な県外転出先は、東京都の 94 人が最も多くなっています。

転出先については、身近な市町だけでなく、東京都や千葉市など、都市部も多く見受けられます。

主な転出先の地域別状況(平成 26 年(2014 年))



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(平成 26 年(2014 年))

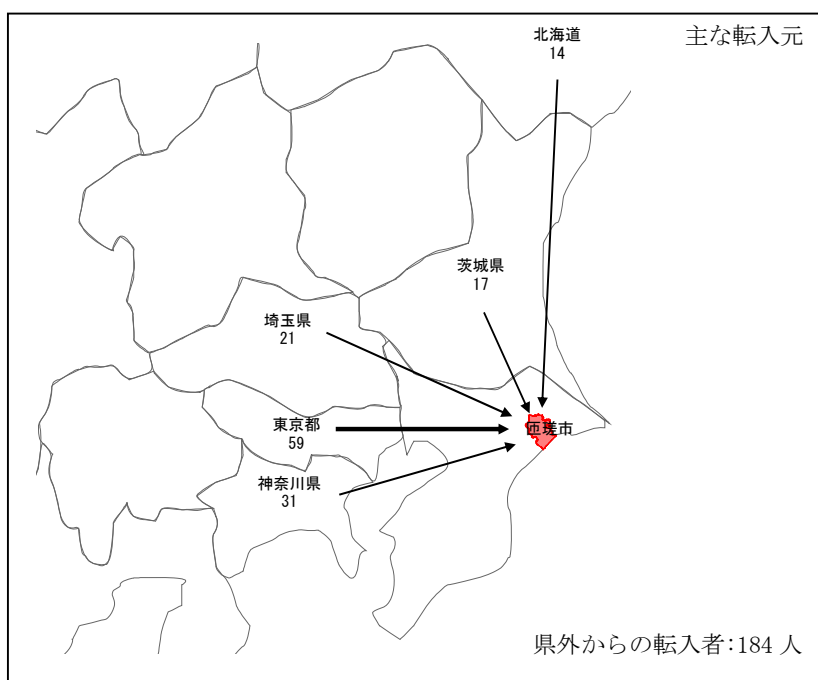
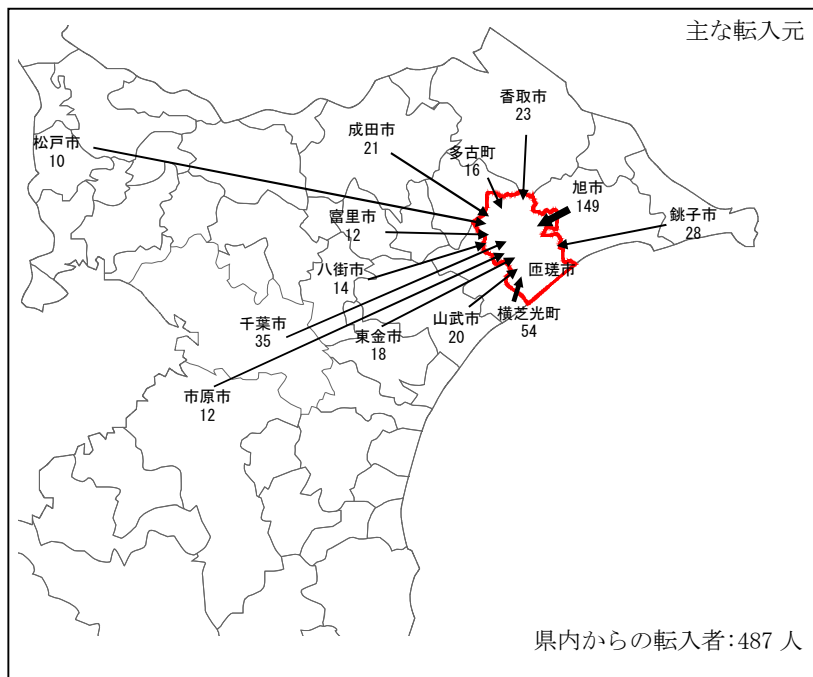
5 主な転入元の地域別状況

平成 26 年(2014 年)の転入者は、県内が 487 人、県外が 184 人となっています。

主な県内転入元は、旭市の 149 人が最も多く、次に横芝光町の 54 人が多くなっています。主な県外転入元は、東京都の 59 人が最も多くなっています。

転入元については、旭市が多く、東京都や千葉市などの都市部も見受けられ、都市部からの移住の可能性が示されています。

主な転入元の地域別状況(平成 26 年(2014 年))



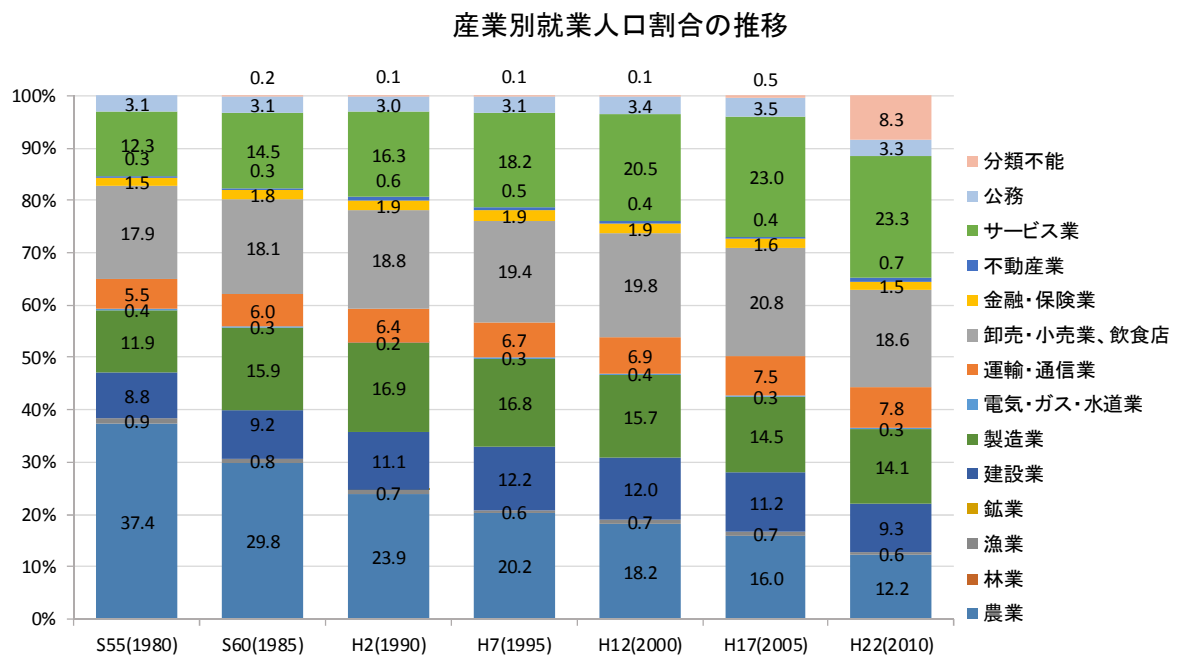
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(平成 26 年(2014 年))

第4 その他

1 産業別就業人口割合の推移

国勢調査の結果を見ると、本市の産業別就業人口割合では、農業が昭和55年(1980年)の37.4%から平成22年(2010年)には12.2%へと減少しています。

また、サービス業が昭和55年(1980年)の12.3%から平成22年(2010年)には23.3%へと増加しています。

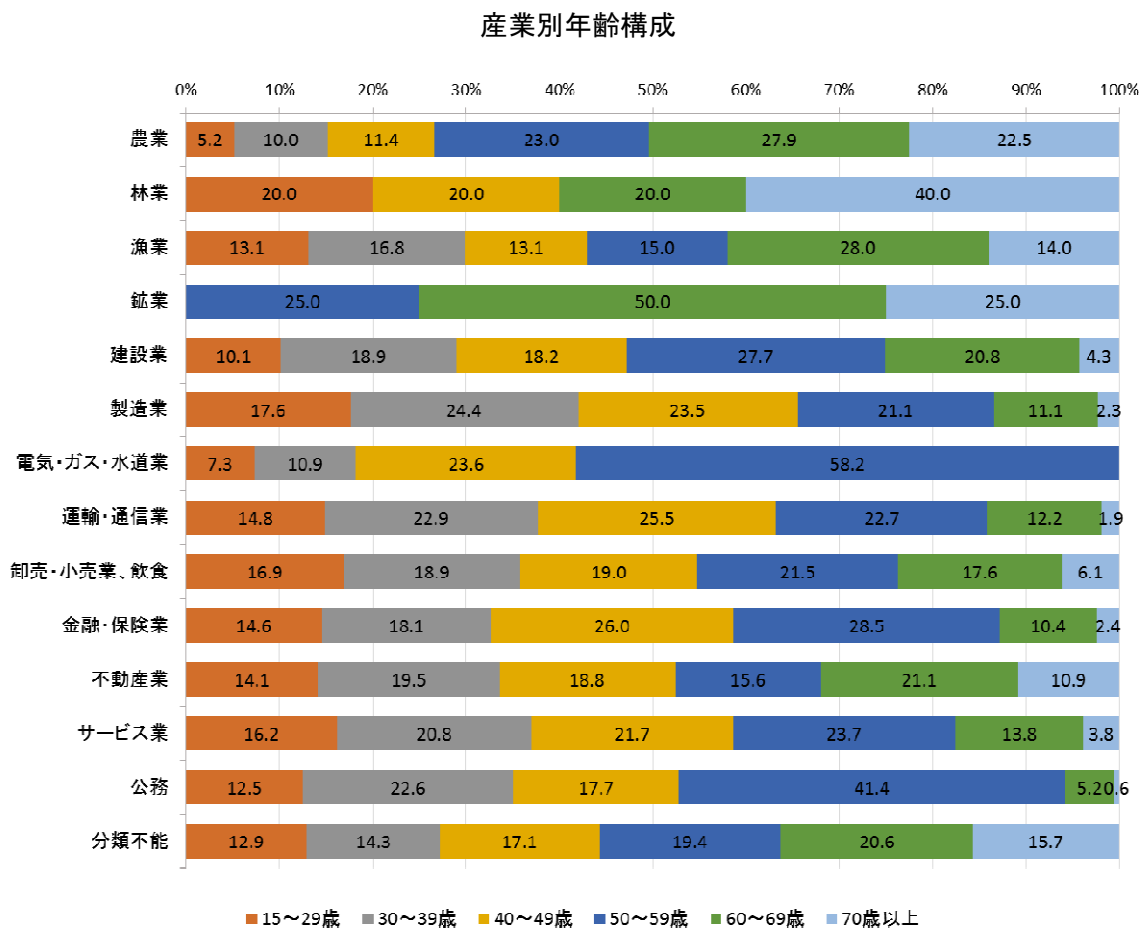


資料：総務省「国勢調査」(平成22年(2010年))

2 産業別年齢構成

本市の平成 22 年(2010 年)の産業別年齢構成のうち、15～29 歳の若者は、林業、製造業、卸売・小売業、飲食の順に就業する割合が高くなっています。一方、鉱業、農業、電気・ガス・水道業、建設業の順に就業する割合が低くなっています。ただし、林業や鉱業については、ほとんど就業人口がいません。

本市での若者の就業を生み出し、魅力的な職場づくりを進めることが課題です。



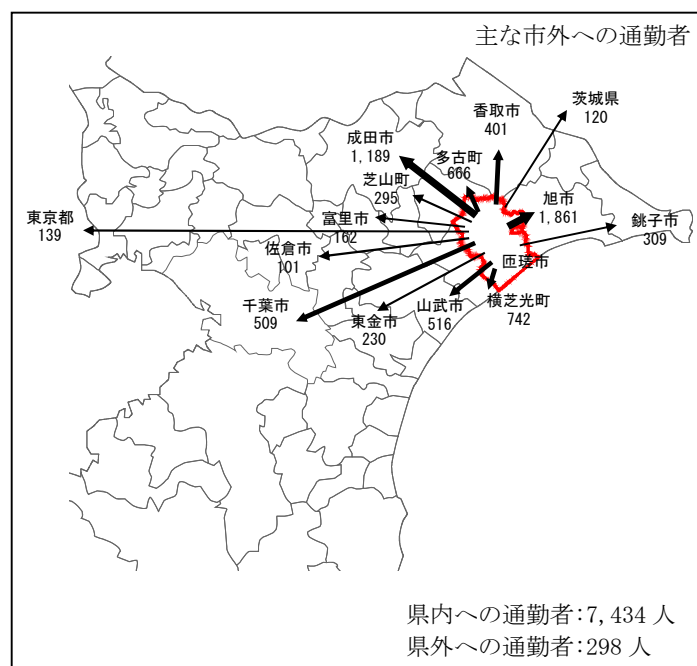
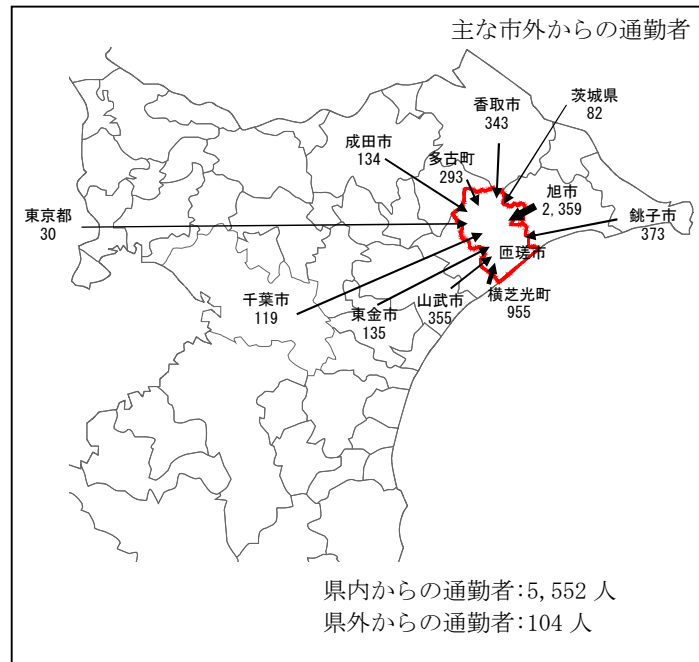
資料：総務省「国勢調査」(平成 22 年(2010 年))

3 市内外からの通勤者

本市の平成 22 年(2010 年)の市外からの通勤者は、県内からが 5,552 人、県外からが 104 人となっています。主な県内からの通勤者では、旭市の 2,359 人が最も多く、次に横芝光町の 955 人が多くなっています。

また、本市の平成 22 年(2010 年)の市外への通勤者は、県内へは 7,434 人、県外へは 298 人となっています。主な県内への通勤者では、旭市の 1,861 人が最も多く、次に成田市の 1,189 人が多くなっています。

市内外からの通勤者(平成 22 年(2010 年))



資料：総務省「国勢調査」(平成 22 年(2010 年))

第3章 将来人口の推計と地域に与える影響

第1 将来人口の推計

1 総人口の推計

本市の総人口について、いくつかの仮定を設けた上で将来推計を行いました。

平成 52 年(2040 年)および平成 72 年(2060 年)の人口推計は、以下のとおりです。

推計モデル	内容	平成 52 年(2040 年)の人口(人)	平成 72 年(2060 年)の人口(人)
パターン 1	全国の移動率が今後平成 27 年(2015 年)～平成 32 年(2020 年)に 1/2 に縮小すると仮定した推計(社人研)	25,636	16,815
パターン 2	全国の総移動数が、平成 22 年(2010 年)～平成 27 年(2015 年)の推計値と概ね同水準で推移すると仮定した推計(日本創成会議)	23,792	—
シミュレーション 1	パターン 1 をもとに、出生率が 2.07 まで上昇すると仮定した推計	27,482	20,126
シミュレーション 2	パターン 1 をもとに、出生率が 2.07 まで上昇し、かつ人口移動については転出超過の現状を改善してゼロ(転入・転出数が同数)と仮定した推計	31,680	27,016

資料：パターン 1・・・総務省「国勢調査」(平成 22 年(2010 年)の実績値)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成 27 年(2015 年)～平成 52 年(2040 年)の推計値)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成(平成 57 年(2045 年)～平成 72 年(2060 年)の推計値)

パターン 2・・・日本創成会議の推計

シミュレーション 1 および 2・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づき、まち・ひと・しごと創生本部作成

各推計モデルにおける設定条件

出生率

推計モデル	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
パターン1	1.35	1.32	1.29	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30
パターン2	1.35	1.32	1.29	1.30	1.30	1.30	—	—	—	—
シミュレーション1	1.44	1.50	1.80	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
シミュレーション2	1.44	1.50	1.80	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

※パターン1、パターン2の出生率は、子ども女性比および合計特殊出生率のそれぞれの全国平均から算出される比率により設定している。

※シミュレーション1、シミュレーション2の出生率は匠瑳市の合計特殊出生率を当初の値としている。

人口移動

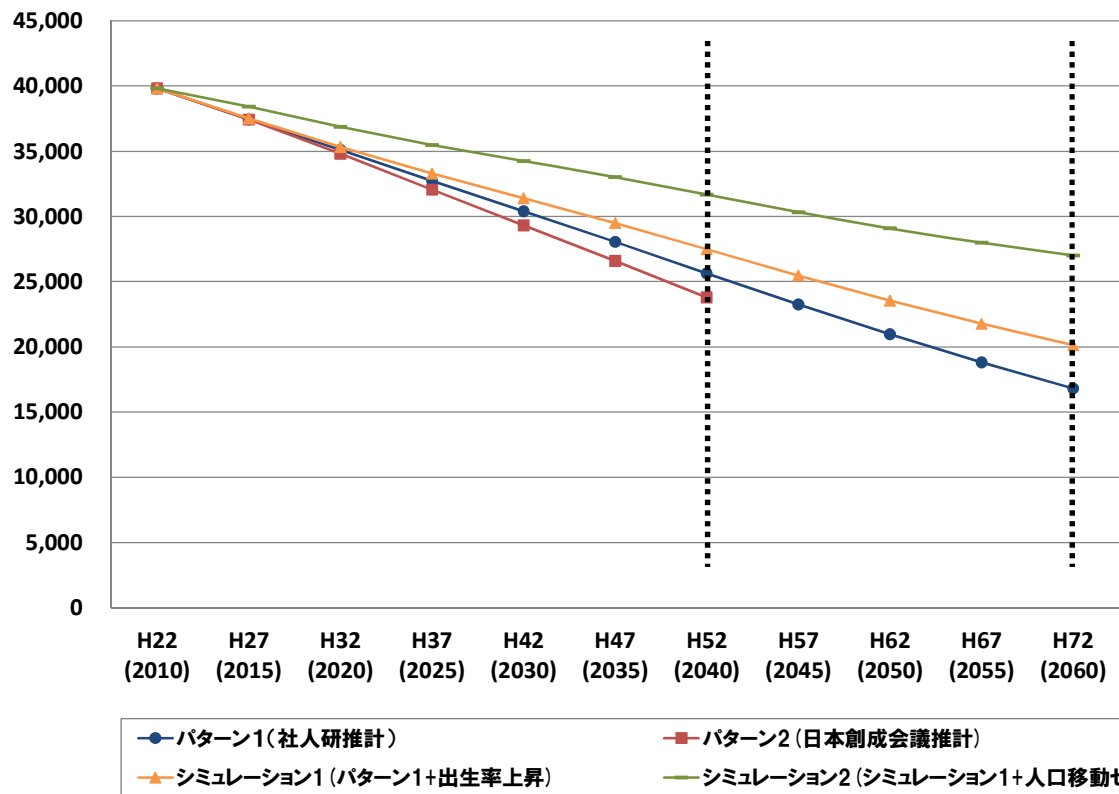
推計モデル	H22(2010) ↓ H27(2015)	H27(2015) ↓ H32(2020)	H32(2020) ↓ H37(2025)	H37(2025) ↓ H42(2030)	H42(2030) ↓ H47(2035)	H47(2035) ↓ H52(2040)	H52(2040) ↓ H57(2045)	H57(2045) ↓ H62(2050)	H62(2050) ↓ H67(2055)	H67(2055) ↓ H72(2060)
パターン1	-838	-497	-439	-398	-344	-278	-241	-222	-196	-172
パターン2	-838	-782	-778	-733	-670	-600	—	—	—	—
シミュレーション1	-838	-499	-443	-412	-375	-329	-320	-320	-296	-279
シミュレーション2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※人口移動は各世代において純移動率から移動数を算出し、合計した値である。

※子ども女性比：0～4歳人口と15～49歳女性人口の比率

※純移動率：各世代人口総数に対する5年間の社会動態(転入および転出)による人口増減数の率

総人口の推計結果



推計モデル	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
パターン1(社人研推計)	39,814	37,424	35,113	32,732	30,386	28,046	25,636	23,243	20,965	18,820	16,815
パターン2(日本創成会議推計)	39,814	37,424	34,806	32,049	29,312	26,589	23,792				
シミュレーション1(パターン1+出生率上昇)	39,814	37,505	35,328	33,282	31,399	29,484	27,482	25,469	23,550	21,765	20,126
シミュレーション2(シミュレーション1+人口移動ゼロ)	39,814	38,424	36,870	35,464	34,259	33,019	31,680	30,331	29,093	27,980	27,016

いずれの推計モデルにおいても人口減少が継続する推計となっています。

平成 52 年(2040 年)時点における各推計モデルの推計人口において、最も人口減少が抑制されているのはシミュレーション 2 の 31,680 人(平成 22 年(2010 年)比-8,134 人)、最も人口減少が激しいのはパターン 2 の 23,792 人(平成 22 年(2010 年)比-16,022 人)となっており、合計特殊出生率が 2.07 に上昇し、移動数が 0 になることで、人口減少数がおおよそ 1/2 に抑制されています。

2 将来人口に及ぼす影響度の分析

将来人口に対して、自然増減と社会増減がそれぞれ及ぼす影響度について分析を行いました。

合計特殊出生率を 2.07 とするシミュレーション 1 による自然増減の影響度は「3」となっています。

人口移動をゼロ(転入・転出数が同数)とするシミュレーション 2 による社会増減の影響度は「3」となっています。

このことから、自然増減にも社会増減にもバランスよく施策を講じることが人口減少に効果的であると考えられます。

本市における将来人口に及ぼす影響度

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション 1 の 2040 年推計人口=27,482 人 パターン 1 の 2040 年推計人口 =25,636 人 → $27,482/25,636=107\%$	3
社会増減の影響度	シミュレーション 2 の 2040 年推計人口=31,680 人 シミュレーション 1 の 2040 年推計人口=27,482 人 → $31,680/27,482=115\%$	3

※影響度の算出方法は以下のとおりです。

自然増減の影響度:シミュレーション 1 の総人口/パターン 1 の総人口の数値に応じて、以下の 5 段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100～105%、「3」=105～110%、「4」=110～115%、「5」115%以上

社会増減の影響度:シミュレーション 2 の総人口/シミュレーション 1 の総人口の数値に応じて、以下の 5 段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100～110%、「3」=110～120%、「4」=120～130%、「5」130%以上。

※自然増減の影響度が「3」「4」「5」と上がるにつれて、出生率を上昇させる施策に取り組むことが効果的であり、社会増減の影響度が「3」「4」「5」と上がるにつれて、人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少の度合いを抑える上でより効果的であると言える。

出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

千葉県各市町村における将来人口に及ぼす影響度

		自然増減の影響度(2040年)					
		1 100%未満	2 ~105%	3 ~110%	4 ~115%	5 115%以上	総計
社会増減の影響度(2040年)	1 100%未満		白井市	千葉市、船橋市、松戸市、野田市、成田市、佐倉市、習志野市、柏市、八千代市、鴨川市、鎌ヶ谷市、四街道市、袖ヶ浦市、印西市、大網白里市、一宮町、長生村、御宿町	浦安市		20
	2 ~110%		館山市、流山市	市川市、木更津市、茂原市、東金市、旭市、市原市、我孫子市、君津市、富里市、南房総市、いすみ市、酒々井町、長柄町	勝浦市、富津市、神崎町、九十九里町		19
	3 ~120%			匝瑳市、香取市、東庄町、芝山町、横芝光町、白子町	銚子市、八街市、山武市、多古町、睦沢町、長南町、大多喜町、鋸南町		14
	4 ~130%				栄町		1
	5 130%以上						0
	総計	0	3	37	14	0	54

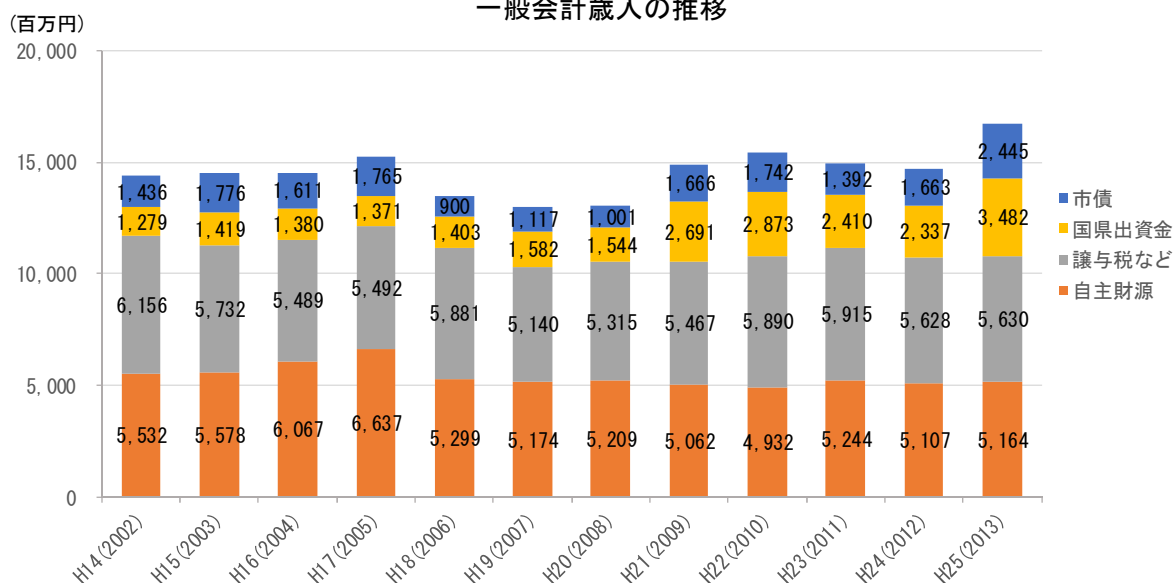
第2 地域に与える影響

1 一般会計歳入歳出の推移

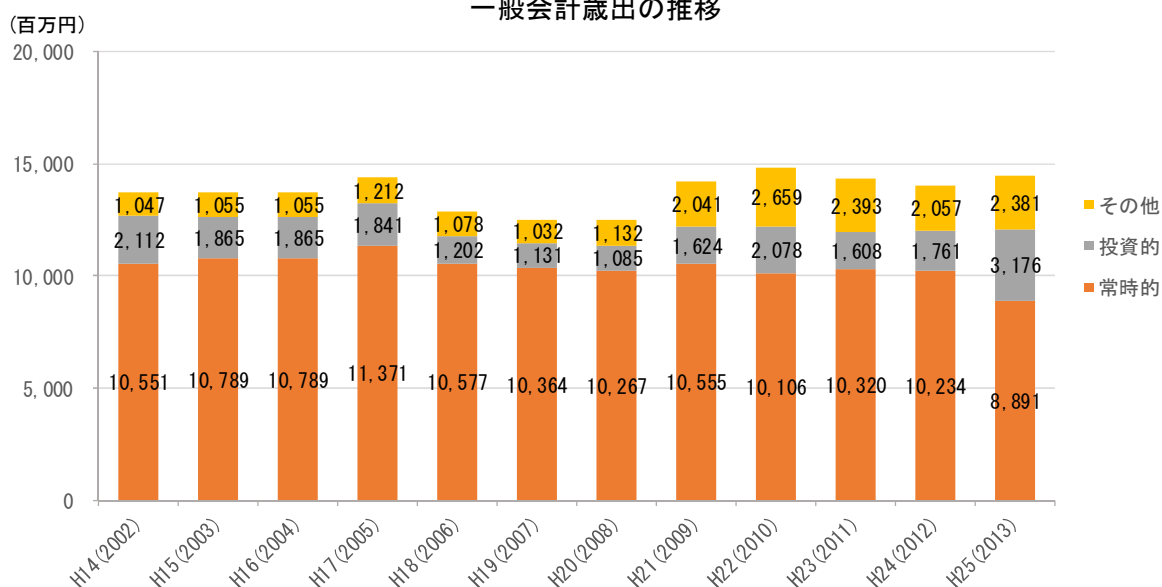
本市の歳入は、国県出資金や市債が増加傾向にあります。人口減少と少子高齢化により、財政状況がより厳しくなり、地域や市民に与える影響が懸念されます。

今後は、財政基盤の強化や事務事業の効率化を進め、公共施設の長寿命化や適正配置を図り、より長期的で有用な市民サービスを将来にわたって地域に提供することが必要です。

一般会計歳入の推移



一般会計歳出の推移

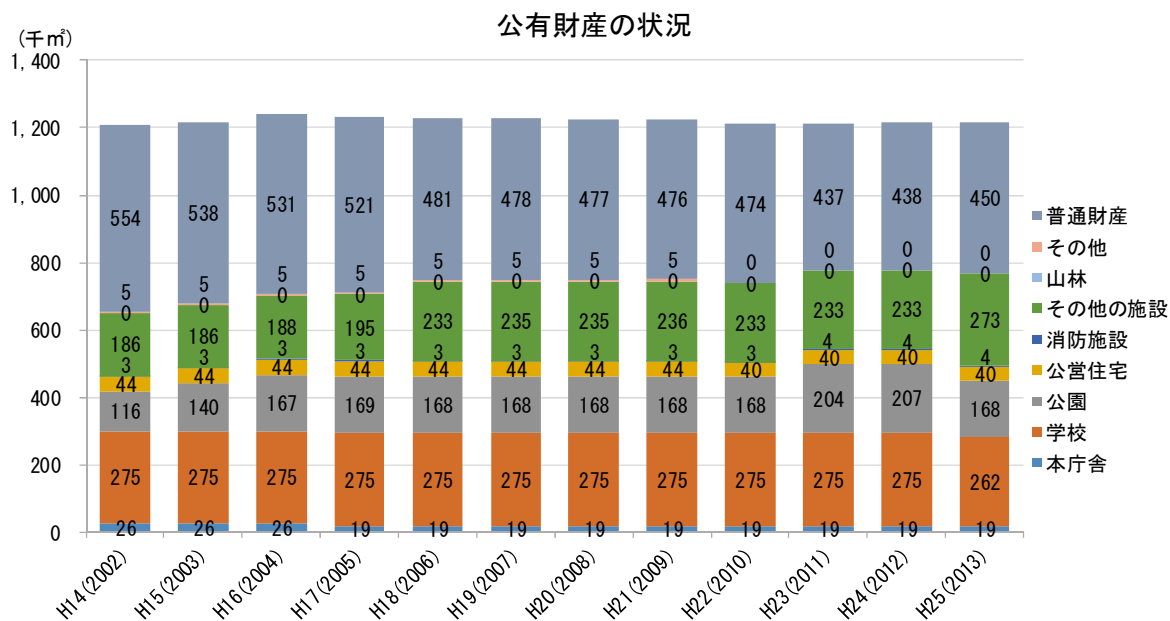


資料：市財政課

2 公有財産への影響

本市の各地域にある公有財産を見ると、学校、公園、その他の施設が半数以上を占めています。

今後の人口減少を踏まえると、将来の地域や市民の負担は増加することが予測されるため、計画的な公有財産の維持管理、適正な配置計画の見直しが課題です。



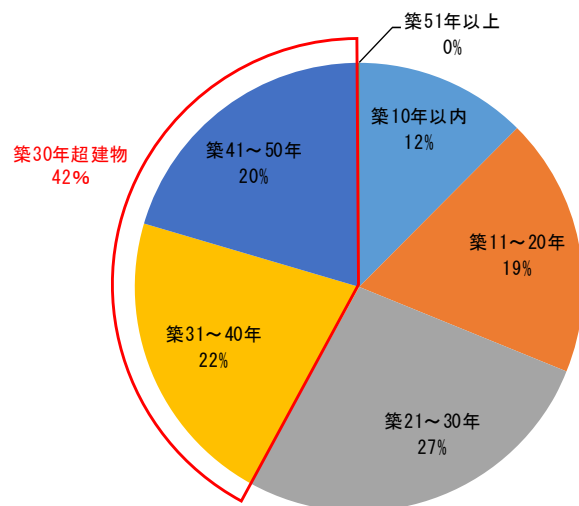
資料：市財政課

3 公共施設の維持管理・更新などへの影響

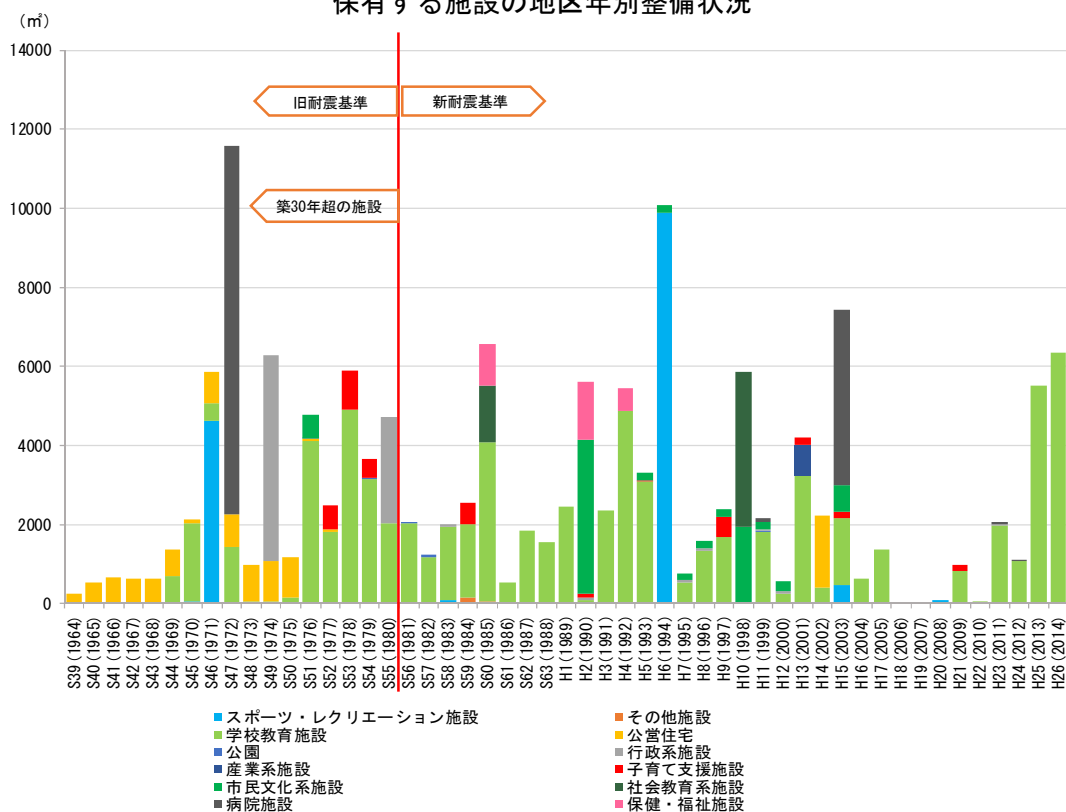
本市の各地域にある公共施設を見ると、築30年超の建物は42%となっており、老朽化が進んでいます。

特に、公営住宅を中心に、旧耐震基準による公共保有施設については、更新が求められますが、今後の人口減少と将来負担を踏まえ、各地域にある公共施設についても、計画的な維持管理、適正な配置計画の見直しが課題です。

築年別床面積割合



保有する施設の地区年別整備状況



第4章 人口の将来展望

第1 将来展望に必要な調査・分析

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

本市における人口の将来展望を示す「匝瑳市人口ビジョン」や基本目標・基本的方向を示す「匝瑳市総合戦略」を策定するにあたり、市民の意見や考え方などを把握し、策定の基礎資料とします。

(2) 概要

調査の概要は以下のとおりです。

	結婚・出産・子育てに関する アンケート調査	転入者・転出者に対する アンケート調査	匝瑳市の高校3年生に対する アンケート調査
調査対象	匝瑳市民のうち、12歳以下の子どもを持つ母親	匝瑳市への転入者・転出者	千葉県立匝瑳高等学校および敬愛大学八日市場高等学校の高校3年生
配布数	1,200人	転入者数 129人 転出者数 136人	千葉県立匝瑳高等学校 319人 敬愛大学八日市場高等学校 168人
回収数	480人	転入者 36人 転出者 37人	千葉県立匝瑳高等学校 301人 敬愛大学八日市場高等学校 157人
回収率	40.0%	転入者 27.9% 転出者 27.2%	千葉県立匝瑳高等学校 94.4% 敬愛大学八日市場高等学校 93.5%
調査方法	調査票を直接郵送、郵送回収	転入・転出届を提出した人へ、窓口で調査票を手渡しして記入を依頼	学校の協力を得て、ホームルームなどでの配布による用紙記入・即時回収
調査時期	H27.9.1～H27.9.15	H27.8.26～H27.10.21	H27.9.7～H27.9.17

(3) 集計上の留意点

- ・「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- ・「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- ・百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、全て小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。また、複数回答の設問では、全ての比率の合計が100%を超えることがあります。
- ・図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。

(4) 調査信頼度

各アンケート調査の信頼度は以下のとおりです。

◆結婚・出産・子育てに関するアンケート調査

本調査の有効回答数(480 票)は、対象となる母集団(匝瑳市民のうち、12 歳以下の子どもを持つ母親 1,807 人)に対し、統計学上で一般的に使用される条件(信頼度 95%、標準誤差 5%)を想定した標本数(323 票)を上回ることから、調査結果は十分に信頼できるとみなすことができます。

◆転入者・転出者に対するアンケート調査

本調査は、調査時期(H27. 8. 26～H27. 10. 21)における転入者・転出者に対するアンケート調査となっています。統計学上の適切性は判断できませんが、傾向を把握するために実施しています。

◆匝瑳市の高校 3 年生に対するアンケート調査

本調査は、本市の高校 3 年生をほぼ全員網羅しているため、統計学上の調査結果は十分に信頼できるとみなすことができます。

■社会調査信頼度 95%の計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)} \right)^2 \times \frac{N-1}{P(100-P)} + 1}$$

n : 必要なサンプル数

N : 母集団の人数

ε : 信頼度の誤差範囲=5

P : 母比率=50 (50%のときの最大のサンプル数とするため)

K(α): 1.96 (信頼度 95%を基準とするため)

(5) 整理の視点

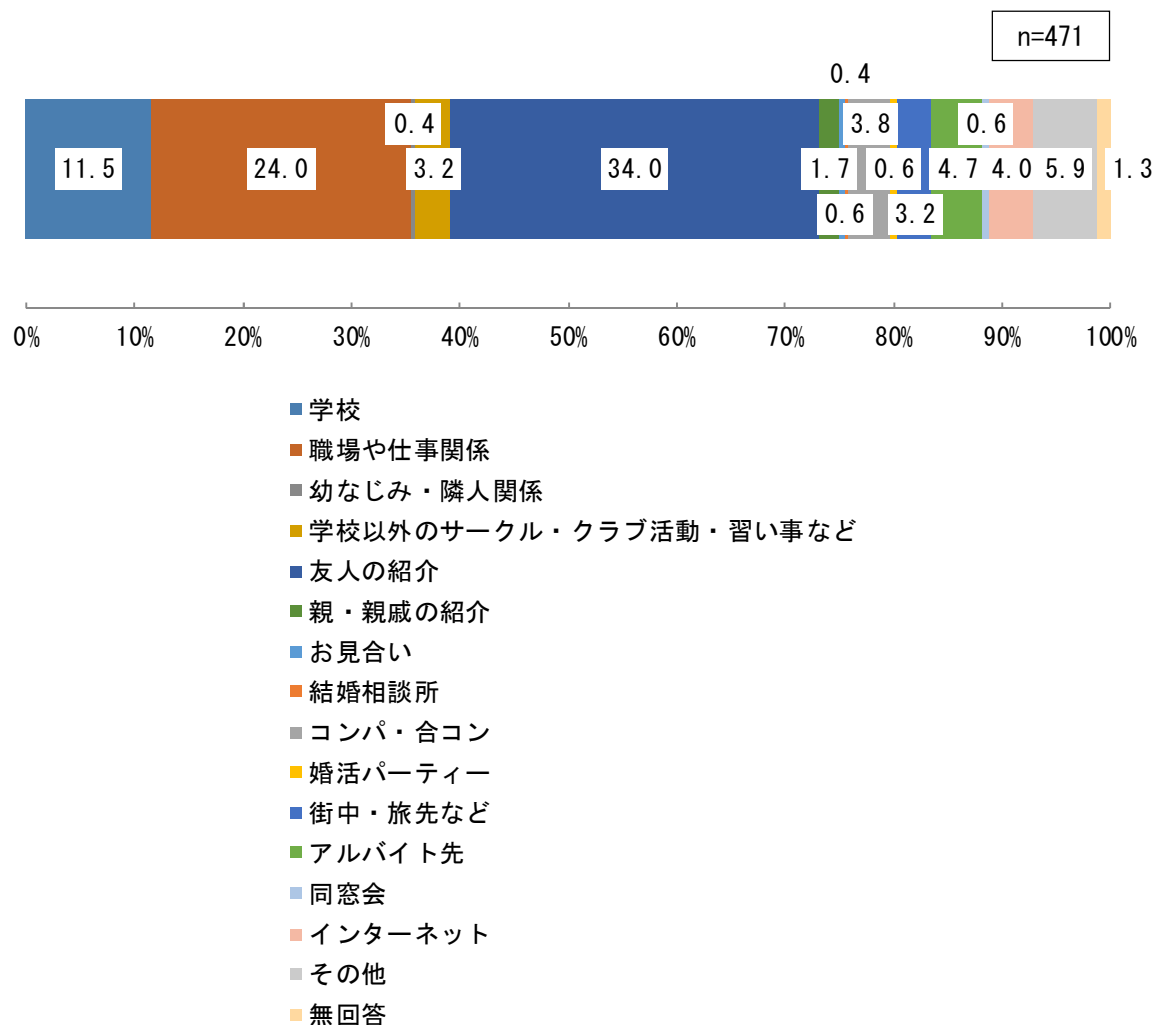
各アンケート調査結果のうち、人口の将来展望に主に関連するデータを抽出し、本文に整理するものとします。

なお、各アンケート調査結果(全体)および調査票は、資料編に掲載しています。

2 主な結婚・出産・子育てに関するアンケート調査結果

(1) 結婚相手と知り合ったきっかけ

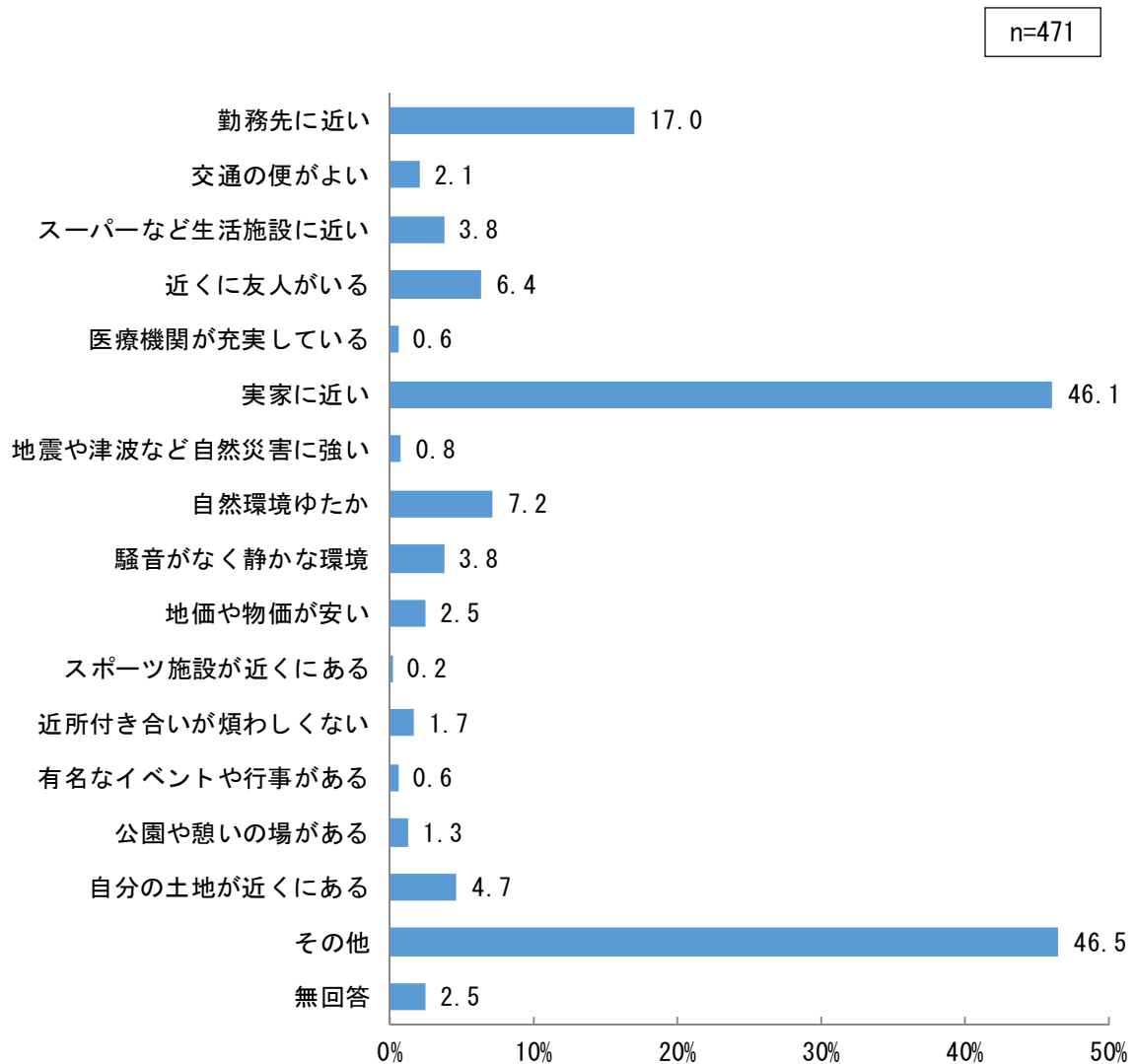
既婚者のうち、知り合ったきっかけについては、「友人の紹介」が 34.0%と最も多く、「職場や仕事関係」が 24.0%、「学校」が 11.5%と多くなっています。「婚活パーティー」が 0.6%、「インターネット」が 4.0%となっています。



※ 「その他」 主な内訳・・・結婚式 0.8%、趣味 0.8%

(2) 結婚後、市内に住むことを選んだ理由

結婚後の市内への居住理由については、「実家に近い」が46.1%と最も多く、次に「勤務先に近い」が17.0%と多くなっています。「その他」が46.5%と多くなっていますが、その内訳は、「親と同居するため」「家を所有している」「市内に実家がある」などの回答が多く、本市では、実家(親)との関係を重要視している世帯が多いと考えられます。

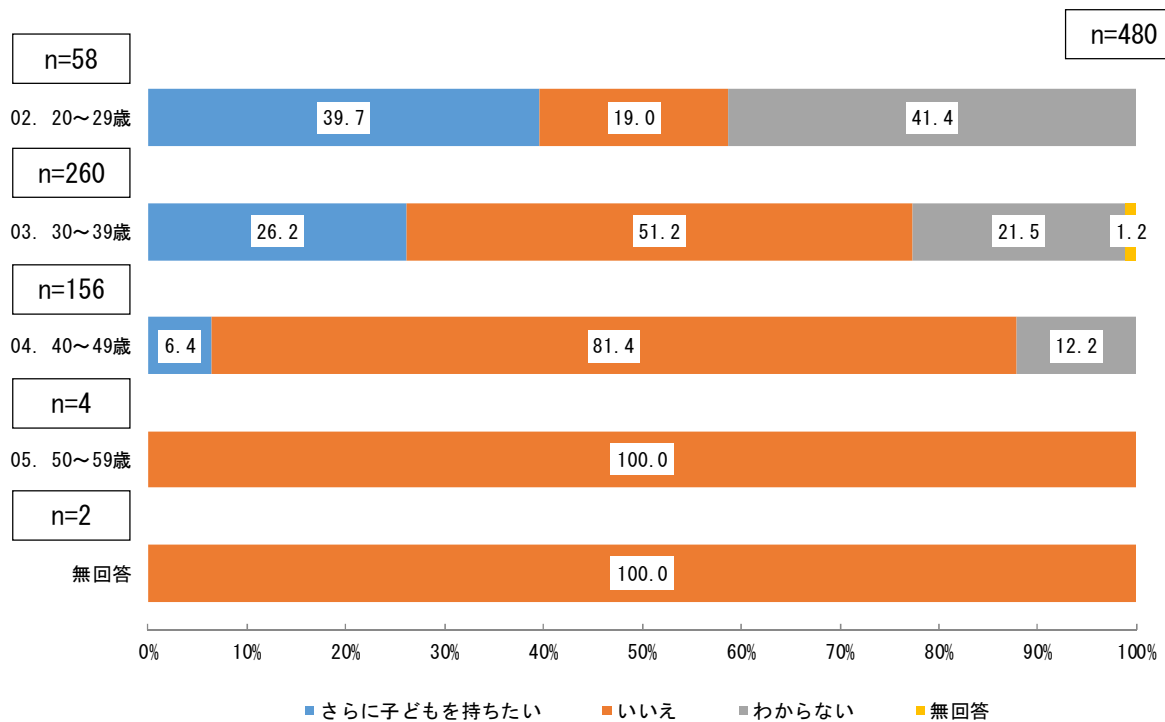


※ 「その他」 主な内訳・・・親と同居 8.7%、家を所有 4.9%、市内に実家 4.9%、跡継ぎ 4.2%

(3) 年齢と子どもを持ちたい意欲の関係

年齢別に見ると、年齢が低ければ低いほど、「さらに子どもを持ちたい」母親の割合が高く、年齢が高ければ高いほど、「さらに子どもを持ちたくない」母親の割合が高いことが明らかとなりました。

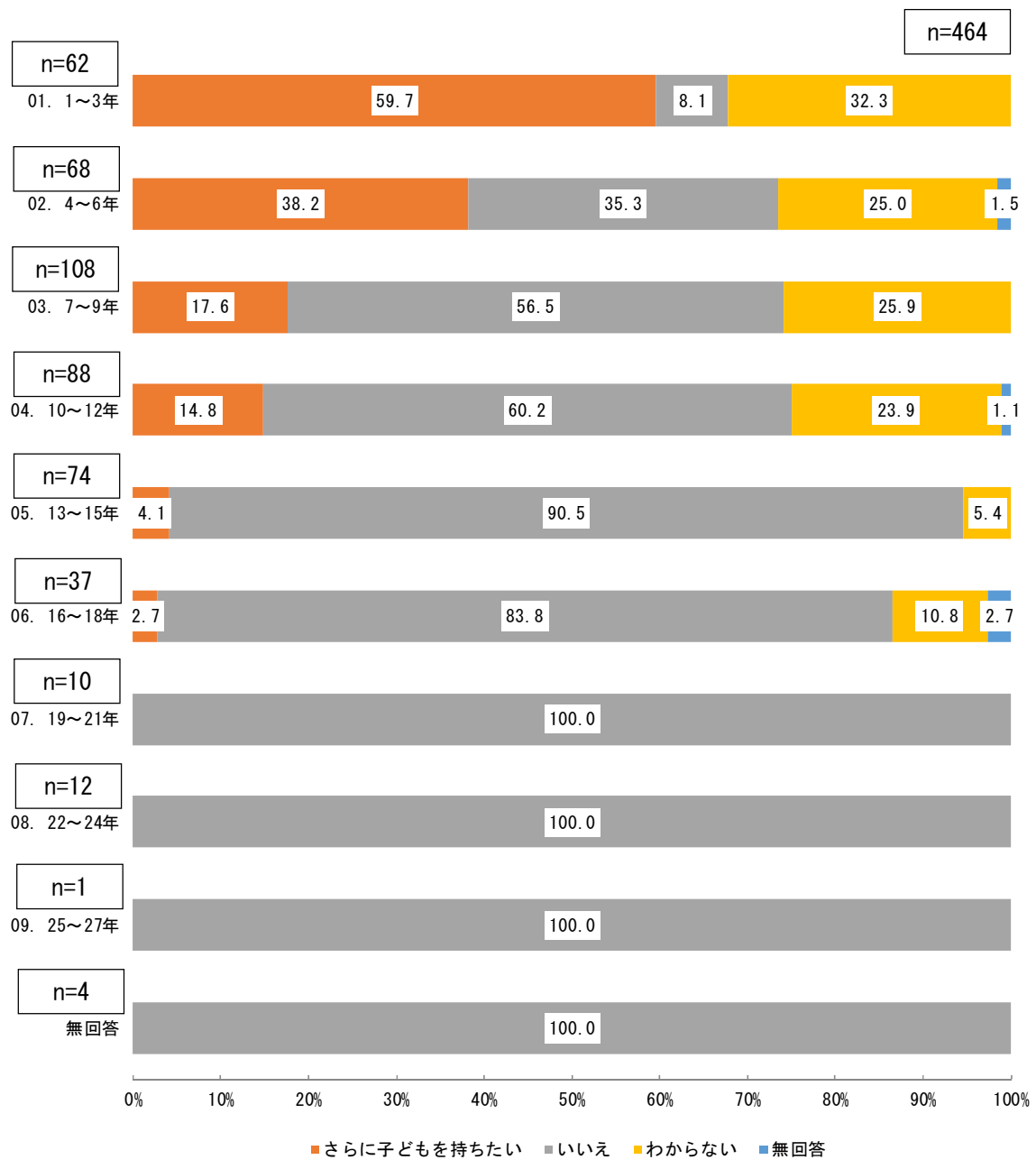
このことから、年齢が低い早期に結婚をするための、社会の仕組みや支援が重要であると考えられます。



(4) 結婚歴と子どもを持ちたい意欲の関係

結婚歴別に見ると、結婚歴が短ければ短いほど、「さらに子どもを持ちたい」母親の割合が高く、結婚歴が長ければ長いほど、「さらに子どもを持ちたくない」母親の割合が高いことが明らかとなりました。

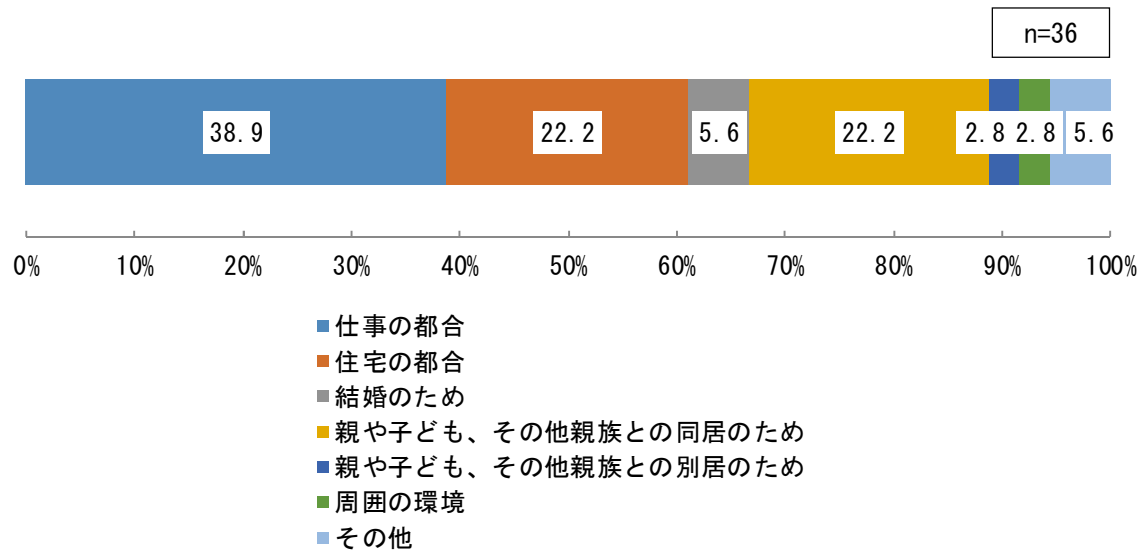
このことから、結婚歴が短い早期に出産を行うための、社会の仕組みや支援が重要であると考えられます。



3 主な転入者・転出者に対するアンケート調査結果

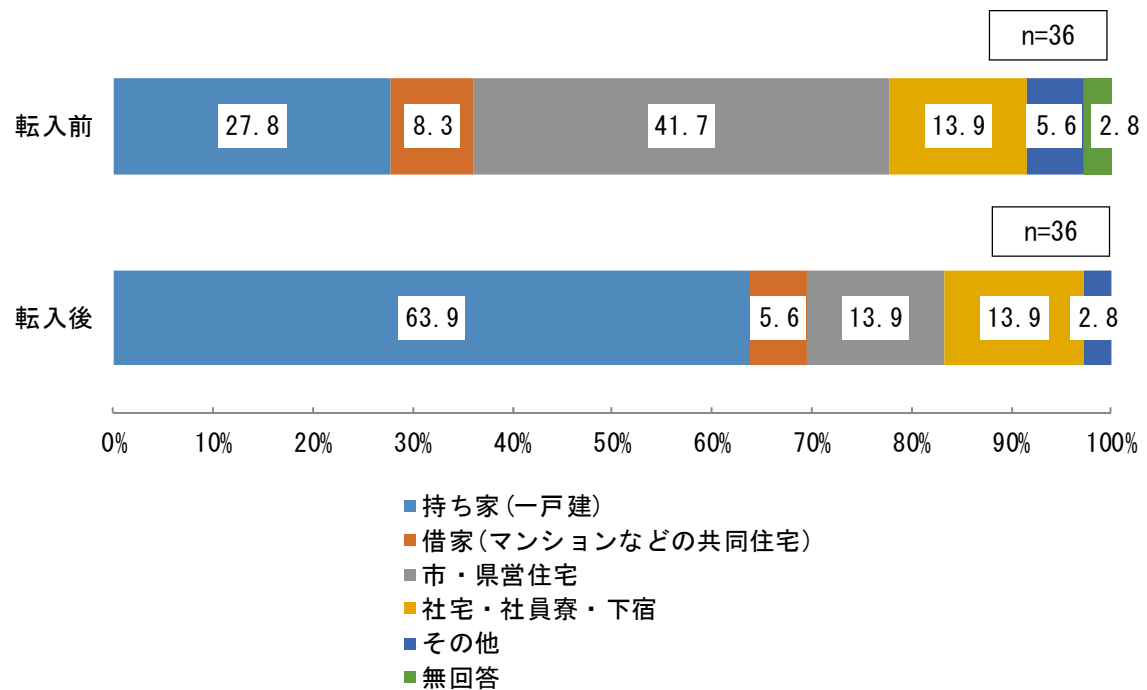
(1) 転入の要因

「仕事の都合」が38.9%と最も多く、次に「住宅の都合」「親や子ども、その他親族との同居のため」が22.2%と多くなっています。



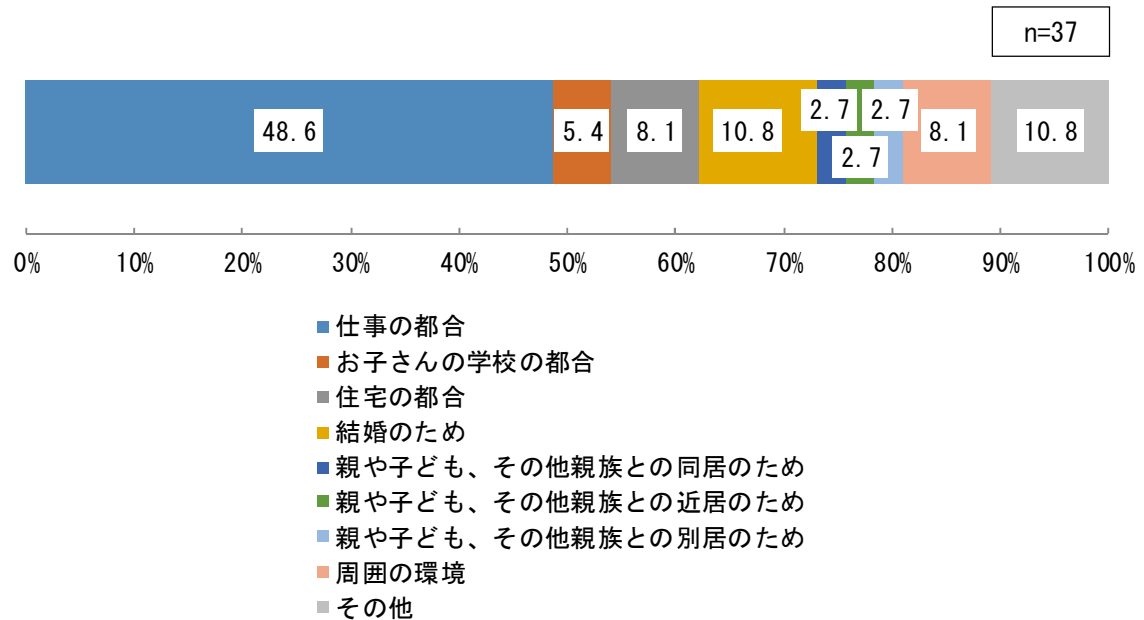
(2) 転入前後の住まいの状況

転入前は「市・県営住宅」が41.7%と最も多く、転入後は「持ち家(一戸建)」が63.9%と最も多くなっています。



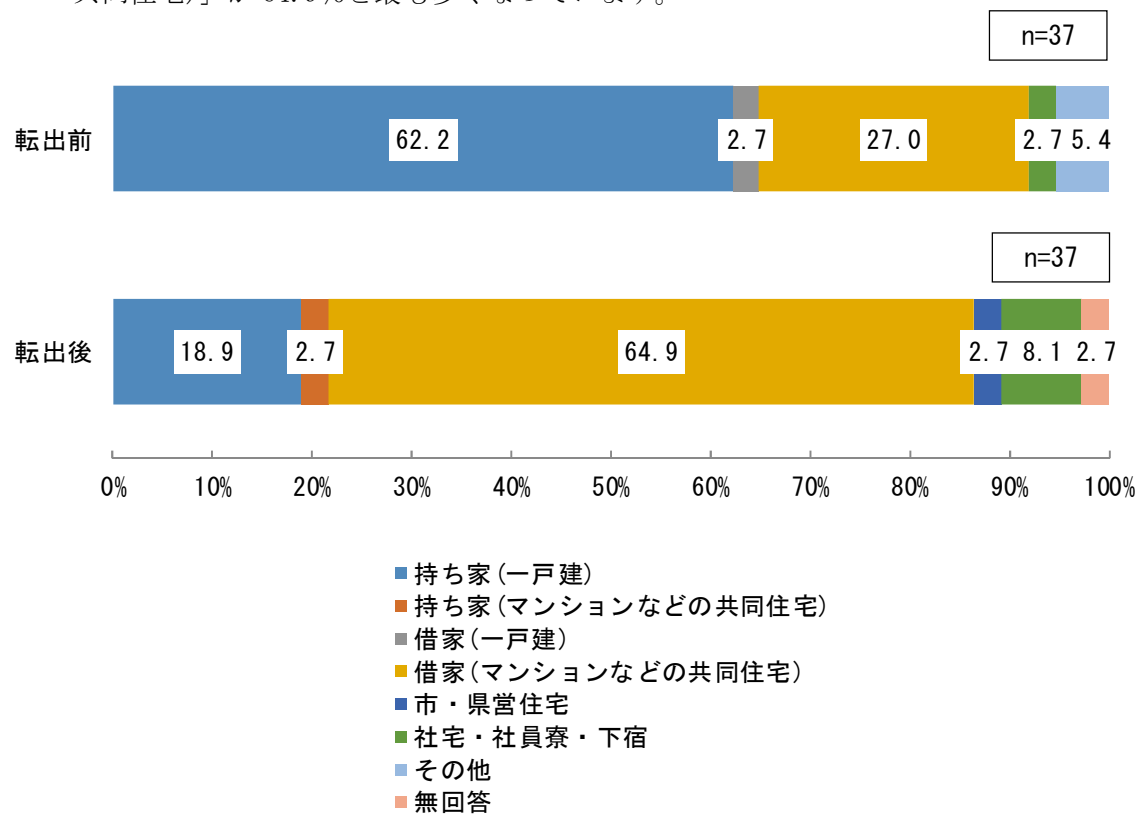
(3) 転出の要因

「仕事の都合」が48.6%と最も多く、次に「結婚のため」が10.8%と多くなっています。



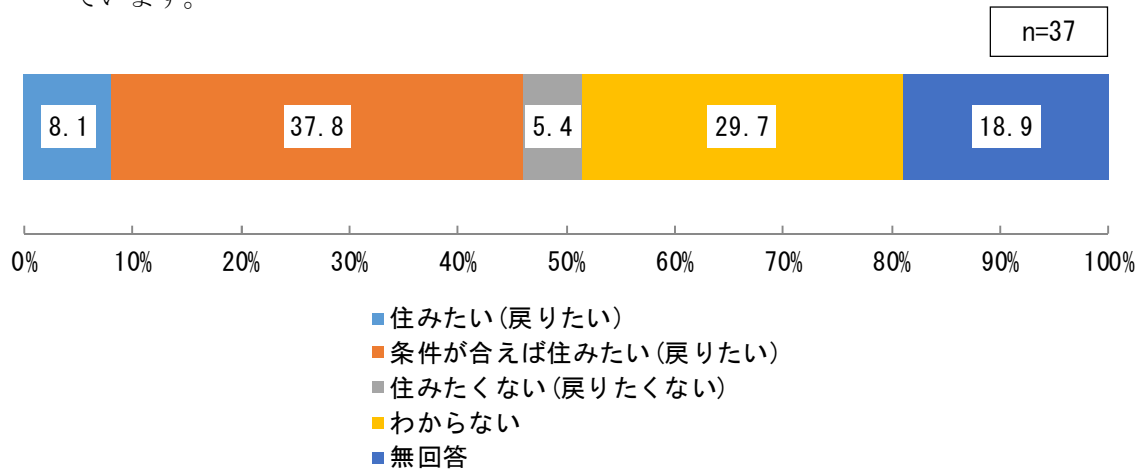
(4) 転出前後の住まいの状況

転出前は「持ち家(一戸建)」が62.2%と最も多く、転出後は「借家(マンションなどの共同住宅)」が64.9%と最も多くなっています。



(5) 転出者の今後の本市での居住意向

「条件が合えば住みたい(戻りたい)」が37.8%と最も多く、「住みたい(戻りたい)」の8.1%と合わせると45.9%となっています。その他、「わからない」が29.7%と多くなっています。



参考: 千葉県 人口減少・少子高齢化に対応した施策検討に係るアンケート調査

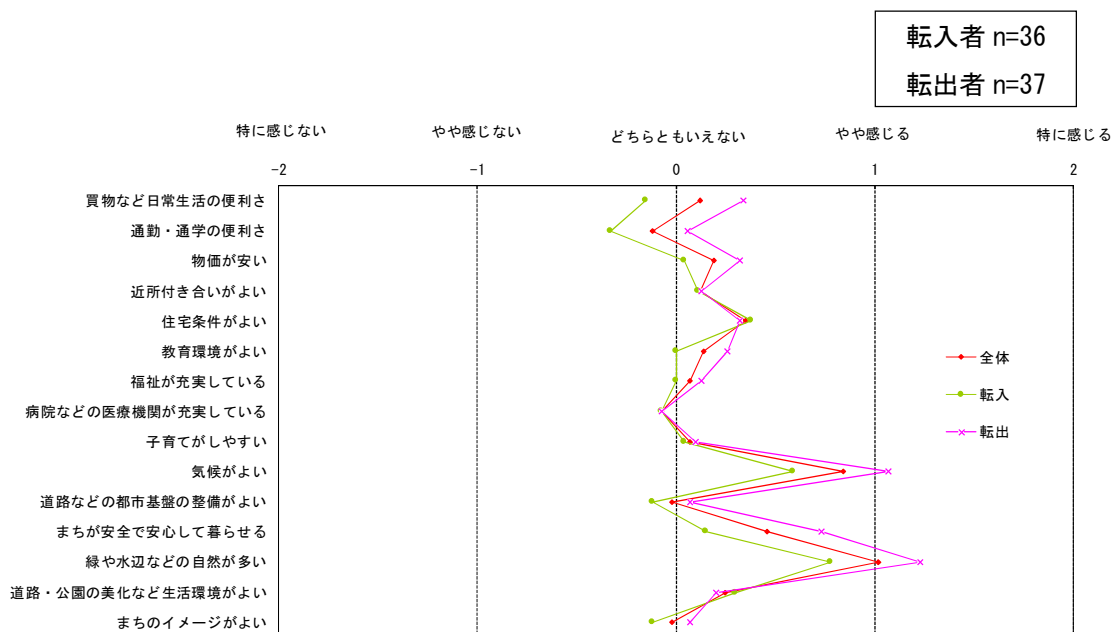
・ 千葉県から転出した女性のうち、千葉県への再居住意向を持つ人の割合

千葉県にふたたび「とても住みたい」23.7%

千葉県にふたたび「やや住みたい」29.4% 計 53.1%

(6) 転入者と転出者の評価を比較

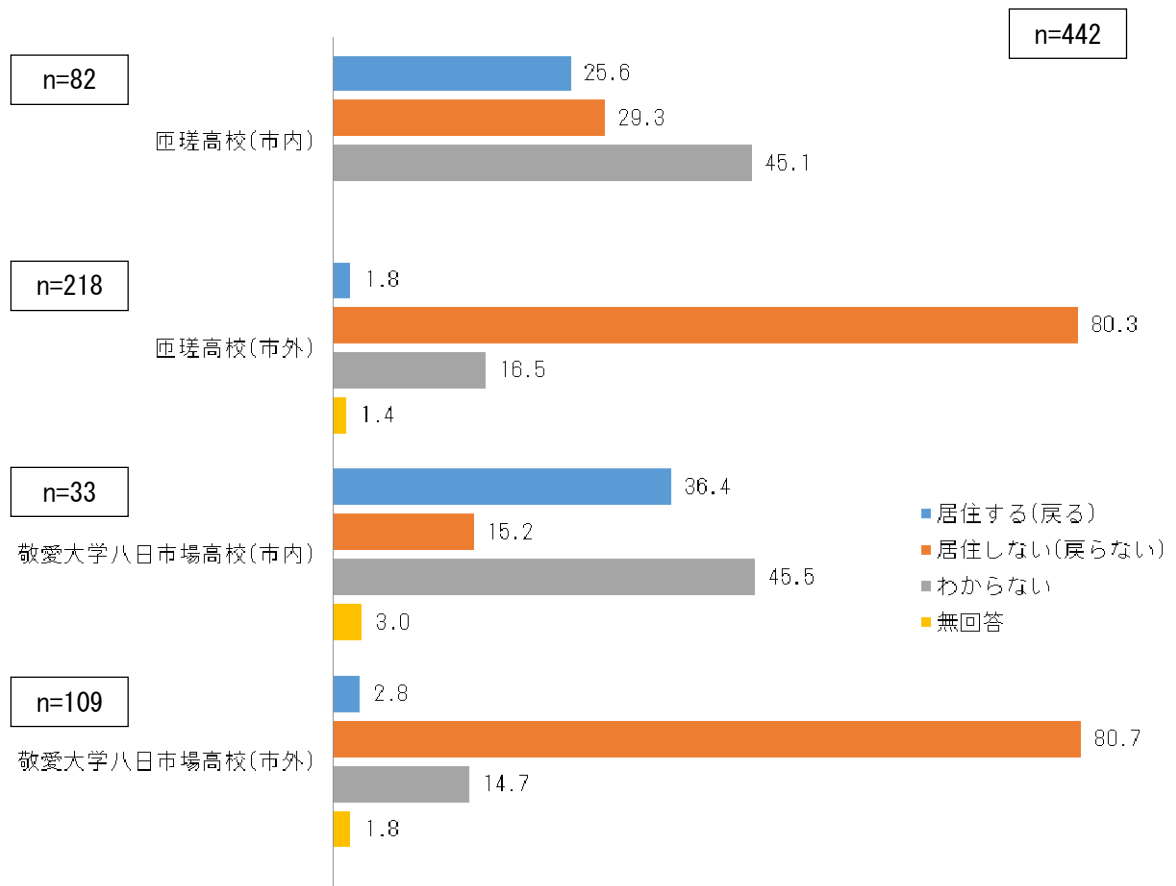
転入者と転出者の評価を比較すると、概ね転出者の評価が転入者の評価より高くなる傾向があります。



4 主な高校3年生に対するアンケート調査結果

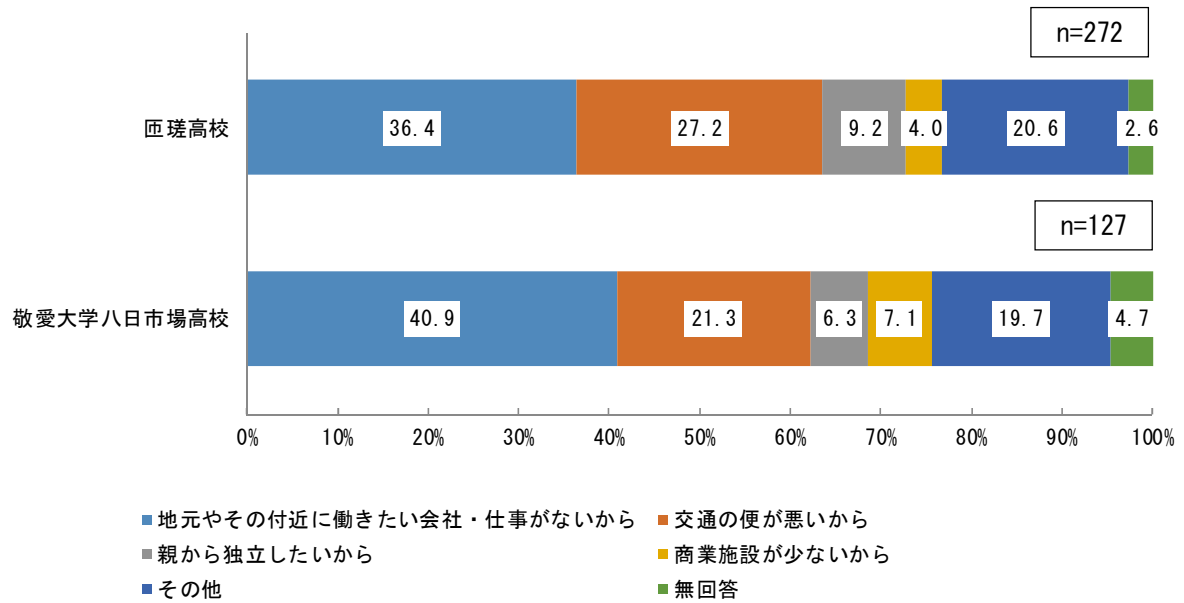
(1) 卒業後の本市への居住意向

本市内外の居住別に見ると、市外に居住する場合、匝瑳高校も敬愛大学八日市場高校も、「居住しない(戻らない)」が8割以上と最も多くなっています。一方、市内に居住する場合でも、匝瑳高校では「居住しない(戻らない)」が29.3%となっており、敬愛大学八日市場高校では「居住しない(戻らない)」が15.2%となっています。



(2) 居住しない(戻らない)理由

前問で、卒業後本市に「居住しない(戻らない)」、「わからない」を選んだ回答者の居住しない(戻らない)理由は、両校ともに「地元や付近に働きたい会社がない」や「交通の便が悪い」が多くなっています。



5 主なワークショップ実施結果

(1) 目的

匠瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議にてより深く意見を伺うため、ワークショップを実施しました。

(2) 概要

ワークショップの概要は以下のとおりです。

日時	平成 27 年 9 月 16 日(水) 午後 2 時～午後 4 時
場所	匠瑳市役所議会棟第 3 会議室
参加者	匠瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議 委員長 鎌田 元弘 副委員長 椎名 嘉寛 ほか、委員 10 人 ※また、若者の柔軟で斬新な発想と外部目線の新鮮な意見を取り入れるため、千葉工業大学の学生 2 人、子育てに携わる方の率直な意見を伺うため、匠瑳市つどいの広場から利用者と子育てアドバイザーそれぞれ 1 人、オブザーバーとして参加。
実施概要	事前に参加者を「雇用創出」「移住・定住促進」「結婚・出産・子育て」の 3 グループに分け、テーマごとに事前検討シートの記入を依頼。 当日はファシリテーターの司会進行支援に基づき、近年の本市の動向について説明を行い、グループごとに本市の強みや弱み、今後の取組案について、ワークショップ形式の意見交換を行い、発表を実施。

(3) 実施結果の概要

ワークショップの実施結果の概要は以下のとおりです。

雇用創出	
強み	・農用地が広大で水源に恵まれており、農業や造園業などが盛んである ・周辺に新鮮な魚、野菜、絶品のお米、おいしい肉がある ・植木の技術は日本一で、地場産業であり、輸出も伸びている ・工業団地があり、誘致を進め、工業の振興を図っている
弱み	・農業後継者が不足しており、人材の確保ができない ・植木産業の認知度が低い(日本有数の植木のまちと知らない人が多い) ・会社(職場)が少ないので働く場がない ・観光産業や宿泊施設が少ない
今後の取組案	・転入者が新規就農しやすいようにする(家業を継ぐことが困難な場合) ・植木、造園業の更なる成長と雇用創出に向けて、輸出振興に取り組む ・地元高校から入社するケースが少なく、もっと企業を魅力的に見せる必要がある ・情報発信を若年世代に任せてやってみる(新しい発想)

移住・定住促進	
強み	・ 自然環境(海、緑)に恵まれている ・ 恵まれた自然条件のなかで、豊かな生活に欠かせない農業、漁業、畜産などがバランスよく調和している ・ 遠浅の九十九里海岸に面して海が近い ・ 女みこしが有名
弱み	・ 全てに平均的で特長がない(突出したものがない) ・ 雇用がない(産業がない)→移住・定住しない(人口減)→税収がない→社会福祉の衰退という悪循環 ・ 集客施設設備がない ・ 宿泊するところがない(特にホテル)
今後の取組案	・ 弱みを強みに変えてオリジナルな自立したまちを構築する ・ 6次産業化で地域内経済を循環させ、雇用を促進する(担い手も育成する) ・ 九十九里ホームを中核とした福祉都市づくり ・ 老親介護のため、家族と一緒に匝瑳市に移住することにより、安心な介護を受けることができる仕組みづくり

結婚・出産・子育て	
強み	・ 婚活の支援事業が実施されている ・ 敷地内の同居があればよく、2世代が近くにいるだけで助かる ・ 出産費用が都心に比べ少ない ・ 北は台地で里山や飯高檀林などがあり、全体としてバランス良く、家族で楽しめる場や心を癒してくれる自然豊かな環境がある
弱み	・ 産婦人科の病院が少ない ・ 1人目は出産後、商品券がもらえたが、2～3人目はなかった ・ 所得税に関係なく母子手当の支給がない ・ プール、公園(じゃぶじゃぶ池)、室内遊びの場が乏しい
今後の取組案	・ 安心できる出産・小児医療体制の充実 ・ 年5回実施している婚活にもっと参加してもらえるよう関係機関、関係団体、企業、事業所などをお願いする ・ 企業に対し職場結婚を推奨し、結婚後も出産後も処遇を維持するよう働きかけをする ・ 広く周知できるように、市民に対する施策の十分な広報を行う

第2 目指すべき将来の方向の検討

1 現状と課題の整理

日本が人口減少社会に入り、本市においては平成7年(1995年)国勢調査での人口、43,357人がピークであり、平成22年(2010年)国勢調査では39,814人となっています。その後の推計では、平成72年(2060年)には16,815人まで減少すると予測されています(社人研推計)。

本市の出生数・死亡数は、平成元年(1989年)まで、出生が死亡を上回る「自然増」でしたが、その後、死亡が出生を上回る「自然減」の状況に変わり、「自然減」が加速しています。本市の平成25年(2013年)の合計特殊出生率は、1.39となっており、全国の1.43よりは低いものの、千葉県の1.33よりは高くなっています。

本市における昭和55年(1980年)から平成25年(2013年)にかけての女性の年齢別出生数の推移を見ると、20～24歳が101人から21人、25～29歳が243人から78人と、いずれも減少している一方で、30～34歳は84人から93人、35～39歳は12人から54人と増加しています。

本市の転入数は、平成3年(1991年)から平成26年(2014年)にかけて1,595人から783人へと減少しており、転出数においても、平成5年(1993年)から平成26年(2014年)にかけて、1,413人から894人へと減少しています。一方、社会増減を見ると、平成14年(2002年)以降「転出超過」となり、人口が流出していることがわかります。特に、「15～19歳から20～24歳になるとき」に-553人と大幅な転出超過となっており、進学のために市外へ転出することによる影響と考えられます。

以上のことから、現在、本市では人口減少の進行に、出産年齢の上昇、若者の流出が加わることで、更なる人口の減少を招く「縮小スパイラル」に陥るリスクに直面しており、人口減少への対応は待ったなしの課題と言えます。

2 基本的視点

現状と課題を踏まえ、本市にとって的確な施策を展開し、人口減少に歯止めをかけるためには、今後、次の3つの基本的視点を共有することが重要となります。

【基本的視点 1】

市内外から魅力を感じる住環境や雇用環境を実現

市内外から本市には魅力があり、住みたい、住み続けたいと思われるように、住環境や雇用環境をつくることが重要です。自らの希望に基づき、本市に住みたい希望を実現させる取組を進めていくことが必要です。

【基本的視点 2】

「人の流れ」を変え、人口流出に歯止めをかける

人口減少の最大要因は若年層の流出であり、近い将来に本市の運営が困難となるおそれがあります。転出などの「人の流れ」を変え、人口流出に歯止めをかけることが必要です。

【基本的視点 3】

「出生率向上」に向けた幅広い施策の集中的な展開

結婚・出産・子育てにおいて、出生率を向上させるため、本市に住み、結婚し、子どもを産み育てたい人の希望を阻害する要因の除去に取り組むことが必要です。そのため、若者が結婚し、子どもを産み育て、教育を受けさせたいと思う環境づくりを進め、全ての施策を集中させることが必要です。

3 目指すべき将来の方向

若者が魅力を感じる雇用環境や住環境を創出・展開し、結婚・出産・子育ての希望を実現することにより、深刻な人口減少を抑制するため、以下の4つの方向を提示します。

(1) 若者世代の雇用の創出

進学後に本市に帰ってくる若者を増やすため、産業の振興に注力し、質の高い雇用環境を創出します。また、本市の高校が、市外の大学、本市の企業と連携し、若い世代の地元就職率を高めることを目指します。

(2) 移住・定住促進の展開

地域外からの転入を促進し、地域外への転出を抑制するため、本市の魅力アップを図り、住環境の向上に取り組みます。また、UIJ ターンに対する情報発信に注力し、本市で暮らしたいという希望を実現します。

(3) 結婚・出産・子育ての希望の実現

結婚・出産・子育てを地域で支援する仕組みを構築し、市民の希望を実現できる施策の充実を図ります。また、ワークライフバランスの充実を図り、仕事と家庭の両立が実現できる社会を目指します。

(4) 多様な地域形成

時代にあった地域づくりを進め、農村地域での小さな拠点づくり、周辺都市との地域連携を進め、住みよい地域づくりにより住み慣れた地域で暮らし続けるための施策を展開します。

第3 人口の将来展望

「将来人口の推計と分析」で行った本市の将来人口については、いずれの設定条件においても、人口減少が今後も継続することが明らかになっています。ただし、合計特殊出生率および純移動率などの条件が改善されることで人口減少の進行が抑制されることから、ここでは、人口減少を一定水準に抑制する上で、達成可能な合計特殊出生率および移動率について目標値を設定し、独自推計により人口の将来展望を行います。

1 設定条件

(1) 合計特殊出生率

合計特殊出生率については、千葉県の設定値に準じ、平成 42 年(2030 年)に 1.80、平成 52 年(2040 年)以降 2.07 に上昇すると仮定します。

(2) 純移動率

純移動率については、社人研推計の純移動率を 40%改善し、人口の社会減を緩和させる仮定とします。

2 人口の将来展望

(1) 総人口

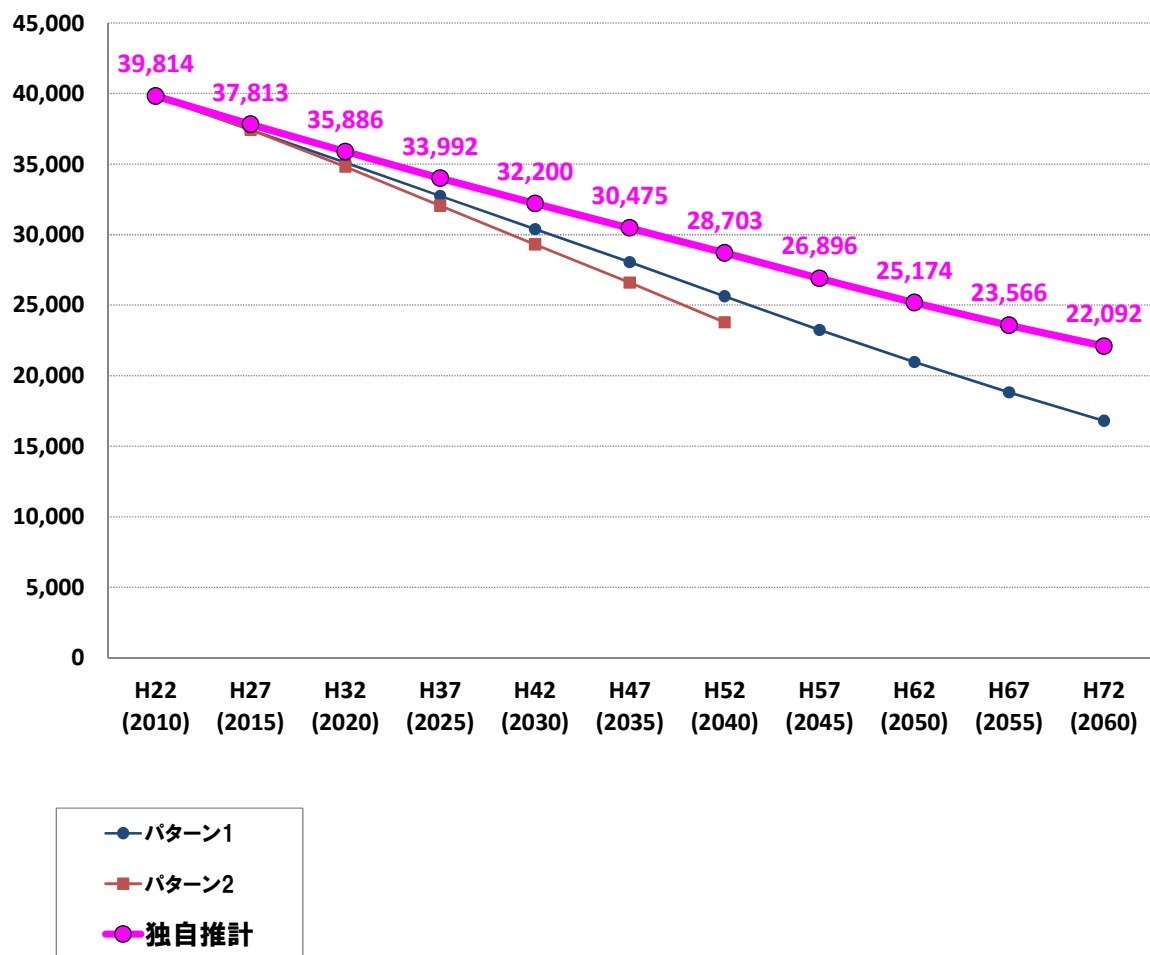
総人口は平成 52 年(2040 年)で 28,703 人となり、社人研の推計値(パターン 1)と比較して 3,067 人、日本創成会議の推計値(パターン 2)と比較して 4,911 人多くなっています。平成 72 年(2060 年)時点で 22,092 人となり、社人研の推計値(パターン 1)と比較して 5,277 人多くなっています。

平成 72 年(2060 年)の人口目標 22,000 人以上を目指します。

総人口比較 (基本推計による人口推計と独自推計による人口将来展望)

推計モデル		内容	平成 52 年 (2040 年) の 人口(人)	平成 72 年 (2060 年) の 人口(人)
基本推計	パターン 1	全国の移動率が今後平成 27 年(2015 年)～平成 32 年(2020 年)までに 1/2 に縮小(社人研)	25,636	16,815
	パターン 2	全国の総移動数が、平成 22 年(2010 年)～平成 27 年(2015 年)の推計値と概ね同水準で推移(日本創成会議)	23,792	－
独自推計		<u><合計特殊出生率></u> <u>定率に上昇し平成 42 年(2030 年)に 1.80、平成 52 年(2040 年)に 2.07 とする。</u> <u><純移動率></u> <u>本市の人口を維持するために、社人研の人口推計モデル(パターン 1)の純移動率を、40%改善した値を純移動率とする。</u>	<u>28,703</u>	<u>22,092</u>

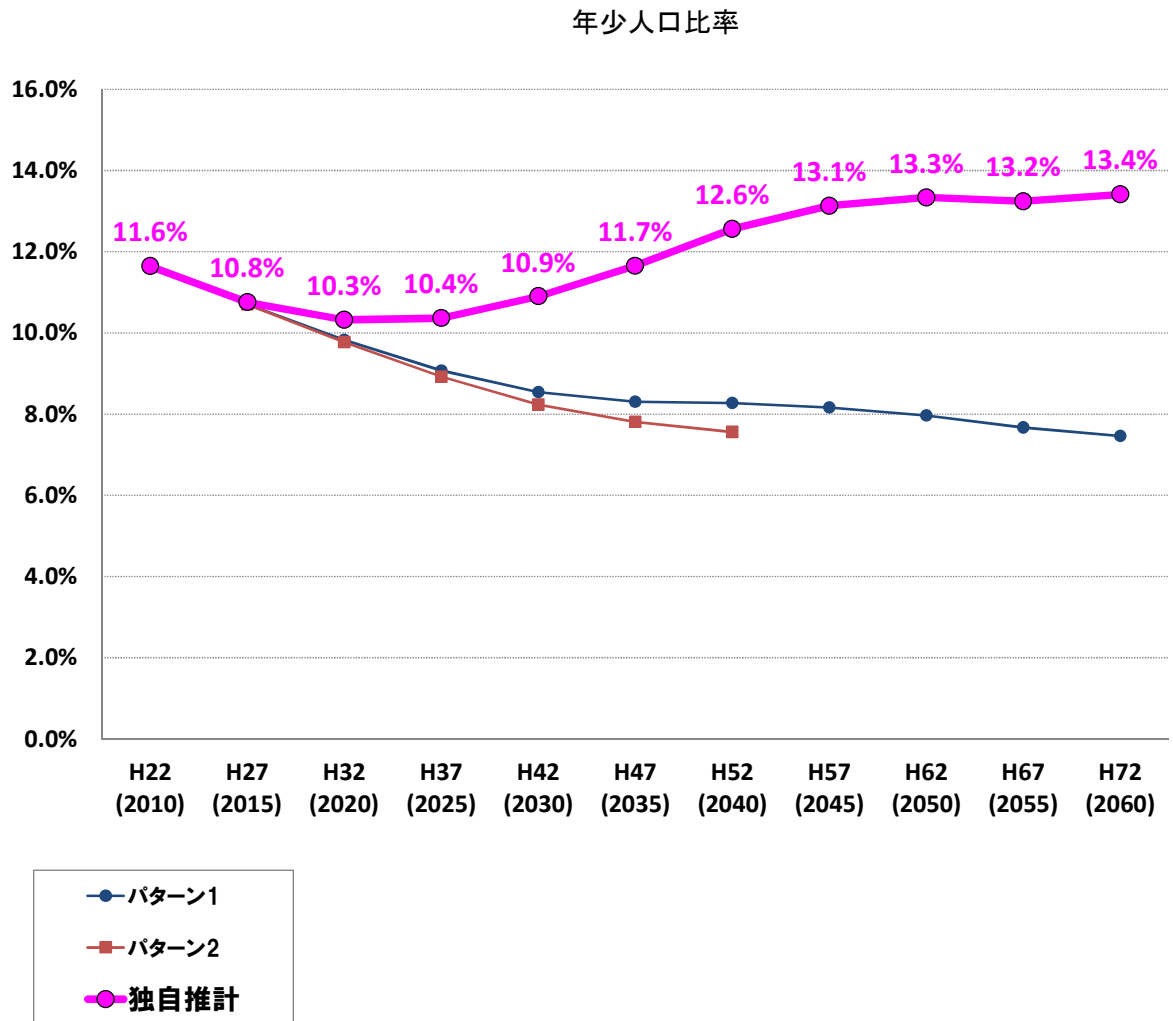
総人口



推計モデル	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
パターン1	39,814	37,424	35,113	32,732	30,386	28,046	25,636	23,243	20,965	18,820	16,815
パターン2	39,814	37,424	34,806	32,049	29,312	26,589	23,792				
独自推計	39,814	37,813	35,886	33,992	32,200	30,475	28,703	26,896	25,174	23,566	22,092

(2) 年齢3区分別人口比率の推移

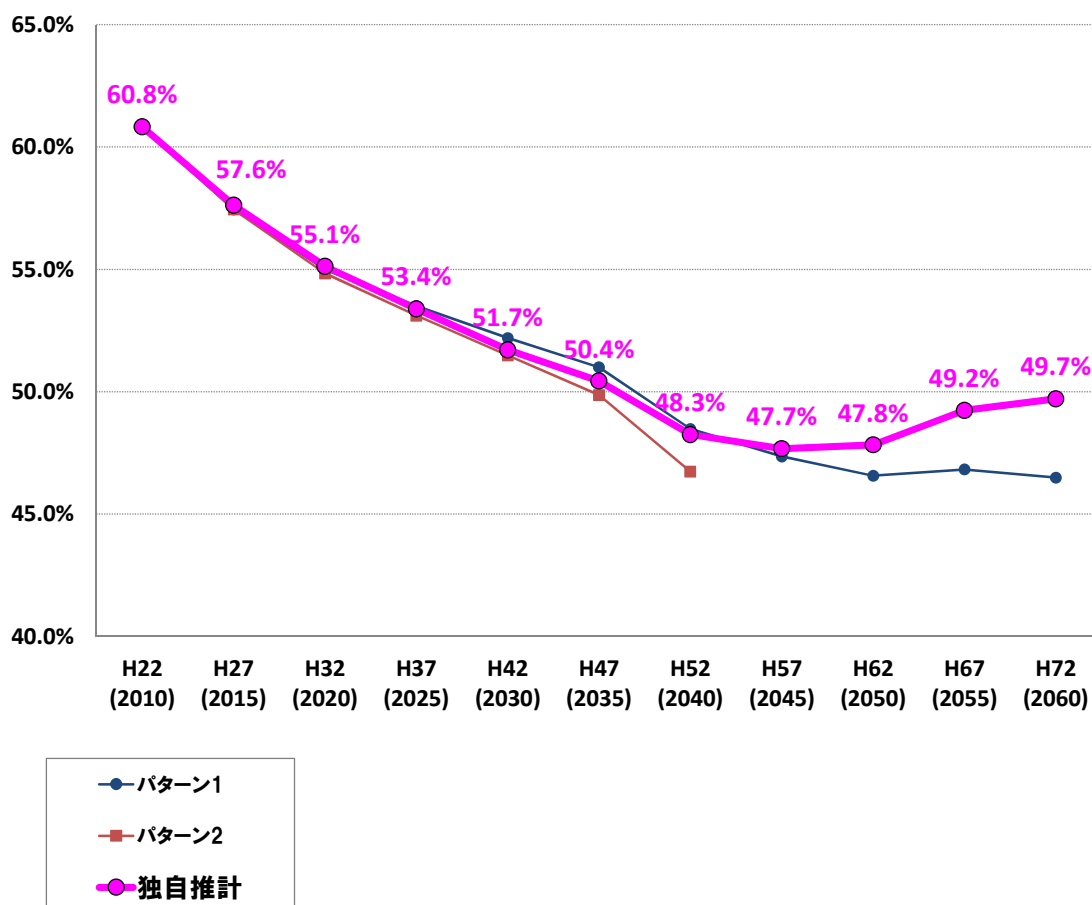
年少人口については平成32年(2020年)に10.3%まで減少した後、増加に転じ、平成52年(2040年)には12.6%、平成72年(2060年)には13.4%になります。パターン1やパターン2より大幅に多くなっています。



推計モデル	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
パターン1	11.6%	10.7%	9.8%	9.1%	8.5%	8.3%	8.3%	8.2%	8.0%	7.7%	7.5%
パターン2	11.6%	10.7%	9.8%	8.9%	8.2%	7.8%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
独自推計	11.6%	10.8%	10.3%	10.4%	10.9%	11.7%	12.6%	13.1%	13.3%	13.2%	13.4%

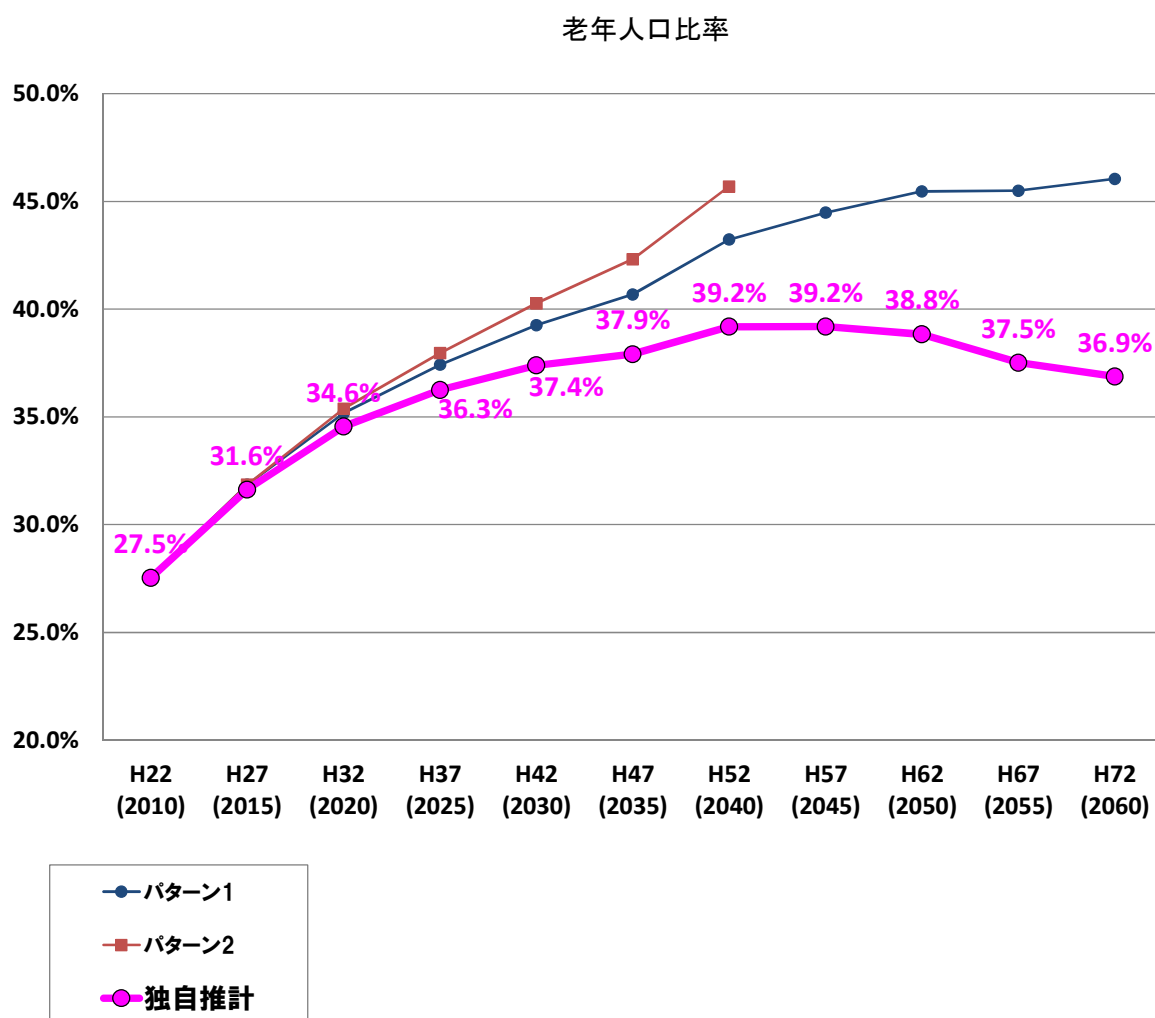
生産年齢人口については、平成 57 年(2045 年)に 47.7%まで減少した後、増加に転じ、平成 72 年(2060 年)に 49.7%になります。いずれの年においてもパターン 2 より多く、平成 57 年(2045 年)以降では、パターン 1 より多くなっています。

生産年齢人口比率



推計モデル	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
パターン1	60.8%	57.4%	55.0%	53.5%	52.2%	51.0%	48.5%	47.4%	46.6%	46.8%	46.5%
パターン2	60.8%	57.4%	54.8%	53.1%	51.5%	49.9%	46.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
独自推計	60.8%	57.6%	55.1%	53.4%	51.7%	50.4%	48.3%	47.7%	47.8%	49.2%	49.7%

老年人口については、平成 52 年(2040 年)に 39.2%まで増加した後、減少に転じ、平成 72 年(2060 年)に 36.9%になります。パターン 1 やパターン 2 より少なくなっています。



推計モデル	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
パターン1	27.5%	31.9%	35.2%	37.4%	39.3%	40.7%	43.2%	44.5%	45.5%	45.5%	46.1%
パターン2	27.5%	31.9%	35.4%	38.0%	40.3%	42.3%	45.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
独自推計	27.5%	31.6%	34.6%	36.3%	37.4%	37.9%	39.2%	39.2%	38.8%	37.5%	36.9%

第Ⅱ部

匝瑳市総合戦略

第1章 基本的な考え方

第1 趣旨

総合戦略は、人口ビジョンにおける人口の将来展望を踏まえ、人口減少社会の中で、本市が次世代に向けてさらなる持続的な発展を遂げ、急激な人口減少の歯止めと地域の活性化を図るために、今後5年間の基本的な考え方を示し、基本戦略を明らかにするとともに、基本目標、基本的方向、具体的な施策を示すものです。

第2 計画期間

平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

なお、計画は5年ごとに見直すとともに、社会経済情勢や総合戦略に関する法律・諸制度が大きく変化した場合など、必要に応じて計画期間内であっても計画を見直します。

第3 計画の特色

本市の総合戦略においては、基本目標や基本的方向を明らかにするとともに、具体的な施策を示し、達成度を測定するための数値目標や重要業績評価指標(KPI)を設定します。

さらに、計画の進行管理を、PDCAサイクル(Plan:計画、Do:実行、Check:評価、Action:改善)の4つの視点に基づき、重要業績評価指標(KPI)を検証、比較分析しながら行う仕組みを構築します。

第4 キャッチフレーズ

本市は、国道 126 号沿いの連続的な市街地と九十九里平野に広がる田園、北部の里山や谷津田、南部の海浜から成り立っています。気候は海洋性の温暖な気候で、夏涼しく冬暖かい、とても過ごしやすい土地柄です。冬でもほとんど降雪はみられません。

このように、本市はみどり豊かで過ごしやすい環境に恵まれた地域です。田園部では水稻を中心に施設野菜や露地野菜などの多様な農業が展開されており、特に植木の生産は、本市農業の重要な一角を担っており、「日本有数の植木のまち」です。

また、本市では、規模の大きな工場が集積している「みどり平工業団地」があり、すでに利用率は高く、世界有数の企業も立地しています。また、都市と農村交流施設「ふれあいパーク八日市場」、市役所や匝瑳市民病院などの公益的施設があり、地域の集客施設や福祉施設が点在しています。

一方、人口減少が急速に進む中で、人口ビジョンでは平成 72 年(2060 年)に、人口 22,000 人以上を確保することを目標としており、地域の強みを活かし、地域の弱みを補完する特色ある戦略を策定することが求められています。特に、空き家や空き店舗、空き施設の増加が見込まれ、若者や高齢者など、新たな移住者の住居利用や従業員のオフィス利用を進める必要があります。

本市の強みは、「世界に誇ることのできる植木をはじめとした基幹産業の農業」「市民が本市に愛着を持って、住まいや仕事、子育てに安心し生涯を豊かに過ごせる、いわば庭(ガーデン)のようなくつろぎや安心感をもてること」「市民が生きがいをもち、交流活動を通じて生涯を過ごし、活躍できるコミュニティの場があること」にあります。

本市の弱みである「働き場所が少ない」「若者が少ない」といった問題点を補完するため、各施設や拠点を活用したコミュニティ活動を促し、人々が集まり、楽しみ、そして活躍する場所を創出することを目指します。

以上を踏まえ、本総合戦略のキャッチフレーズを、**ガーデンコミュニティ戦略～そうさ!!匝瑳で活躍しよう～**とします。

～キャッチフレーズ～

ガーデンコミュニティ戦略 ～そうさ!!匝瑳で活躍しよう～

ガーデンコミュニティとは、植木や庭という意味だけでなく、庭がもつくつろぎや安心感、生きがいや交流活動を通じた、コミュニティの場を示します。

第2章 基本戦略

第1 基本目標

本市の人口ビジョンに基づき、人口減少に歯止めをかけるため、「市内外から魅力を感じる住環境や雇用環境を実現」「人の流れを変え、人口流出に歯止めをかける」「出生率向上に向けた幅広い施策の集中的な展開」の視点にたち、それぞれの地域において、その特性を活かした取組を進めることが必要であり、住民の生活に密着した総活躍できるまちづくりが重要です。

このため、以下の4つの基本目標を設定し、各地域において「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」の好循環がしっかりと根付き、地域の課題を踏まえた意欲と創意工夫による地域づくりを広域的な立場から支援するための施策を展開します。

〈基本目標〉



- 1 ～そうさ!!匝瑳で働こう～
地域における若者の雇用を創出する



- 2 ～そうさ!!匝瑳で暮らそう～
匝瑳市への定住促進を進める



- 3 ～そうさ!!匝瑳で育てよう～
若い世代の結婚・出産・子育ての希望を満たす



- 4 ～そうさ!!匝瑳でつながろう～
地域との多様な連携を進める

第2 基本的方向

1 ～そうさ!!匠で働こう～ 地域における若者の雇用を創出する

(1) 農林水産業の活性化

◆ 施策推進の背景と課題

若者の雇用環境をつくり、本市での居住を推進するため、本市の主要産業である農林水産業の活性化を図ることが重要です。しかし、従事者の高齢化や後継者不足、農産物価格の低迷、加えて農外収入の減少など、農業環境は厳しさを増しています。このことから、新規就農者の確保や販路拡大、6次産業化や複合経営の推進など、より一層の強い農業経営に向けた支援の充実を図ります。

特に、「日本有数の植木のまち」であることについて、さらにその知名度を高めるため、情報発信により一層力を入れていく必要があります。また、現在行われている様々な樹種の輸出についても、今後さらに展開していくことが重要です。

◆ 方向性

若者の雇用環境の創出に向けて、農林水産業の生産性の向上および安定した経営基盤の確立、新規就農者の確保、農業の企業経営化などを進めます。あわせて、首都圏に向けた供給地としての積極的なPRや地産地消の推進、インターネットの利用などによる販路の拡大に努め、6次産業化を進めます。

特に、「日本有数の植木のまち」を内外にアピールするとともに、技術者の育成を図り、植木産業の発展を推進します。

(2) 産業振興および産業間連携の推進

◆ 施策推進の背景と課題

若者の雇用環境をつくり、本市での居住を推進するために、本市の企業に対する雇用支援が必要です。高校卒業後の進学や就職によって、市外に転出したとしても、将来本市に戻ってきてもらうためには、本市の企業の情報を十分に伝える機会が必要です。また、総合戦略策定のために設置した「匠瑤市まち・ひと・しごと創生本部」や「匠瑤市まち・ひと・しごと創生市民会議」などの体制を活かし、農林水産業、商工業、観光業などの各産業が横断的に連携するよう努めます。高齢化社会が進み、医療、介護、福祉などの産業分野での雇用が進む中で、高齢者を受け入れ、若者が支援する、仕組みの充実が求められるところです。

今後は、本市の各産業が情報共有しながら、さらなる相乗効果を生み出していくことができる横断的体制の構築が急務となります。また、農林水産業、商工業、観光、医療、介護、福祉の各分野および企業間の連携により、本市の総合的な産業の特色を整理し、産業振興を図っていくことも必要です。

◆ 方向性

若者の雇用環境の創出に向けて、市外からの企業誘致を図ります。企業誘致については、「みどり平工業団地」のような大規模な誘致体制だけでなく、サテライトオフィスなどの小規模な誘致体制も整えます。また、本市で就職する若者を支援するとともに、本市の企業と若者が交流し、マッチングの支援をすることにより、地元就職者が増えるよう取り組みます。さらに、効果的な地域情報の発信に努め、地域に根付いた若者の活動が起業につながり、新たなサービス提供につながるよう、有機的な連携と施策支援を図ります。

2 ～そうさ!! 匠で暮らそう～ 匠市への定住促進を進める

(1) 定住人口の増加

◆ 施策推進の背景と課題

本市では、就職や仕事、結婚の理由により市外に転出することが多く、転出抑制を図ることが必要です。また、転入については、仕事や住居購入(賃貸)の都合により、転入してくることが多く、併せて転入促進を図ることが必要です。

一方、親との関係を重視して居住する市民が多く、子育て中の母親が両親に面倒を見てもらえるなどのメリットがあることが明らかとなっています。また、近年、中高年齢者が高齢期を「第二の人生」と位置付け、人生のライフステージに応じた新たな暮らし方や住み方を求めて都会から地方へ移住し、これまでと同様、あるいは、これまで以上に健康でアクティブな生活を送りたいという希望が高まっています。

このことから、転出を抑制するとともに、本市の既存住宅や空き家の現状を把握した上で、住宅取得に対する支援を充実させることが課題です。また、新たな移住者を受け入れる体制の整備についても行っていく必要があります。

◆ 方向性

本市からの転出抑制を図るとともに、転入者数を増やすため、住宅取得への補助や、空き家バンクの登録物件を充実させます。また、移住希望者に対する情報の発信や、相談体制の整備などを積極的に推進する必要があります。さらに、若者がより本市に親しみや愛着をもち、将来にわたって住み続けたいと考える仕掛けづくりにも取り組みます。そして、本市からの通勤圏の拡大を図るため、J R 東日本に対して終電時刻の繰り下げなどの要望を行います。

一方、介護環境を充実させると同時に、健康でアクティブな高齢者の移住を積極的に受け入れる体制を整備していきます。

3 ~そうさ!!匠で育てよう~ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を満たす

(1) 結婚・出産・子育てへの支援の充実

◆ 施策推進の背景と課題

女性の社会進出や就労機会の拡大などを背景に、未婚化・晩婚化・晩産化が進んでいることから、若者が結婚・出産をする希望を実現することができる社会の仕組みづくりや施策の展開が必要です。また、子育てと仕事を両立するための多様な保育ニーズが高まっています。また、核家族化の進展や地域での子どもとの関わりの減少、さらには子どもに対する犯罪やいじめ問題など、子育てに不安を持つ親が増えており、それらの不安を軽減する必要があります。

このことから、改めて子どもと子育て家庭を市や地域全体で支援していく必要があります。親が抱える子育てへの不安や悩みを、親だけの問題とするのではなく、全ての市民・地域共通の問題として捉え、協働して取り組んでいくことが重要です。

◆ 方向性

地域全体で子育てに関する相互支援のための輪を広げ、ともに助け合い、子育て家庭が気軽に集まり相談できるよう、子育て世代のコミュニケーションの機会を充実させます。

また、子育て世代の負担を軽減するため、保育料軽減や育児休業・休暇の奨励などを進め、子育てについての不安や負担を和らげるよう努めます。そして、子どもたちの遊び場や学びの場を確保をさらに進めます。

さらに、医師会との連携を強化し、出産しやすい環境づくりを進めていきます。また、病院の機能強化と情報発信を行っていきます。

結婚についても、婚活への支援を今まで以上に進めていきます。婚活イベントのカップル数や成婚者数を増やしていくために、さらなる情報発信や、結婚への支援を地域全体で推進していく仕組みを構築します。また、地元企業などと連携した婚活イベントを実施するなど、より一層効果的な施策を推進します。

4 ～そうさ!! 匠でつながろう～ 地域との多様な連携を進める

(1) 地域との多様な連携による施策創出

◆ 施策推進の背景と課題

人口減少に歯止めをかけるためには、それぞれの地域において、その特性を活かした取組や課題解決が必要であり、行政や住民はもとより、地域の各団体や企業が担う役割が重要となります。これらの様々な主体の強みを結集し、意欲と創意工夫にあふれた地域づくりが求められます。

◆ 方向性

本市の活性化や課題解決のために、行政や市民活動団体、企業など多様な主体が連携・協働して取り組めるよう、各種制度の整備を行い、取組実施のための基盤整備を行います。また、本市の魅力アップのために、各種産業間との情報共有を図り、観光交流客数や宿泊客数を増やすとともに、利用者の満足度を向上させていきます。

匝瑳市総合戦略のキャッチフレーズおよび基本目標

＜本市の抱える問題点＞

- ・ 農業後継者が不足している
- ・ 人材が不足している
- ・ 働き場所が少ない
- ・ 観光産業や宿泊施設が少ない
- ・ 若者が少ない
- ・ 出産や子育ての施設が乏しい

など

＜本市の強み＞

- ・ 植木産業をはじめとした本市の基幹産業である農業がある
- ・ 工業団地があり、工業の振興を図っている
- ・ 市民が安心して豊かに過ごせる、くつろぎや安心感がある
- ・ 市民が生きがいをもち、生涯を過ごし、活躍できる場(コミュニティ)がある

ガーデンコミュニティ戦略

～そうさ!!匝瑳で活躍しよう～

ガーデンコミュニティとは、植木や庭という意味だけでなく、庭がもつくつろぎや安心感、生きがいや交流活動を通じた、コミュニティの場を示します。

～そうさ!!匝瑳で働こう～

地域における若者の雇用を創出する

- ・ 農林水産業の活性化
- ・ 産業振興および産業間連携の推進

【数値目標】

市内事業所従業員数 14,900 人 (H31)

～そうさ!!匝瑳で暮らそう～

匝瑳市への定住促進を進める

- ・ 定住人口の増加

【数値目標】

社会増減数 ▲291 人 (H27～H31)

～そうさ!!匝瑳で育てよう～

若い世代の結婚・出産・子育ての希望を満たす

- ・ 結婚・出産・子育てへの支援の充実

【数値目標】

合計特殊出生率 1.47 (H31)

～そうさ!!匝瑳でつながろう～

地域との多様な連携を進める

- ・ 地域との多様な連携による施策創出

【数値目標】

協働によるまちづくりが推進されていると思う
市民割合 20.0% (H31)

第3 具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)

本市の総合戦略の基本目標や基本的方向に基づき、総合戦略の数値目標や具体的な施策を以下のとおりとします。

1 ～そうさ!!匠で働こう～ 地域における若者の雇用を創出する

【数値目標】

数値目標	現況 (H26)	目標 (H31)
市内事業所従業員数	14,729 人	14,900 人

【具体的施策】

(1) 農林水産業の活性化

① 「日本有数の植木のまち」の推進

植木の輸出や販売促進を図るため、各種メディアを積極的に活用したプロモーション活動の戦略的な展開により、国内や海外への販路拡大を推進します。また、国や千葉県との連携を強化し、輸出事業の課題解決方法を示すとともに、生産者団体が行う海外での PR 活動を促進します。

さらに、植木関連事業を若者雇用につなげるための、情報共有や事業展開を検討します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
アンタルヤ国際園芸博覧会を契機とした植木売買契約締結数	0 件	2 件
植木めぐりツアー、まち歩きコースなど観光コンテンツの作成	0 件	3 件
植木めぐりツアー、まち歩きコースなど観光コンテンツの参加者数	0 人	120 人
千葉県銘木 100 選登録数	42 本	48 本
輸出樹種数	9 樹種	12 樹種
具体的な事業		
・世界に羽ばたけ！匠の植木展開事業 ・千葉県や外務省を通じた外交関係者への PR ・植木まつりなどのイベント開催 ・各種展示会への参加		

② 新規就農者の確保

農業を支える担い手の確保・育成を進め、人と農地の一体的な解決を図るため、新規就農者の増加を図るとともに、認定農業者や認定新規就農者など生産意欲の高い担い手への農地の集約化を進めます。

また、農業後継者新規就農支援助成金を活用し、千葉県と連携した農業経営体育成セミナーや技術研修を受講した対象者に助成を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
認定農業者数	254 件	280 件
認定新規就農者数	3 件	10 件
具体的な事業		
・ 農業後継者新規就農支援助成金の交付		

③ 農業の企業経営化の推進

農林水産業を志す若者が安心して就業できるよう、千葉県内の大学との連携を強化し、就業相談・研修制度の充実を図るとともに、経営を安定させる補助制度の活用を促進することにより定着を支援します。

さらに、ビジネス感覚あふれる企業的な経営体を育成するため、経営の多角化や農業法人化など経営革新に果敢にチャレンジする団体に対し、アドバイザーの派遣や研修などの支援を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
経営体育成基盤整備 (大区画) 事業着手数 (累計)	3 地区	3 地区
複合経営に取り組む農家 (事業体) 数	141 件	200 件
具体的な事業		
・ 大学と連携した就業相談・研修の開催 ・ 農業の経営革新に係る補助制度の創設		

④ 6次産業化の推進

農林水産物の高付加価値化と高収益化を推進し、農林漁業者の所得向上を図るため、新商品の開発やマーケットの創造による需要の拡大を促進します。農林水産物の高品質化や高付加価値化、量販店などの大口需要などに的確に対応するため、生産・加工・流通施設の整備や省力機械の導入を支援し、生産力と販売力を強化します。

また、農林水産業全般にわたり、生産性の向上、生産の低コスト化、効率化などに向けた取組を促進し、収益性を向上させます。

さらに、ふるさと納税の取組を推進する中で、本市の農林水産物の知名度を高めるよう努めます。

農業、食品加工、流通販売の6次産業化の拠点の1つとして、農家レストランの開設促進を進め、雇用の確保、所得の安定化を図るとともに、地産地消や地域の農業の活性化を進めます。

重要業績評価指標(KPI)	現況(H26)	目標(H31)
6次産業化に取り組む農家(事業体)数	17件	20件
具体的な事業		
・農家レストラン開業のための支援		

⑤ 生産基盤の強化と施設などの保全管理

農林水産物の生産性や品質の向上のため、安定的な農業用水の確保、ほ場の大区画化・汎用化を推進します。また、既存施設については予防的な補修・更新により各施設の長寿命化を推進します。

重要業績評価指標(KPI)	現況(H26)	目標(H31)
農地利用集積面積	344ha	804ha
具体的な事業		
・公益社団法人千葉県園芸協会と連携した、農地中間管理事業の実施		

⑥ 耕作放棄地の発生防止・解消

耕作放棄地の発生防止・解消を図るため、地域や担い手が行う再生活動を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
耕作放棄地面積	517ha	480ha
具体的な事業		
・ 多面的機能支払交付金の交付 ・ 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の交付		

(2) 産業振興および産業間連携の推進

① 地域外からの企業誘致の推進

既存の「みどり平工業団地」など、民間と連携した誘致活動の強化、企業の幅広いニーズに対応し、企業誘致条例による奨励措置を行い、積極的な企業誘致に取り組みます。

また、金融機関と連携を強化し、産業用地情報の収集を進め、地域の特性に応じ、遊休地や空き施設を活用して企業の誘致を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
地域外からの企業誘致数	0 件/年	1 件
企業誘致条例による奨励措置適用事業所数	5 か所	6 か所
具体的な事業		
・ サテライトオフィスの誘致 ・ 企業誘致のための新たな優遇措置制度の創設を検討		

② 起業支援の推進

女性・若者・シニアの新たな発想による起業を促進するとともに、優秀な起業家を育成していくため、啓発から起業支援、経営支援、人脈づくりまで一貫した支援を行うとともに、起業しやすい環境を整備します。

また、新たな社会ニーズに対応した新製品・新技術の開発や新産業の創出を促進するため、セミナーの開催やコーディネーターによる相談・助言などを行い、企業ニーズ・研究シーズのマッチングから事業化までの一貫支援を行います。

また、研究開発に取り組む企業などと連携し、中小企業の技術力の高度化への支援や産学官連携による研究開発を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
年間起業数	4 件/年	10 件/年
経営相談指導件数	1,902 件/年	2,500 件/年
具体的な事業		
・ 起業に対する助成制度の創設 ・ 起業に必要なセミナーの開催		

③ 若者の就労支援

求人情報閲覧コーナーを設置し、ハローワークの求人情報や求人広告を閲覧できるようにします。

就労に対する個別相談、面接対策、就職スキルを高める各種セミナーの実施や、市内企業が実施する合同就職説明会への協力により、若者の正規雇用での就労促進や職場への定着支援を図ります。

若い世代の経済的な自立と安定を支援するため、正規雇用としての就職に結びつくように各種の職業訓練を実施するとともに、スキルアップに向けた在職者訓練を実施します。

特に、医師や看護師、介護従事者の不足を改善するため、千葉県内の大学と連携し、社会福祉施設と求職者のマッチングを支援することなどにより、介護従事者の安定的な確保を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
市内企業と若者のマッチング支援による就職者数	0 人	10 人
具体的な事業		
・ 市内企業による合同就職相談会の実施 ・ 求人情報閲覧コーナーの設置 ・ 各種機関と連携した就職支援相談の実施		

④ ブランド化の推進

地域の「強み」となる豊富な地域資源と、企業が有する高い技術力を活かし、地域を挙げた新商品の開発や国内外の市場への販路開拓の取組について、研修の実施やアドバイザーの配置により支援します。

また、地域特性に即した産業を活性化・集積させるため、農林漁業者や商工業者、産業支援機関などの連携による商品開発や、付加価値を向上させるためのブランド化の取組を支援します。

さらに、千葉県内の大学や本市の高校生とも連携を図り、新しい事業化に向けた取組を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
ブランド商品選定数	0 品	10 品
新たな特産品開発数	0 品	1 品
具体的な事業		
・ 匝瑳市のブランド商品の選定 ・ 新たな特産品の開発支援		

⑤ 効果的な観光情報の発信

観光情報としての新たな需要を開拓していくため、本市ならではの資源をさらに磨き上げるとともに、観光需要の把握などを進め、新たな観光資源や観光ルートの開発、農林水産物のPR、ニューツーリズムの促進などにより、国内外の観光客の誘客を図るとともに、周遊観光による滞在の長時間化や着地型観光の推進を図ります。

また、観光需要を喚起してリピーターの確保につなげるため、都市と農村交流施設「ふれあいパーク八日市場」や「そうさ観光物産センター 匠りの里」などを活用した情報発信に努めます。

さらに、「生涯活躍のまちづくり」に関する取組と連動し、健康づくりの一環として、ウォーキング活動を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
観光ガイドブックによるおすすめルート設定数	4 ルート	10 ルート
匠瑳市をロケ地とする映画・番組数	7 本/年	10 本/年
歴史的建造物などを活用したイベント開催件数	2 回/年	3 回/年
具体的な事業		
・ 八重垣神社祇園祭での神輿体験の実施 ・ 駅からハイキングの実施 ・ 飯高檀林コンサートの開催		

⑥ 中小企業の経営基盤強化

商工会などによる地域の中小事業者に対する経営相談・指導や、企業収益悪化に対する雇用安定の助成を行うとともに、資金融資制度を実施し、中小企業の生産性の向上や競争力強化に向けた取組を支援します。

さらに中小企業同士や個人による中小企業組合の設立を推進し、経営の効率化や資金調達の円滑化を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
中小企業組合の設立件数	0 件/年	2 件/年
融資および利子補給制度利用件数	237 件	250 件
具体的な事業		
・ 中小企業雇用維持対策補助金の交付 ・ 中小企業に対する資金融資の実施		

2 ～そうさ!! 匠で暮らそう～ 匠瑳市への定住促進を進める

【数値目標】

数値目標	H27 から H31 まで
社会増減数	▲291 人

参考：社人研推計の社会増減数▲497 人と比較し、206 人改善。

日本創成会議推計の社会増減数▲782 人と比較し、491 人改善。

【具体的施策案】

① 定住・移住人口の確保

定住・移住人口を確保するため、転入者に対する助成制度の充実を図ります。具体的には、本市に転入し、新築または中古住宅を取得した方に奨励金を交付します。

また、若者から高齢者に至るまでの幅広い層の方が移り住むよう、千葉県や関連団体との連携を図りながら、地域の魅力や移住関連情報を積極的に発信します。併せて、UIJ ターンや二地域居住などの様々なライフスタイルのあり方について情報提供します。

さらに、移住するにあたっての不安要素の 1 つである住居の確保について、空き家バンクを通じて情報提供・支援を行います。

雇用先は他市町であっても、居住は本市を選択してもらえるところを目指し、施策の充実や情報提供に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
転入者マイホーム取得奨励金を活用した転入者数	188 人	380 人 ※H29 までの目標
空き家バンク物件登録数	15 件	50 件
空き家バンク成約数	4 件	15 件
具体的な事業		
・転入者マイホーム取得奨励金の交付 ※平成 30 年 3 月 31 日までの事業。事業の効果検証により、延長もあり得る。 ・空き家バンクの実施 ・各種機関が実施する移住相談会への参加 ・移住総合相談窓口設置の検討 ・NPO 法人などと連携した、定住・移住の促進		

② 高校生のまちづくりへの参加

本市の若者雇用にとって、高校生は重要な位置づけです。10年後、20年度も、本市を支える人材になっていくことを踏まえ、本市の地域への愛着を高める取組を行います。そして、高校の卒業後も、引き続き本市に関わってもらえるよう、地域とのつながりを深め、地域課題の解決に貢献する取組を促進します。

具体的には、グループワークや地域貢献活動を通して、継続的に本市の地域と関わりを持てるよう支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
匝瑳に住み続けたいと考える高校生の割合	9.0%	15.0%
具体的な事業		
・高校生まちづくりプロジェクトの実施		

③ 生涯活躍のまちづくり

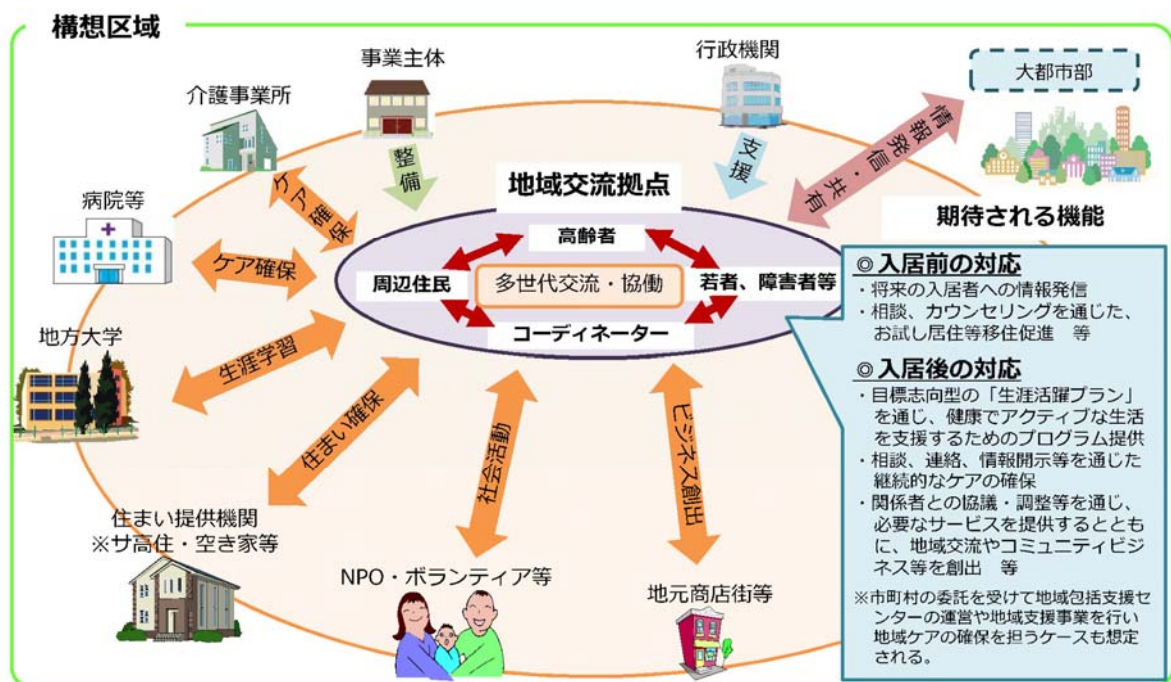
今後は、健康でアクティブ(活動的)な高齢者の移住を積極的に受け入れ、さらなる健康づくりとともに、就労や社会活動・生涯学習への参加などにより、今まで以上に健康でアクティブな生活ができるよう支援します。

また、医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保します。地域の医療機関と連携するとともに、要介護状態などになった場合には、希望に応じて地域の介護事業者からの介護サービス提供を確保します。

さらに、医療や介護などに関する直接的・間接的な雇用を創出し、地域における雇用環境の充実を図ります。

そして、従来のように高齢者だけで生活するのではなく、高齢者が地域社会に溶け込み、子どもや若者など多世代との交流や協働、地域貢献ができる環境を実現します。そのために、高齢者や市民が交流し活動できる多様な空間を形成することが望めます。また、高齢者の「健康でアクティブな生活」や「地域社会(多世代)との協働」を実現するために、協議会を設立し、ハードとソフト両面から施策を検討していきます。

重要業績評価指標(KPI)	現況(H26)	目標(H31)
生涯活躍のまちづくり検討のための協議会設置数	0件	1件以上
生涯活躍のまち拠点の設置数	0件	1件以上
具体的な事業		
・ 匠瑤市版CCRC構想策定等事業(飯倉地区) ・ 生涯活躍のまち拠点の設置に向けた支援		



資料:「生涯活躍のまち」構想最終報告 参考資料

3 ～そうさ!! 匠で育てよう～ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を満たす

【数値目標】

数値目標	現況 (H26)	目標 (H31)
合計特殊出生率	1.35	1.47

【具体的施策案】

① 子育て世代のコミュニケーションの充実

子育て世代がコミュニケーションをとり、日常の悩みを相談し交流できる機会を提供します。また、結婚から子育てまでの切れ目のない一貫した支援を行うため、ICT(スマートフォン用アプリなど)を活用し、本市のイベントや健康・育児に関する施策の情報提供を推進します。

また、全ての親が安心して子育てを行えるよう、ウェブサイトや啓発リーフレットなどにより、子育てに役立つ情報提供の充実を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
年間つどいの広場利用者数	8,661 人/年	9,000 人/年
子育てサークル数	1 サークル	2 サークル
具体的な事業		
・匠市つどいの広場の充実 ・ちば My Style Diary を活用した情報発信		

② 子育て世代の負担軽減

子育てに係る保護者の経済的負担の軽減のため、子どもが病気や怪我などにより受診した場合の医療費の助成や、保育料や給食費の無料化・減免を行います。

また、病児・病後児保育や一時保育、障害児保育などを充実させます。

さらに、仕事と子育ての両立を実現するため、育児休業・休暇や短時間勤務などの両立支援制度を男女ともに利用しやすい職場環境の整備に向けた普及啓発などを図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
病児・病後児保育実施か所数	0 か所	1 か所
一時保育実施か所数	7 か所	8 か所
障害児保育実施か所数 (助成か所数)	11 か所 (6 か所)	11 か所 (7 か所)
育児休業取得率	男性 2.6% 女性 31.9%	男性 10.0% 女性 40.0%
子育てについて不安や負担を感じる人の割合	5.1%	3.0%
具体的な事業		
・子ども医療費の無料化 ・第3子以降の保育料無料化 ・第3子以降の小中学校給食費減免 ・チャイルドシート購入費用の助成 ・乳幼児健康診査の実施 ・出産祝金の支給 ・育児休業・休暇や短時間勤務を実施する企業への支援		

③ 子どもたちの遊び場の確保

子どもたちが地域の大人や友達と関わり合いながら、様々な体験活動などを通して、自己の形成が図られるように、家庭や学校以外の場として、安全・安心に過ごせる遊び場の確保を推進します。

また、全小学校区に放課後児童クラブまたは放課後子ども教室を設置し、授業終了後の児童の生活・体験活動の場を確保します。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
放課後児童クラブ実施か所数	11 か所	14 か所
具体的な事業		
・放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の運営		

④ 出産しやすい環境づくり

妊娠から出産に至るまで、助成支援制度を十分に活用できるよう情報提供を行うとともに、新たな支援制度についての情報収集に努めます。妊娠・出産に伴う心身の変化などに不安や悩みを抱える人に対しては、本人に加えて夫や家族に対しても正しい知識の提供や、必要に応じて個別相談による支援を行います。

また、妊産婦同士の交流や、仲間づくりの取組も進めていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
両親学級への参加率	22.8%	30.0%
具体的な事業		
・両親学級(マタニティクラス)の実施 ・妊娠届出時の個別相談の実施		

⑤ 婚活支援の充実

男女の出会いの場を創出する婚活支援事業を実施し、結婚を希望する男女の出会いを支援します。

また、婚活イベントを行うにあたっての、企画実施体制の強化を図り、婚活サポーターや婚活ボランティアなどの体制構築を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
婚活イベントのカップル数	47 組	150 組
婚活サポーター数	0 人	10 人
具体的な事業		
・ツイッターなどによる婚活情報の発信 ・各種団体と連携した婚活イベントの実施		

4 ～そうさ!! 匠瑳でつながろう～ 地域との多様な連携を進める

【数値目標】

数値目標	現況 (H26)	目標 (H31)
協働によるまちづくりが推進されていると思う市民割合	15.7%	20.0%

【具体的施策案】

① 多様な主体による連携・協働の促進

地域の様々な課題に対し、市民活動団体や企業、行政など多様な主体が連携・協働して行う環境を整備します。研修会や意見交換会の開催などを通じて、各種情報提供に努め、市民提案型事業に対する助成制度を新設します。

市民向けの助成制度の活用によって、多様な主体が連携・協働する機会を設け、異業種による新規事業開発の機会を提供するとともに、定住促進に向けた情報交換や交流活動の場づくりを提供します。

さらに、千葉県や近隣市町村などと連携し、広域的な課題解決や、より効果的・効率的な事業実施に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
市内企業と若者のマッチング支援による就職者数 <u>(再掲)</u>	0 人	10 人
婚活サポーター数 <u>(再掲)</u>	0 人	10 人
具体的な事業		
・ 匠瑳市市民協働指針の策定 ・ 匠瑳市市民協働推進条例の制定 ・ 市民協働推進のための情報提供の充実 ・ 市民提案型事業に対する助成制度の新設 ・ (仮称) 匠瑳市市民活動サポートセンターの開設 ・ (仮称) 市民活動はじめの一步セミナーの開催 ・ 金融機関との「匠瑳市の地域活性化に関する協定」の締結 ・ 大学と連携した就業相談・研修の開催 <u>(再掲)</u> ・ 公益社団法人千葉県園芸協会と連携した、農地中間管理事業の実施 <u>(再掲)</u> ・ 市内企業による合同就職相談会の実施 <u>(再掲)</u> ・ 各種機関と連携した就職支援相談の実施 <u>(再掲)</u> ・ 千葉県や近隣市町村・団体と連携した婚活イベントの実施		

② 交流人口の増加

本市には、歴史や農山漁村に特化した地域資源が埋もれています。今後は、観光交流拠点を整備し、里山や海岸地域での様々な活動を推進するとともに、観光に付随する食の提供や宿泊などに力を入れていきます。また、本市に観光に訪れた方が快適に過ごせるよう、トイレの整備や施設のバリアフリー化、憩いの場として豊かな自然とふれあえる公園や歩道の施設整備を推進するとともに、行きたいときに行きたいところへストレス無く行けるよう観光案内所などの整備や観光地を案内するホームページなどの整備を図ります。

地域関係者、スタッフ、ボランティアなどの支援者と協力しながら交流人口を確保するとともに、交流から半定住、定住へとつなげていく機会を提供することが重要です。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
観光入込客数	1,017,659 人/年	1,100,000 人/年
宿泊客数	18,460 人/年	18,500 人/年
具体的な事業		
・ 広域連携観光対策事業 ・ 観光交流拠点の整備 ・ 里山活動の推進 ・ 農家体験・民泊の実施 ・ 里づくり計画の策定と里づくり協議会の設立		

③ 都市と農村の交流の推進

野菜や花などの栽培を通じて、農業に対する理解関心を育みながら、都市と農村の相互交流を深めることを目的として、市民農園の利用を促進します。

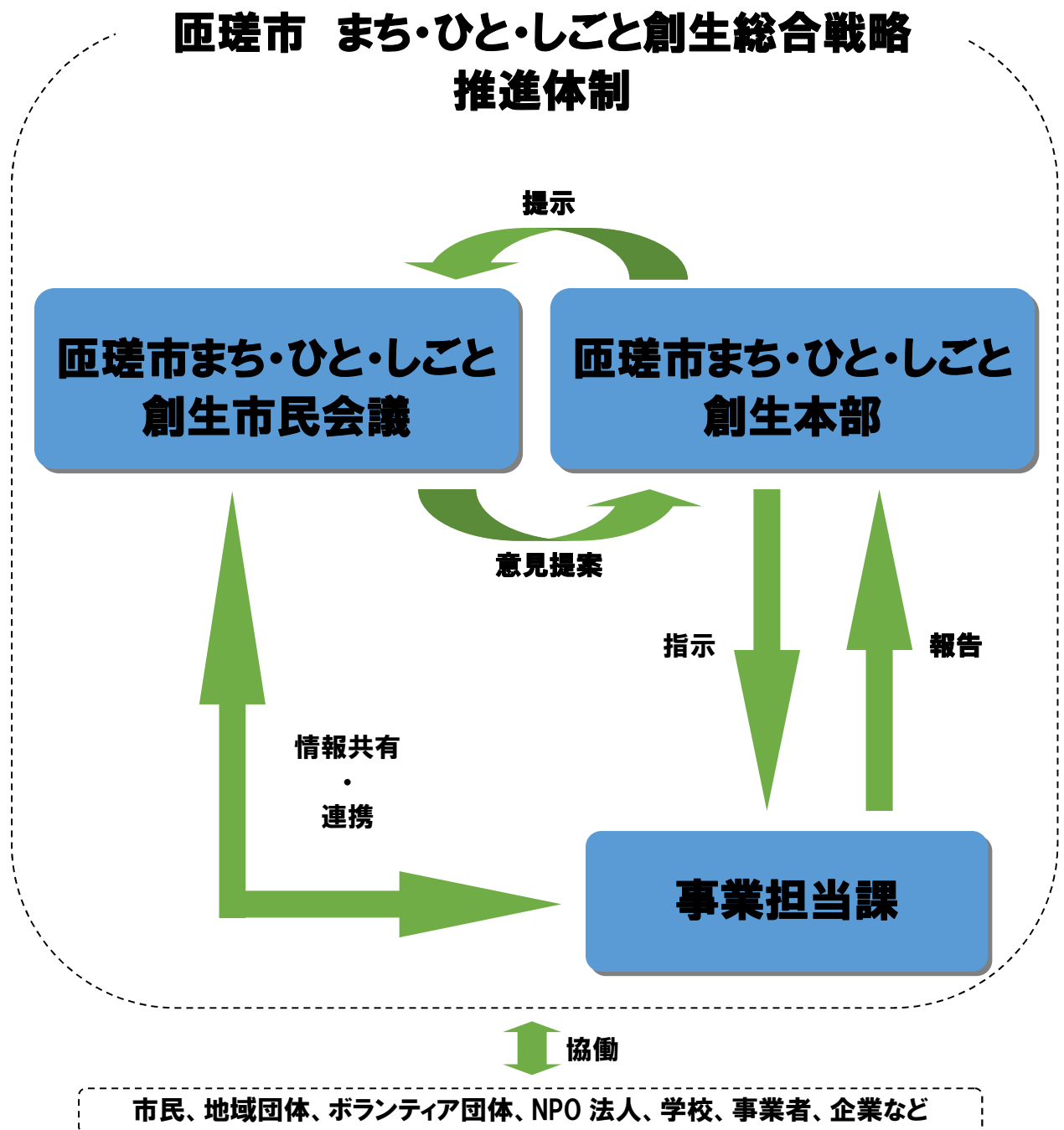
今後は、本市内外に広く利用者を募集し、農業分野・教育分野などと連携を図りながら、市民農園の利用度と満足度を高めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現況 (H26)	目標 (H31)
市民農園利用者数	29 人	90 人
農業体験・交流イベント参加者数	560 人/年	700 人/年
具体的な事業		
・ 市民農園の利用促進と広報		

第3章 推進体制と進行管理

第1 推進体制

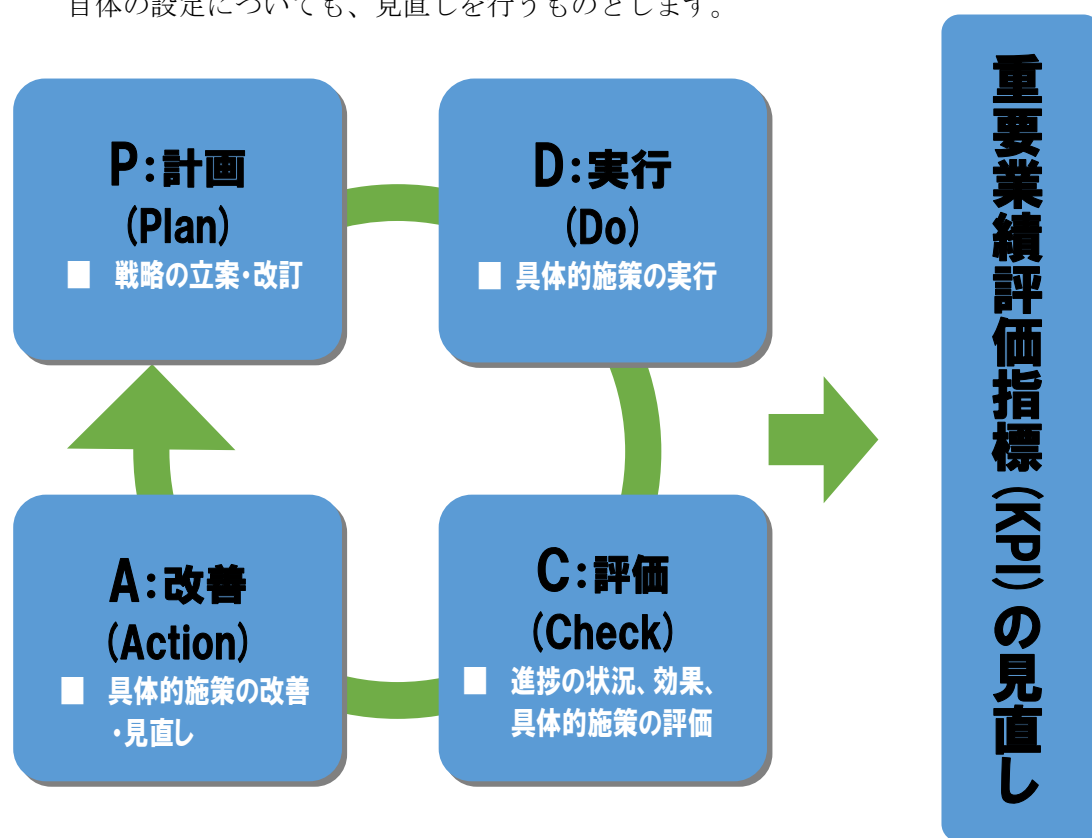
匠瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、以下の体制により推進を図るとともに、具体的施策を進めていきます。



第2 進行管理

総合戦略を構成する基本目標の下に位置付けられる具体的施策には、それぞれ重要業績評価指標(KPI)を設定しています。これらの達成状況を、定期的に確認することで、具体的施策の進捗・効果を検証します。必要に応じ、具体的施策の改善・見直しを行っていくほか、総合戦略の改訂も行っていきます。

また、総合戦略を見直す平成32年度には、人口ビジョンに示す目標人口の達成状況を検証しながら、重要業績評価指標(KPI)の進捗状況だけでなく、重要業績評価指標(KPI)自体の設定についても、見直しを行うものとします。



第3 普及啓発の方法

計画を広く公表し、市民への周知に努めるとともに、広報やホームページをはじめ、様々な媒体を活用して、本市における総合戦略の考え方や施策の内容をわかりやすく紹介するなど、計画に関する情報発信を行い、市民の理解を深めるよう努めます。

資料編

1 策定経過

期 日	内 容
平成27年	
8月 4日	第1回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部幹事会開催
7日	第1回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部会議開催 ・策定方針決定 ・策定スケジュール決定
25日	第1回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議開催
26日	転入者・転出者に対するアンケート調査実施 (調査期間：10月21日まで)
9月 1日	結婚・出産・子育てに関するアンケート調査実施 (調査期間：9月15日まで)
7日	匝瑳市の高校3年生に対するアンケート調査実施 (調査期間：9月17日まで)
16日	第2回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議開催 ・ワークショップ形式の意見交換を実施
10月20日	第2回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部幹事会開催
28日	第2回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部会議開催
11月17日	第3回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議開催
12月 2日	第3回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部幹事会開催
4日	市議会全員協議会での意見聴取
平成28年	
1月 8日	第3回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部会議開催

1月28日	第4回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議開催
2月 8日	パブリックコメント実施 (実施期間：3月8日まで)
3月 4日	市議会全員協議会での意見聴取
16日	第4回匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部会議開催
23日	匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略を決定

2 匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部規則

(設置)

第1条 市は、人口の減少や少子高齢化の進行に対応し、将来にわたって活力あるまちづくりを進めるため、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する匝瑳市まち・ひと・しごと創生本部（以下「本部」という。）を設置する。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) まち・ひと・しごと創生 匝瑳市の区域におけるまち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）第1条に規定するまち・ひと・しごと創生として、市民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することをいう。

(2) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略 匝瑳市における法第10条第1項に規定する市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画をいう。

(所掌事項)

第3条 本部は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定及び推進に関すること。
- (2) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、まち・ひと・しごと創生に必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。

- 2 本部長は市長をもって充て、副本部長は副市長及び教育長をもって充てる。
- 3 本部員は、匝瑳市課長連絡会議規則（平成18年匝瑳市規則第13号）第2条第1項に規定する課等の長をもって充てる。

（本部長及び副本部長）

第5条 本部長は、本部を総理し、本部を代表する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、あらかじめ本部長が指名する順番に従いその職務を代理する。

（会議）

第6条 本部の会議は、本部長が必要と認めるときに招集し、本部長が議長となる。

- 2 本部は、副本部長及び本部員（以下「構成員」という。）の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 本部の議事は、出席構成員の過半数で決し、可否同数のときは、本部長の決するところによる。

（関係者の出席）

第7条 本部長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者に資料を提出させ、又は会議に出席させ、その意見若しくは説明を求めることができる。

（幹事会の設置）

第8条 本部長は、第3条各号に規定する所掌事項に係る専門的な事項を処理するため、幹事会を置く。

- 2 幹事会は、幹事長及び幹事をもって組織する。
- 3 幹事長は副市長をもって充て、幹事は本部員のうちから本部長が指名する。
- 4 第5条第1項、第6条及び前条の規定は、幹事会について準用する。この場合において、これらの規定中「本部長」とあるのは「幹事長」と、「本部」とあるのは「幹事会」と、「副本部長及び本部員」とあるのは「幹事」と読み替えるものとする。
- 5 前各項に定めるもののほか、幹事会の運営に関し必要な事項は、幹事長が別に定める。

（ワーキングチームの設置）

第9条 幹事長は、幹事会の処理する事項を調査研究させるため、ワーキングチームを置くことができる。

2 前項に定めるもののほか、ワーキングチームの運営に関し必要な事項は、幹事長が別に定める。

(庶務)

第10条 本部の庶務は、企画課において処理する。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

3 匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議規則

(設置)

第1条 市は、人口の減少や少子高齢化の進行に対応し、将来にわたって活力あるまちづくりを進めるに当たり、広く市民その他の者から意見を聴取し、まち・ひと・しごと創生に関する施策に反映させるため、匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) まち・ひと・しごと創生 匝瑳市の区域におけるまち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）第1条に規定するまち・ひと・しごと創生として、市民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することをいう。

(2) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略 匝瑳市における法第10条第1項に規定する市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画をいう。

(所掌事項)

第3条 市民会議は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定及び推進に関すること。
- (2) 匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市民会議の設置の目的達成に必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 市民会議は、委員13人以内をもって組織する。

2 委員は、市長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 第1項の規定にかかわらず、特定の地位又は職により市長が委嘱した委員の任期は、当該特定の地位又は職にある期間とする。

(委員長及び副委員長)

第6条 市民会議に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、市民会議を総理し、市民会議を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 市民会議の会議は、委員長が必要と認めるときに招集し、委員長が議長となる。

2 市民会議は、副委員長及び委員（以下「構成員」という。）の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 市民会議の議事は、出席構成員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(関係者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者に資料を提出させ、又は会議に出席させ、その意見若しくは説明を求めることができる。

(庶務)

第9条 市民会議の庶務は、企画課において処理する。

(その他)

第10条 この規則に定めるもののほか、市民会議の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

4 匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議委員名簿

平成27年7月3日

	氏 名	備 考
学識経験を有する者	◎ 鎌 田 元 弘	千葉工業大学副学長
関係団体の長が推薦する者	八 角 勝 義	ちばみどり農業協同組合常務理事
	田 邊 久 利	匝瑳市みどり平工業団地連絡協議会長
	大 塚 榮 一	匝瑳市商工会副会長
	岩 井 清	匝瑳市観光協会長
	浅 井 茂	千葉県海匝地域振興事務所長
	長 谷 川 茂	千葉県立匝瑳高等学校長
	福 井 敬	八日市場金融団代表 千葉銀行八日市場支店長
	伊 藤 充 児	日本労働組合総連合会千葉県連合会 東総・香取地域協議会幹事
	○ 椎 名 嘉 寛	匝瑳市区長会長
公募による者	熱 田 信 之	匝瑳市PTA連絡協議会長
	江 波 戸 友 美	
	加 瀬 功 一	

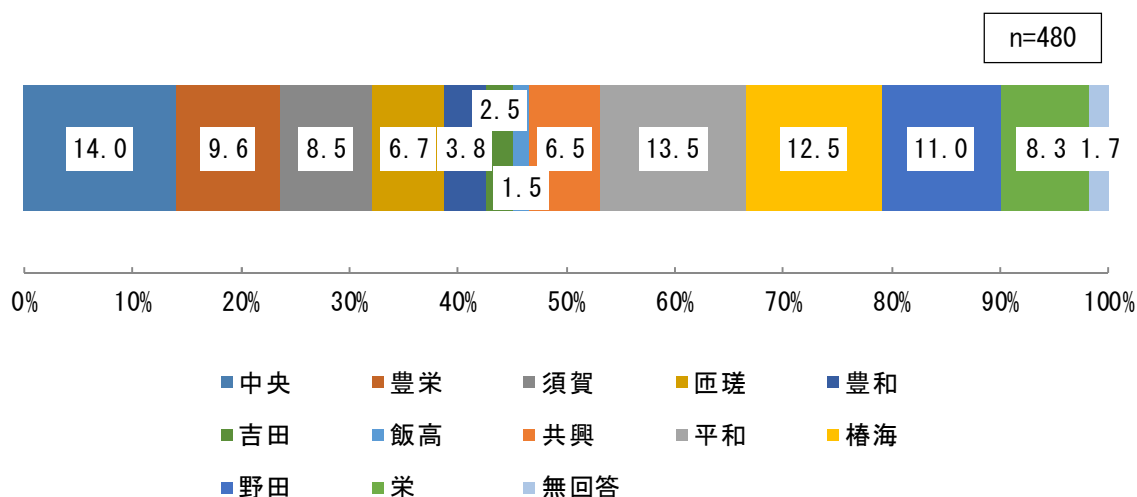
※◎…委員長、○…副委員長

(任期：平成29年7月2日)

5 結婚・出産・子育てに関するアンケート調査結果

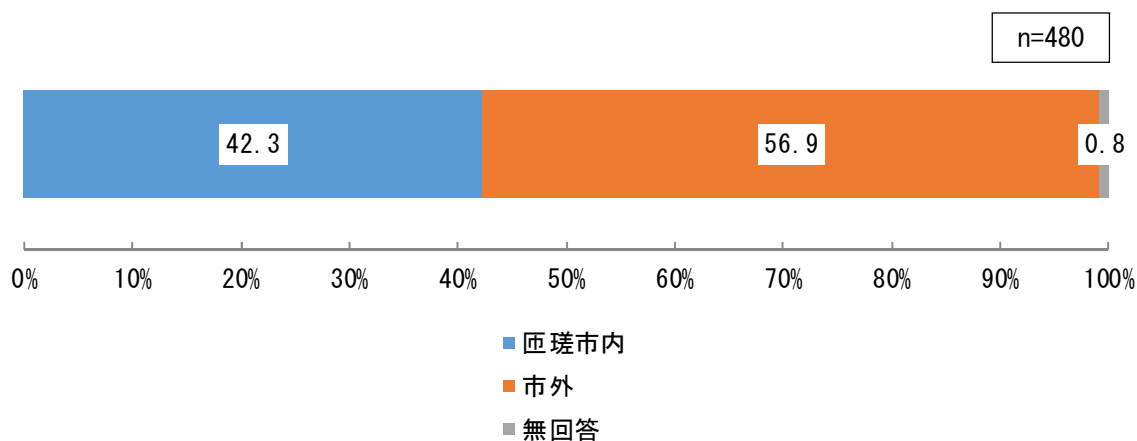
問1 あなたのお住まいの地区を教えてください。(1つに○)

「中央」地区が14.0%、「平和」地区が13.5%、「椿海」地区が12.5%の順となっています。



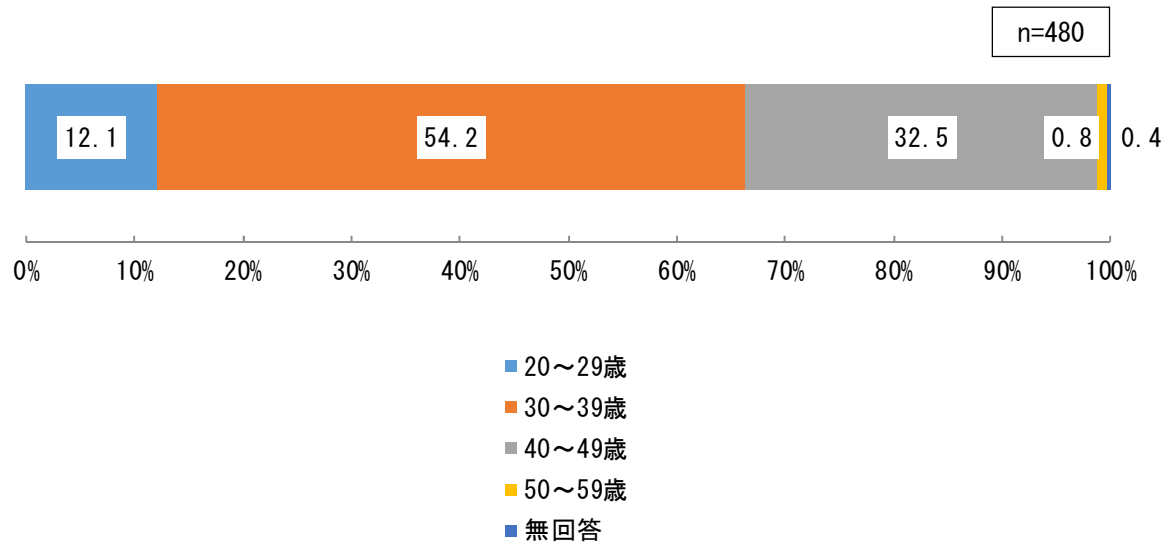
問2 あなたの出身地を教えてください。(1つに○)

母親の出身地については、「市外」が56.9%となり、「匠瑳市内」の42.3%より多くなっています。



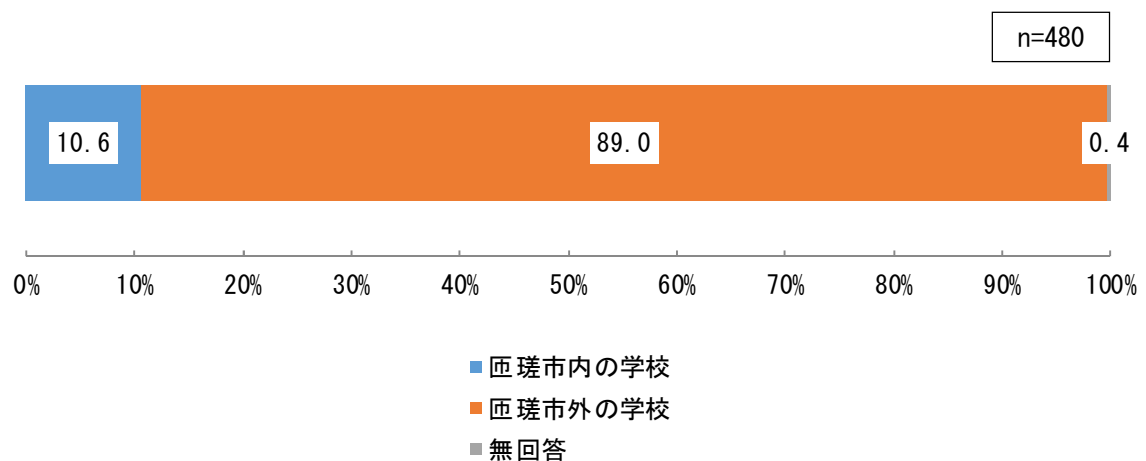
問3 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

母親の年齢については、「30～39歳」が54.2%と最も多く、次に「40～49歳」が32.5%と多くなっています。



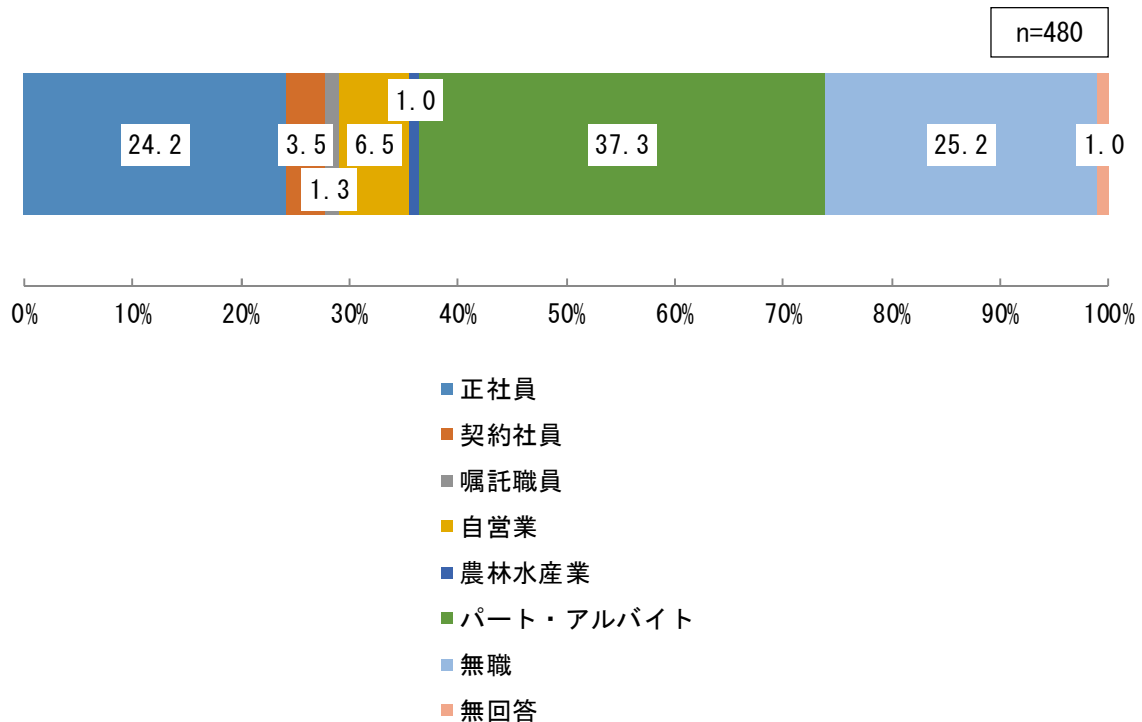
問4 あなたの最終卒業学校を教えてください。(1つに○)

母親の最終卒業学校については、「匝瑳市外の学校」が89.0%となり、「匝瑳市内の学校」の10.6%より多くなっています。



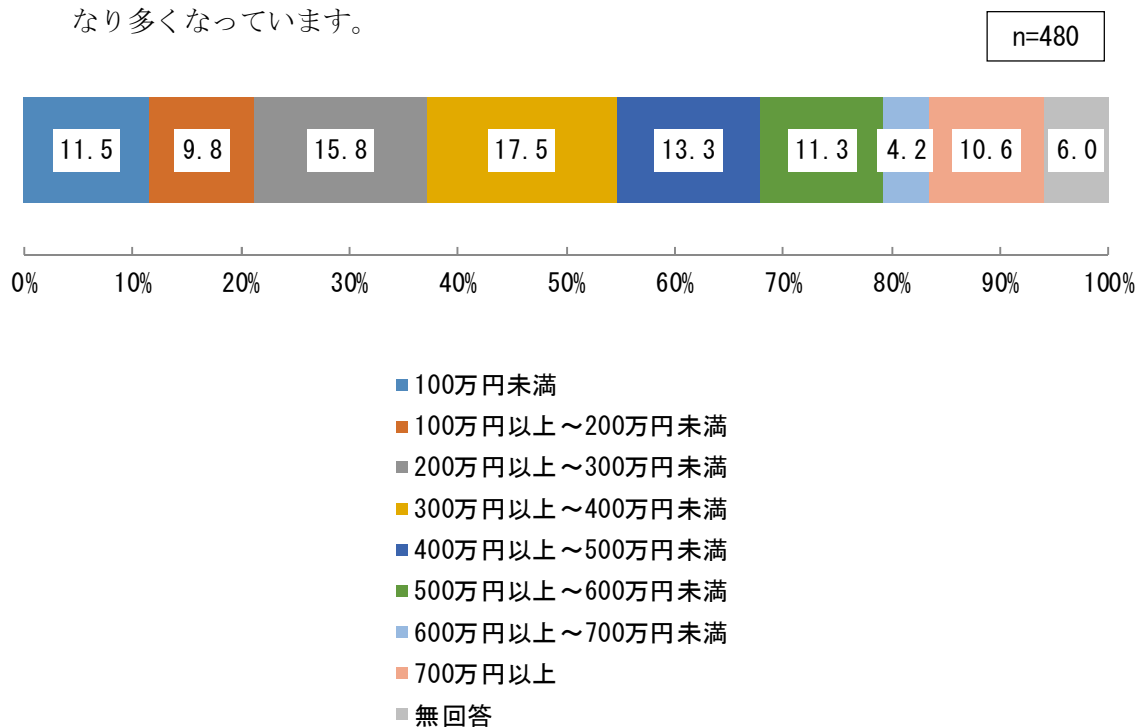
問5 あなたの雇用形態を教えてください。(1つに○)

母親の雇用形態については、「パート・アルバイト」が37.3%となり最も多く、次に「無職(専業主婦)」が25.2%、「正社員」が24.2%となり多くなっています。



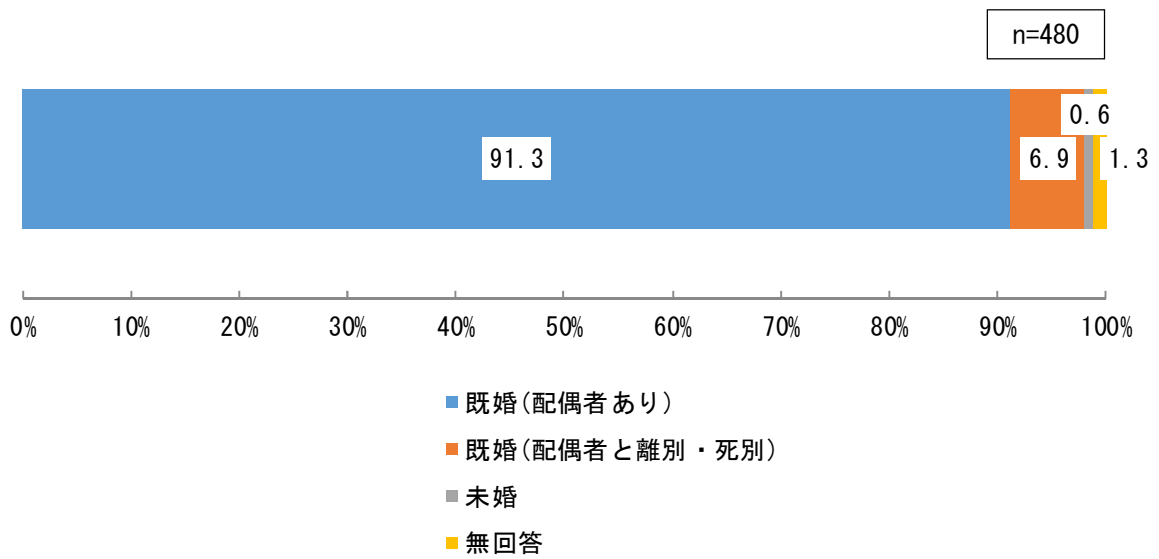
問6 あなたの昨年の世帯年収を教えてください。(1つに○)

昨年の世帯年収については、「300 万円以上～400 万円未満」が17.5%と最も多く、次に「200 万円以上～300 万円未満」が15.8%、「400 万円以上～500 万円未満」が13.3%となり多くなっています。



問 7 あなたは結婚(事実婚を含む)されていますか。(1 つに○)

「既婚(配偶者あり)」の母親が 91.3%となり最も多くなっています。



問 8 結婚暦は何年ですか。(記入)

※問 8 は「問 7 結婚」で「1 既婚(配偶者あり)」「2 既婚(配偶者と離別・死別)」を選んだ方のみ

※無記入は除く

既婚者のうち、結婚歴は、加重平均により 9.6 年となっています。また、最頻値では「7 年」が 41 人と最も多く、次に「8 年」が 39 人、「10 年」が 38 人と多くなっています。

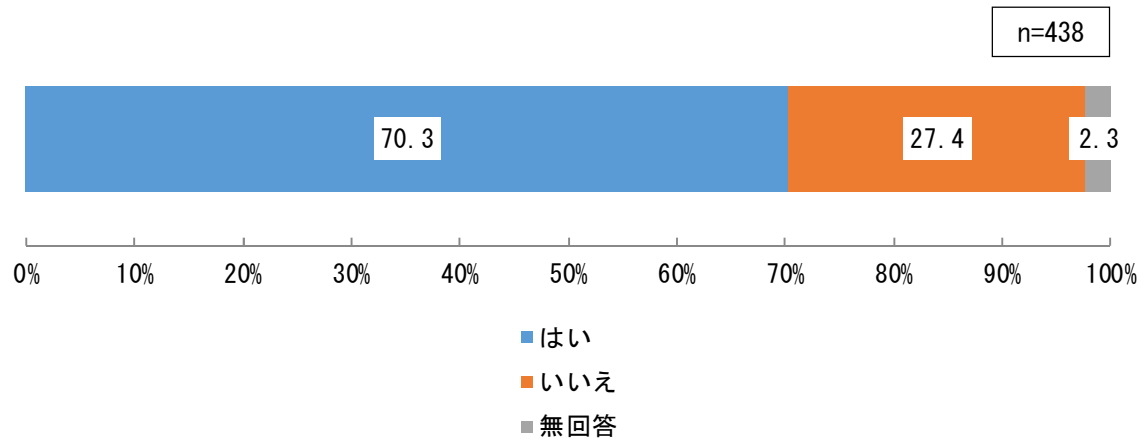
n=467

結婚年数	回答数	加重積
3ヶ月	1	0.25
1年	11	11
1年2ヶ月	1	1.17
1年8ヶ月	1	1.67
2年	24	48
3年	25	75
4年	21	84
5年	23	115
6年	24	144
7年	41	281
8年	39	312
9年	32	288
10年	38	380
11年	28	308
12年	24	288
13年	28	364
14年	24	336
15年	22	330
16年	14	224
17年	6	102
18年	17	306
19年	8	152
20年	1	20
21年	1	21
22年	6	132
23年	4	92
24年	2	48
27年	1	27
計	467	4491.09
平均	9.6年	

問 9 共働きですか。(1 つに○)

※問 9 は「問 7 結婚」で「1 既婚(配偶者あり)」を選んだ方のみ

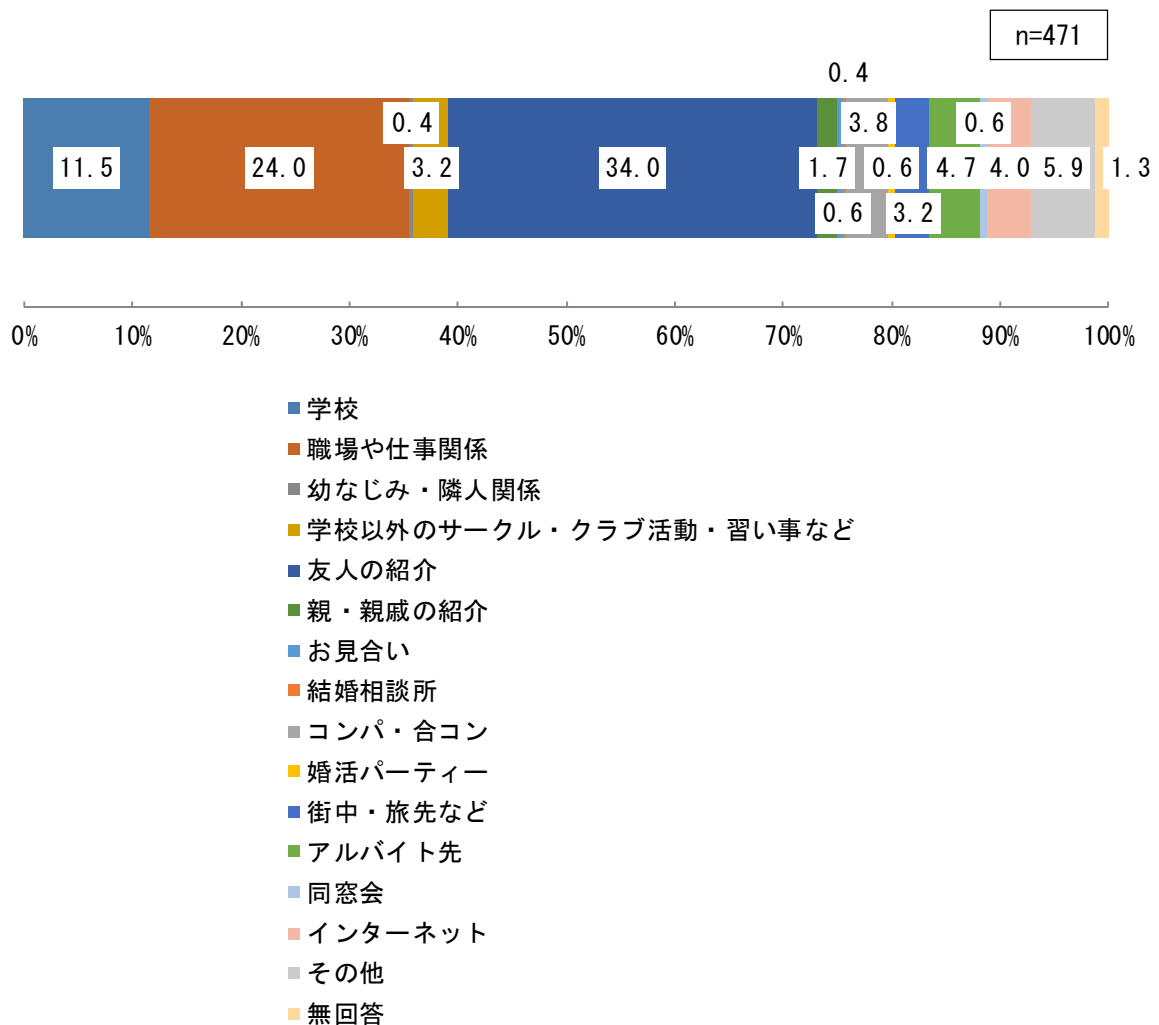
既婚者(配偶者あり)のうち、「共働き」の母親が 70.3%となり、「共働きでない」母親 27.4%より多くなっています。



問 10 結婚相手とはどのようなきっかけで知り合いましたか。(1 つに○)

※問 10 は「問 7 結婚」で「1 既婚(配偶者あり)」「2 既婚(配偶者と離別・死別)」を選んだ方のみ

既婚者のうち、知り合ったきっかけについては、「友人の紹介」が 34.0%と最も多く、「職場や仕事関係」が 24.0%、「学校」が 11.5%と多くなっています。「婚活パーティー」が 0.6%、「インターネット」が 4.0%となっています。

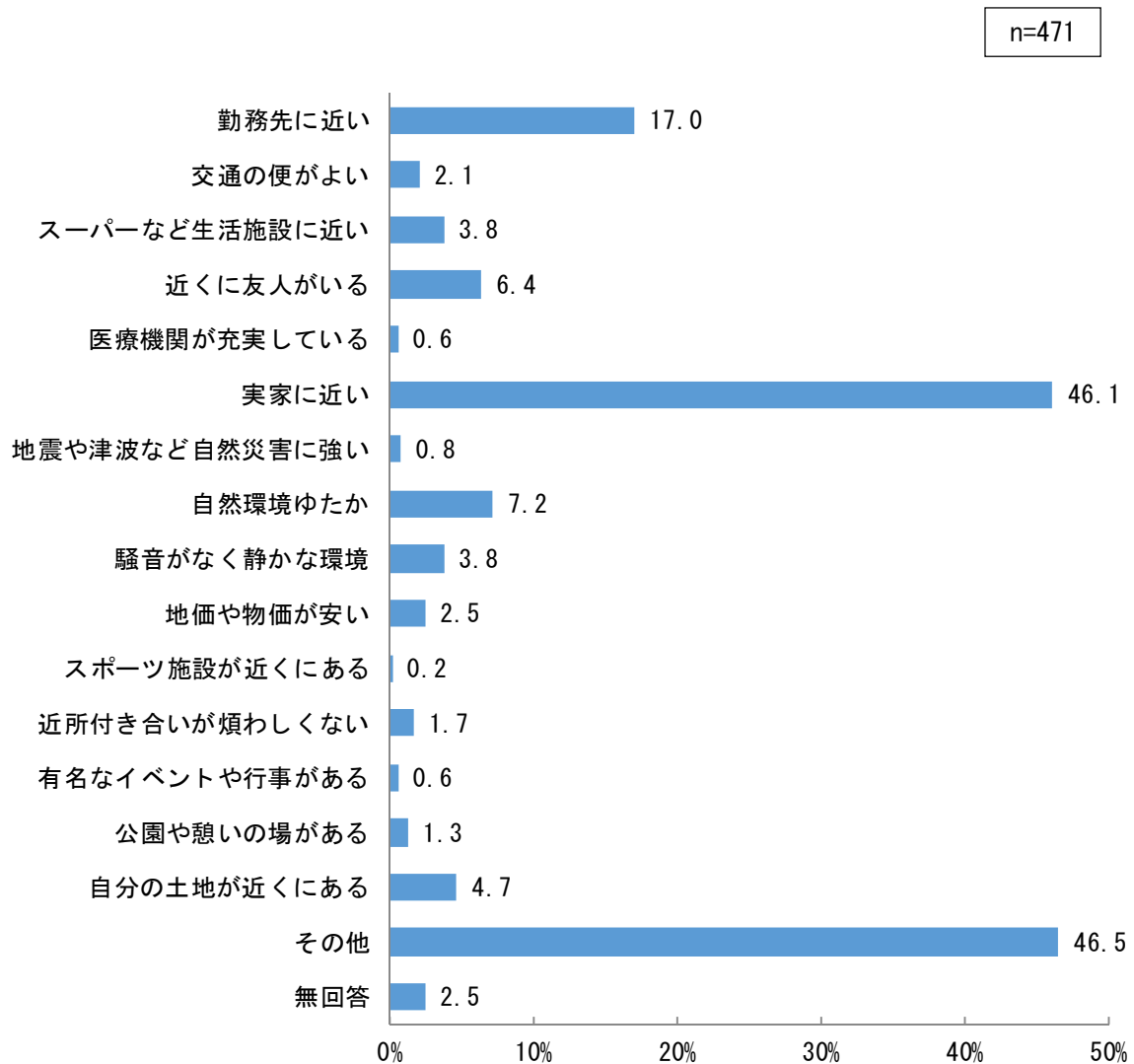


※ 「その他」 主な内訳・・・結婚式 0.8%、趣味 0.8%

問 11 結婚後、市内に住むことを選んだ理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

※問 11 は「問 7 結婚」で「1 既婚(配偶者あり)」「2 既婚(配偶者と離別・死別)」を選んだ方のみ

結婚後の市内への居住理由については、「実家に近い」が 46.1%と多く、次に「勤務先に近い」が 17.0%と多くなっています。「その他」が 46.5%と最も多くなっていますが、その内訳は、「親と同居するため」「家を所有している」「市内に実家がある」などの回答が多く、本市では、実家(親)との関係を重要視している世帯が多いと考えられます。

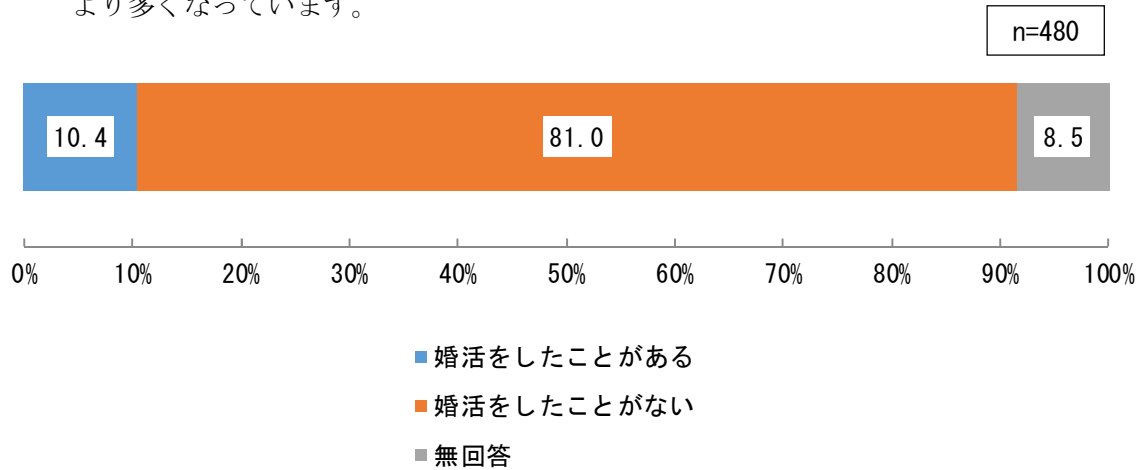


※ 「その他」 主な内訳・・・親と同居 8.7%、家を所有 4.9%、市内に実家 4.9%、跡継ぎ 4.2%

問 12 あなたは婚活*経験がありますか。(1つに○)

※婚活：結婚相手を見つけるための積極的な活動をする事。

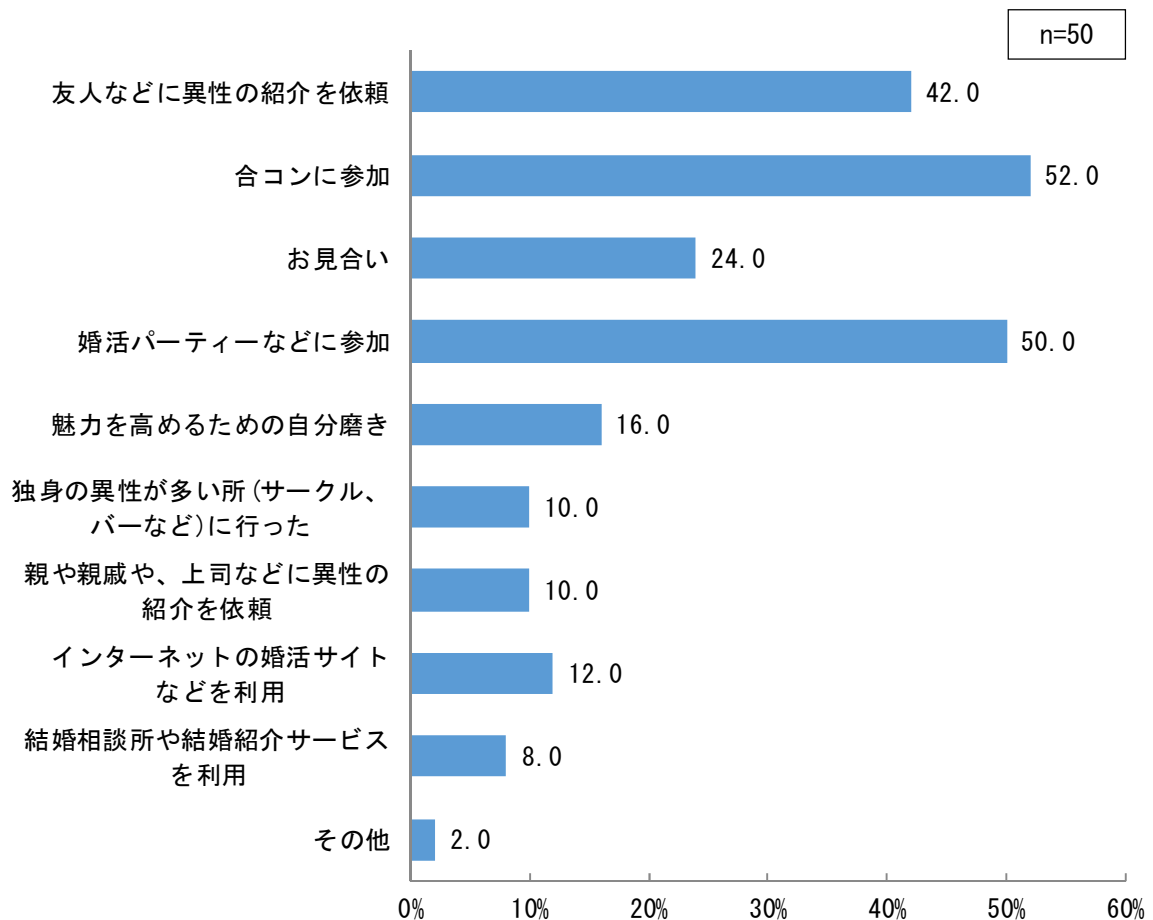
「婚活をしたことがない」母親が 81.0%となり、「婚活をしたことがある」母親の 10.4%より多くなっています。



問 13 婚活の内容を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

※問 13 は「問 12 婚活」で「1 婚活をしたことがある」を選んだ方のみ

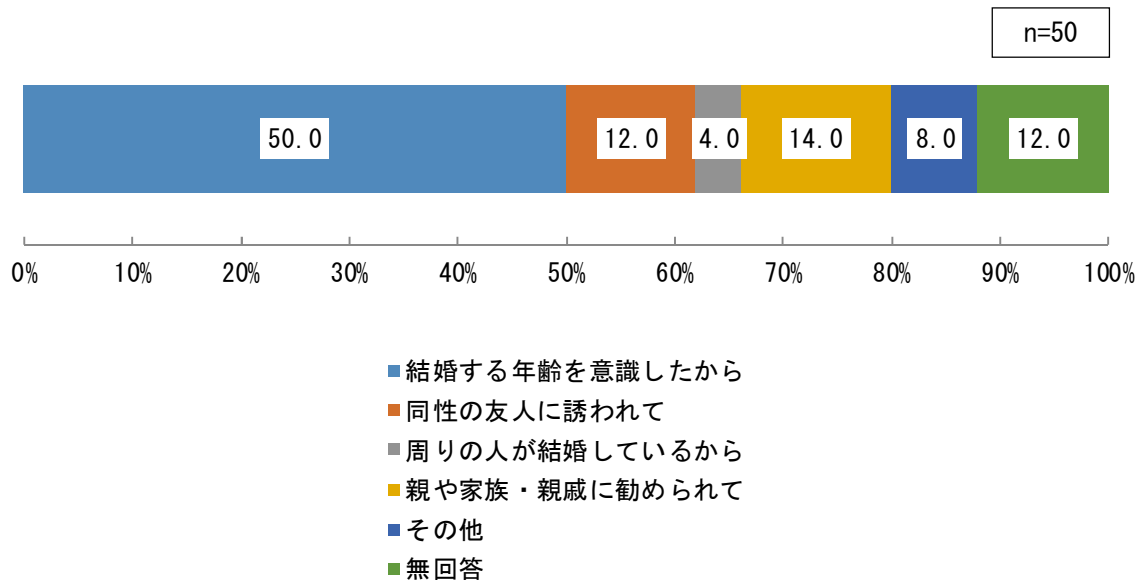
婚活経験者の母親のうち、「合コンに参加」が 52.0%と最も多く、次に「婚活パーティーなどに参加」が 50.0%、「友人などに異性の紹介を依頼」が 42.0%と多くなっています。



問 14 婚活を最初に始めたときの一番のきっかけを教えてください。(1つに○)

※問 14 は「問 12 婚活」で「1 婚活をしたことがある」を選んだ方のみ

婚活経験者のきっかけについては、「結婚する年齢を意識したから」が 50.0%と最も多く、次に「親や家族・親戚に勧められて」が 14.0%、「同性の友人に誘われて」が 12.0%と多くなっています。



問 15 お子さんは何人ですか。(記入)

※無記入は除く

子どもの人数は、加重平均により 2.0 人となっています。また、最頻値では「2 人」が 230 人と最も多く、次に「1 人」が 139 人と多くなっています。

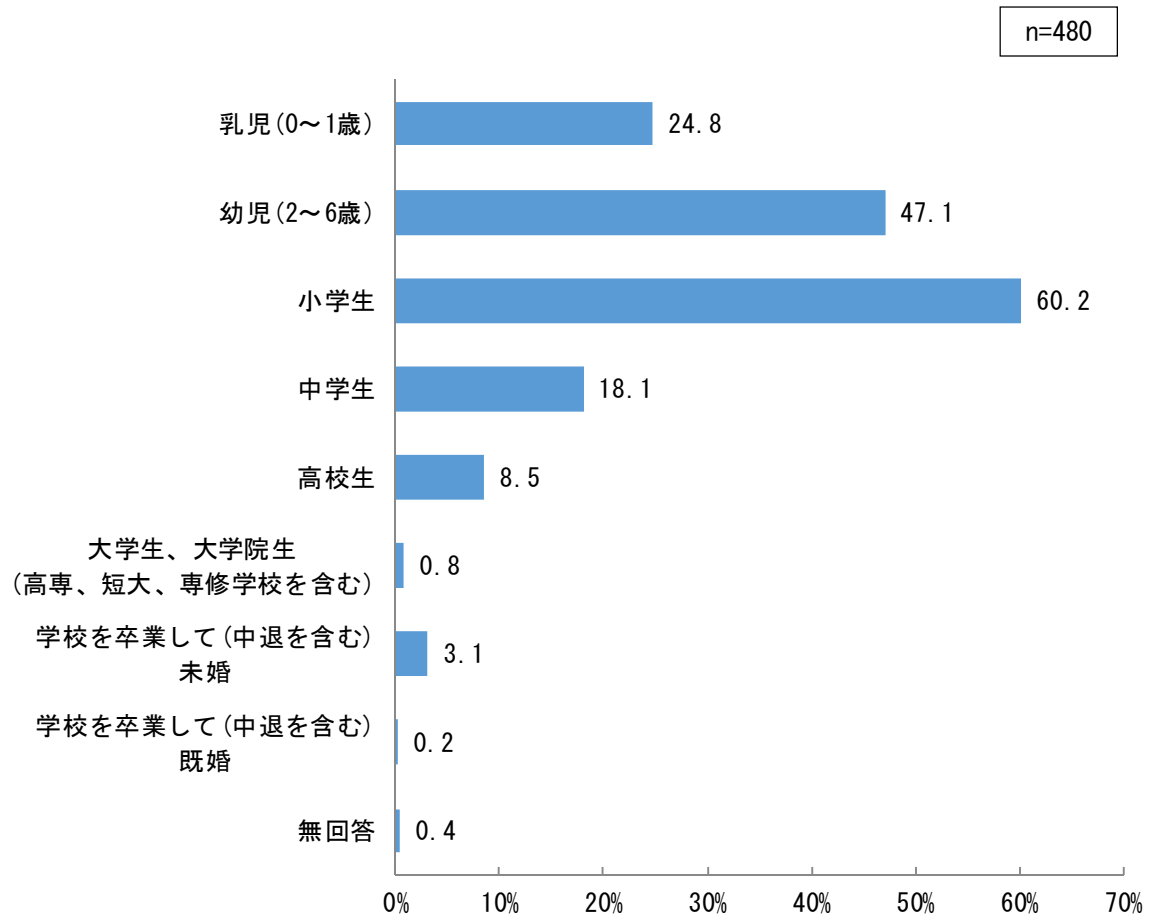
本市では、結婚(出産)後、平均 2.0 人の子どもを持つ母親が多いと言えますが、合計特殊出生率は 1.39(平成 25 年(2013 年))となっています。このことから、結婚し、本市で居住する母親の割合を高めることが重要であると考えられます。

n=478

子ども数	回答数	加重積
1人	139	139
2人	230	460
3人	88	264
4人	17	68
5人	2	10
7人	2	14
計	478	955
平均	2.0人	

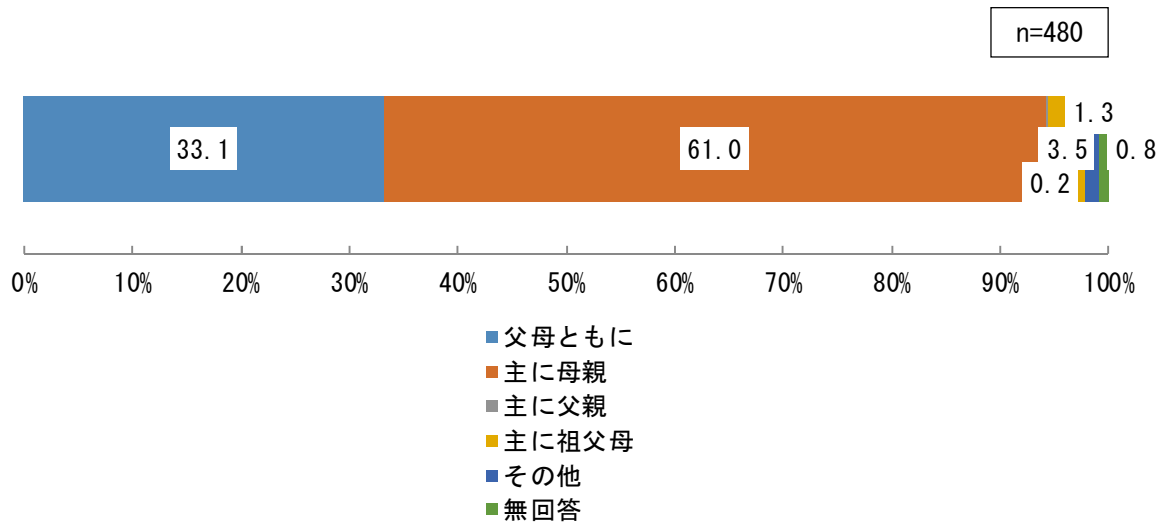
問 16 あなたのお子さんはどれにあたりますか。(あてはまるもの全てに○)

「小学生」が 60.2%と最も多く、次に「幼児(2～6 歳)」が 47.1%と多くなっています。



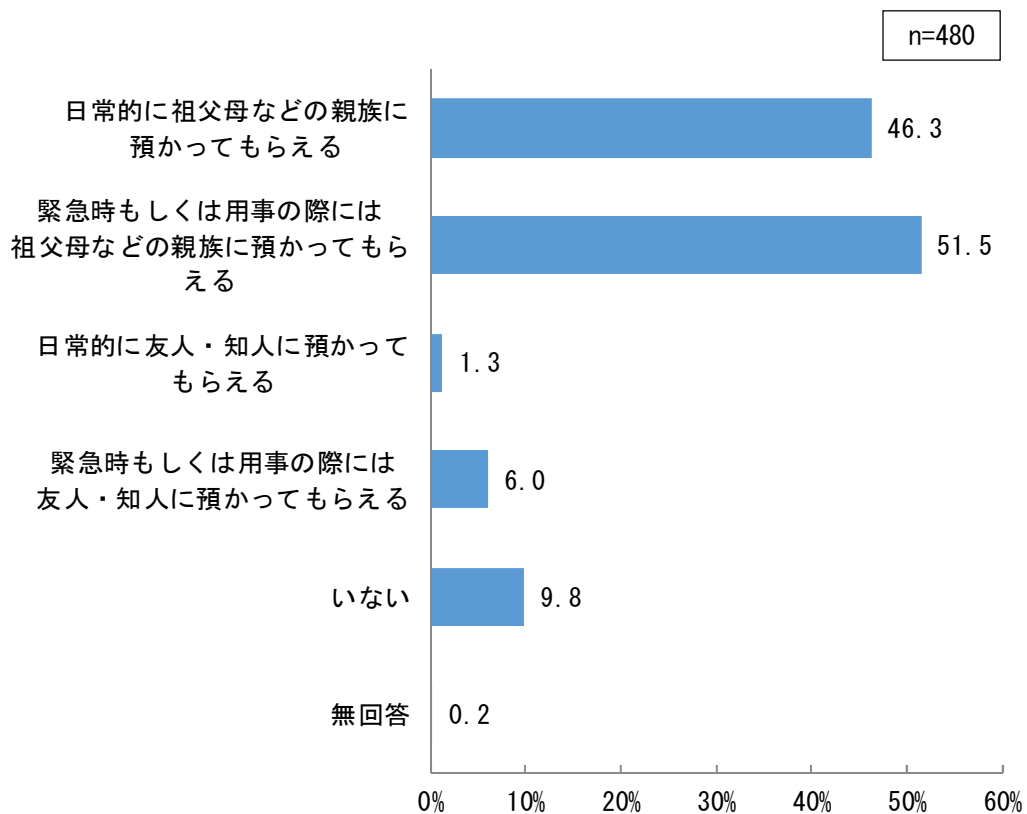
問 17 子育てを主に行っているのはどなたですか。(1 つに○)

子育てを行っているのは、「主に母親」が 61.0% となり最も多く、次に「父母ともに」が 33.1% と多くなっています。



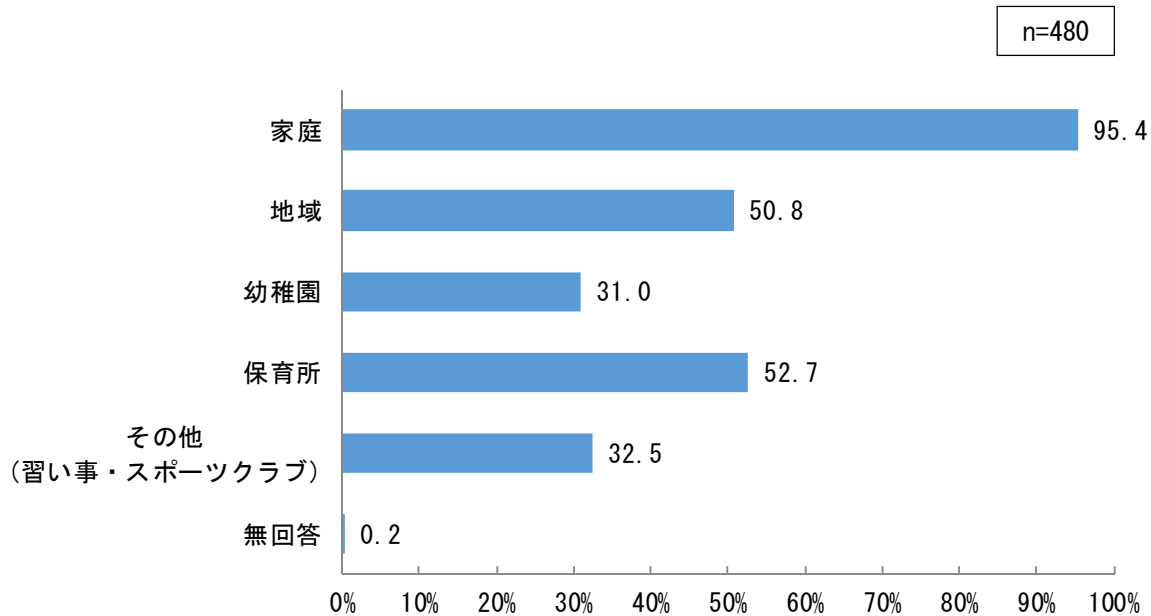
問 18 日頃、子どもを預かってもらえる人はいますか。(あてはまるもの全てに○)

子どもの預かり先については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる」母親が 51.5% と最も多く、「日常的に祖父母などの親族に預かってもらえる」母親が 46.3% と多くなっています。一方、「いない」母親は 9.8% でした。



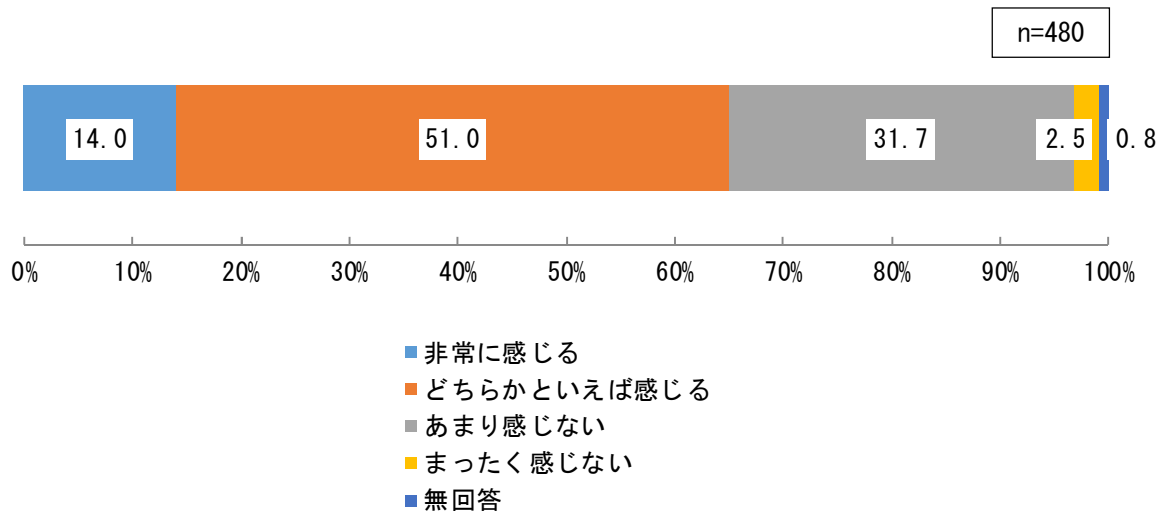
問 19 子育てや教育に影響すると思われる環境はどれですか。（あてはまるもの全てに○）

子育てや教育に影響する環境は、「家庭」が 95.4%と最も多く、次に「保育所」が 52.7%、「地域」が 50.8%となり、多くなっています。



問 20 子育てについての不安や負担を感じますか。（1 つに○）

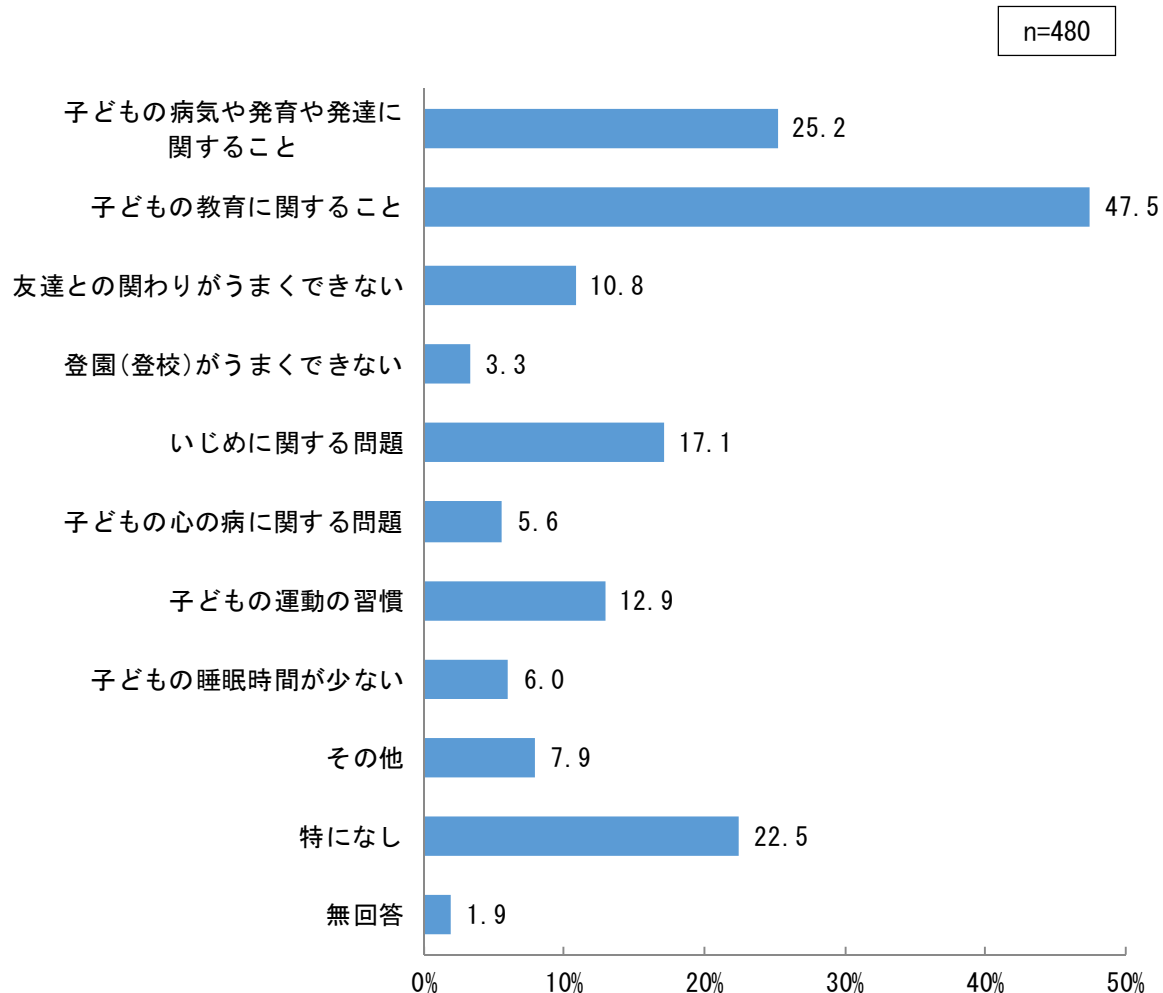
子育てへの不安や負担は、「非常に感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせて 65.0%の母親が子育てへの不安や負担を感じていることが明らかとなりました。



問 21 子どもについて悩んでいることや気になることはありますか。

(あてはまるもの全てに○)

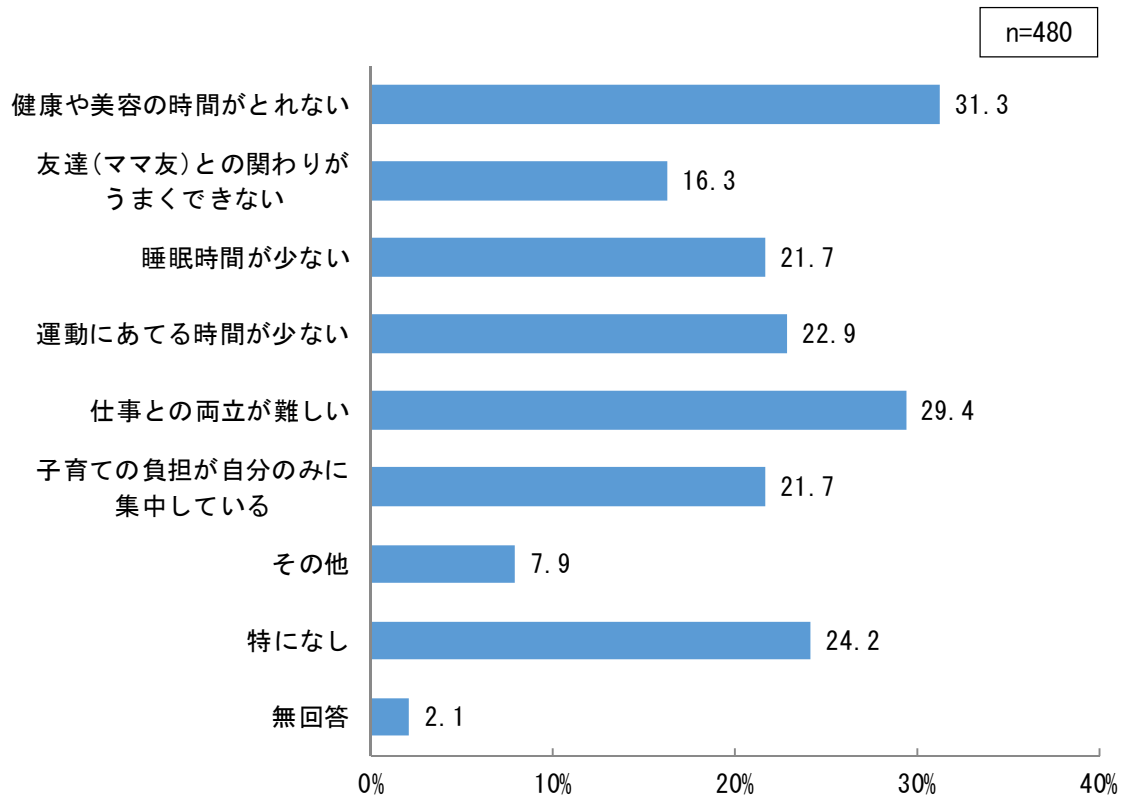
子どもについて悩んでいることについては、「子どもの教育に関すること」が 47.5%と最も多く、次に「子どもの病気や発育や発達に関すること」が 25.2%と多くなっています。



※ 「その他」 主な内訳・・・学校 1.5%

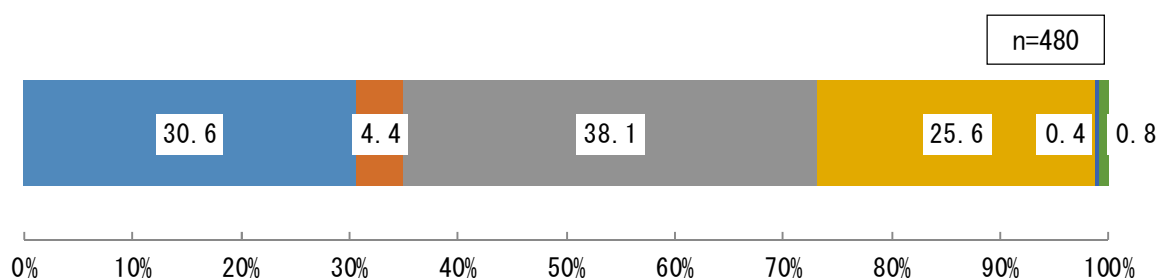
問 22 子育てに忙しく、自分自身について悩んでいることや気になることはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

母親自身の悩んでいることや気になることについては、「健康と美容の時間がとれない」が 31.3%と最も多く、次に「仕事との両立が難しい」が 29.4%と多くなっています。



問 23 あなたの就労状況を教えてください。(1 つに○)

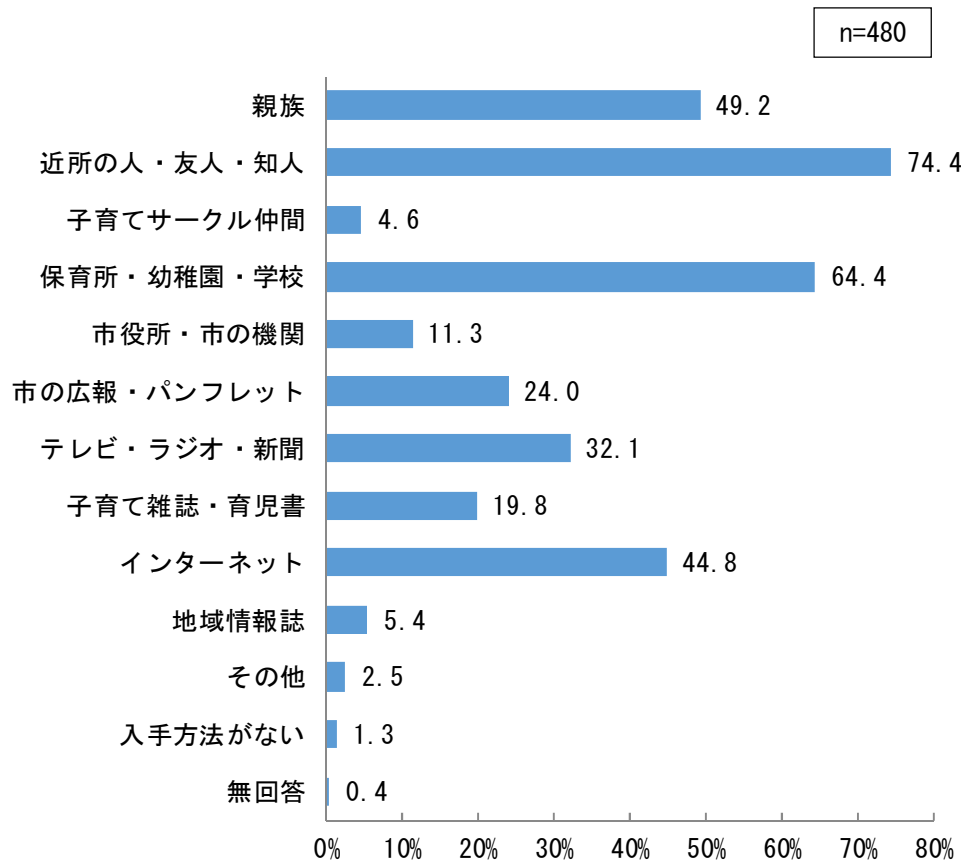
「パート・アルバイトで就労している」母親が 38.1%と最も多く、次に「フルタイムで就労している(産休、育児、介護休暇は含まない)」母親が、30.6%と多くなっています。



- フルタイムで就労している(産休、育児、介護休暇は含まない)
- フルタイムで就労しているが産休、育児、介護休暇中
- パート・アルバイトで就労している
- 以前は就労していたが現在は就労していない
- これまでに就労したことがない
- 無回答

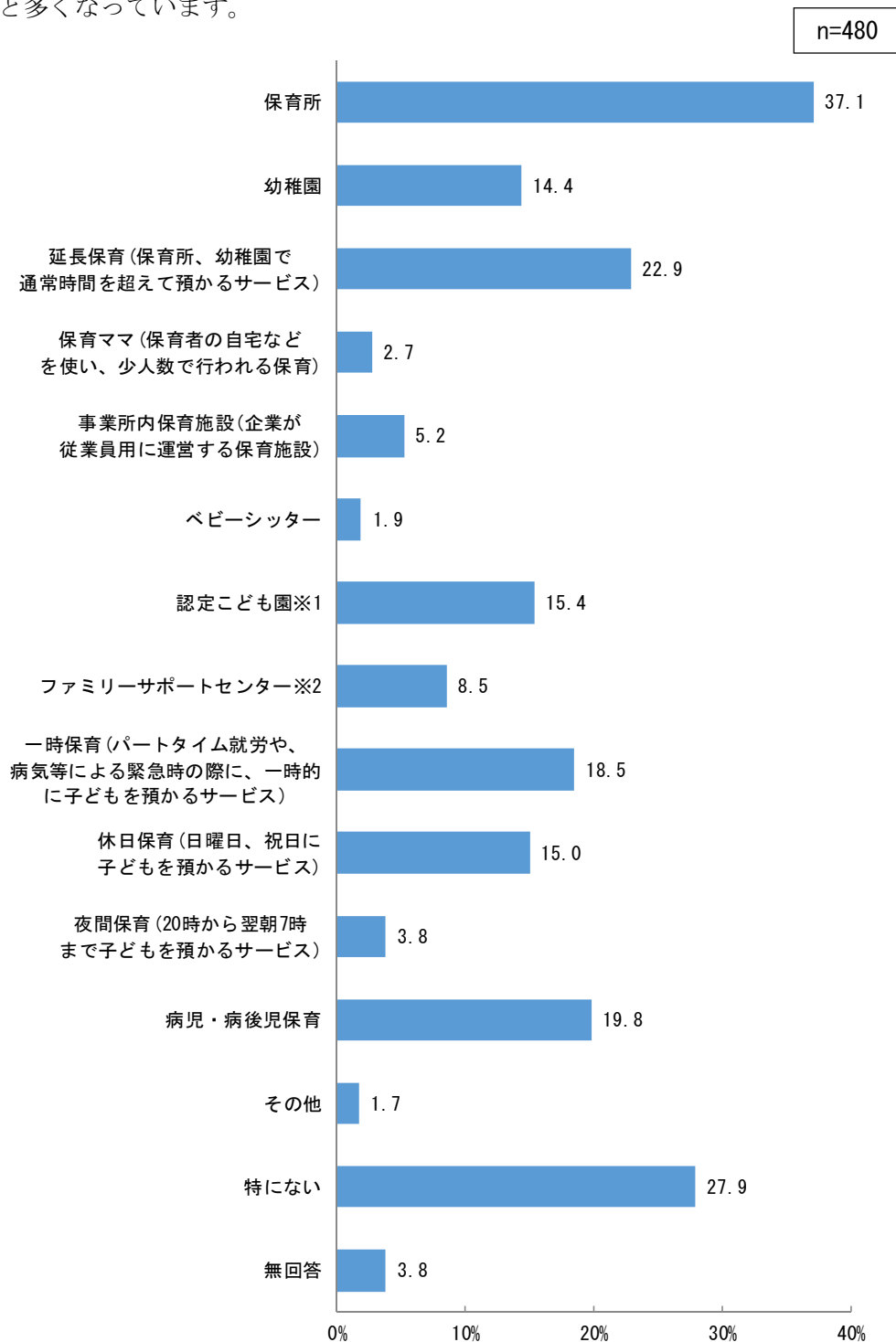
問 24 子育てに関する情報の入手先を教えてください。（あてはまるもの全てに○）

子育て情報の入手先については、「近所の人・友人・知人」が74.4%と最も多く、次に「保育所・幼稚園・学校」が64.4%、「親族」が49.2%、「インターネット」が44.8%と多くなっています。



問 25 今後、利用したい教育・保育の事業を教えてください。（あてはまるもの全てに○）

「保育所」が 37.1%と最も多く、次に「特にない」が 27.9%、「延長保育」が 22.9%と多くなっています。

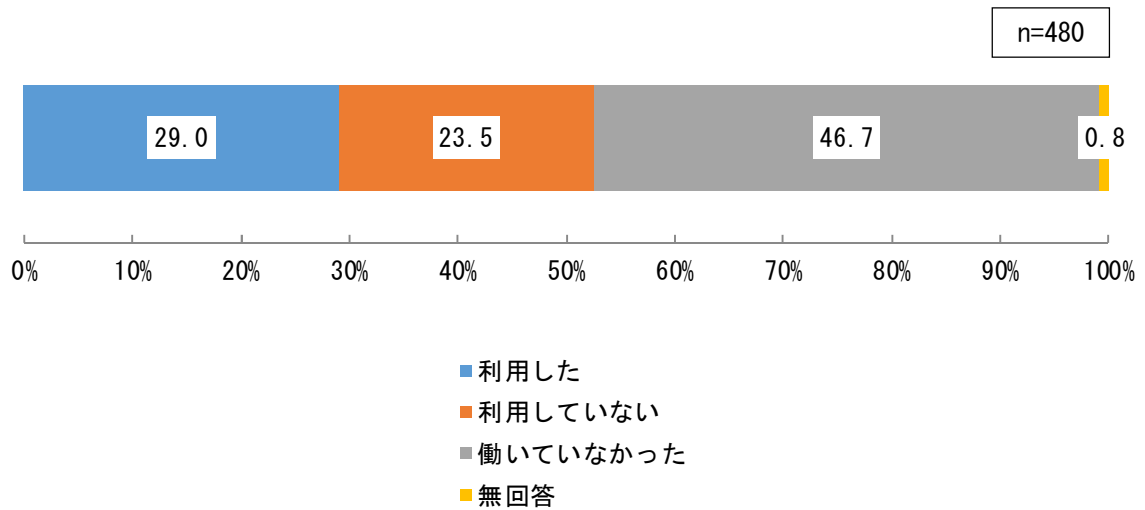


※1・・・教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持った施設。保護者が働いている、いないにかかわらず、受け入れが可能。

※2・・・育児や介護の援助を受けたい人、行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織。

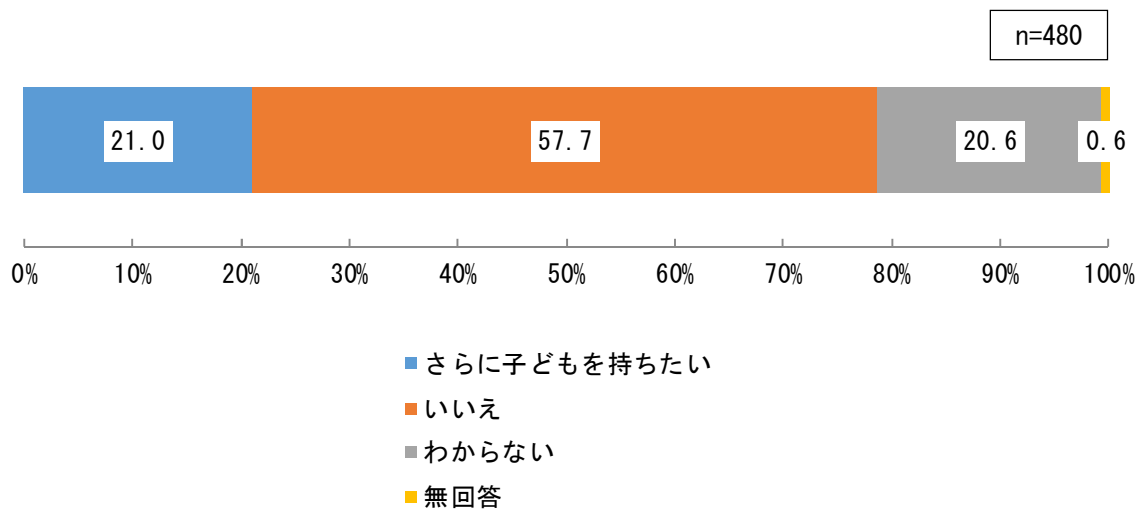
問 26 子どもが生まれたときのあなたの育児休業取得状況を教えてください。(1 つに○)

「働いていなかった」が 46.7%と最も多く、次に育児休業取得を「利用した」が 29.0%と多くなっています。



問 27 あなたは今後、さらに子どもを持ちたいと思いますか。(1 つに○)

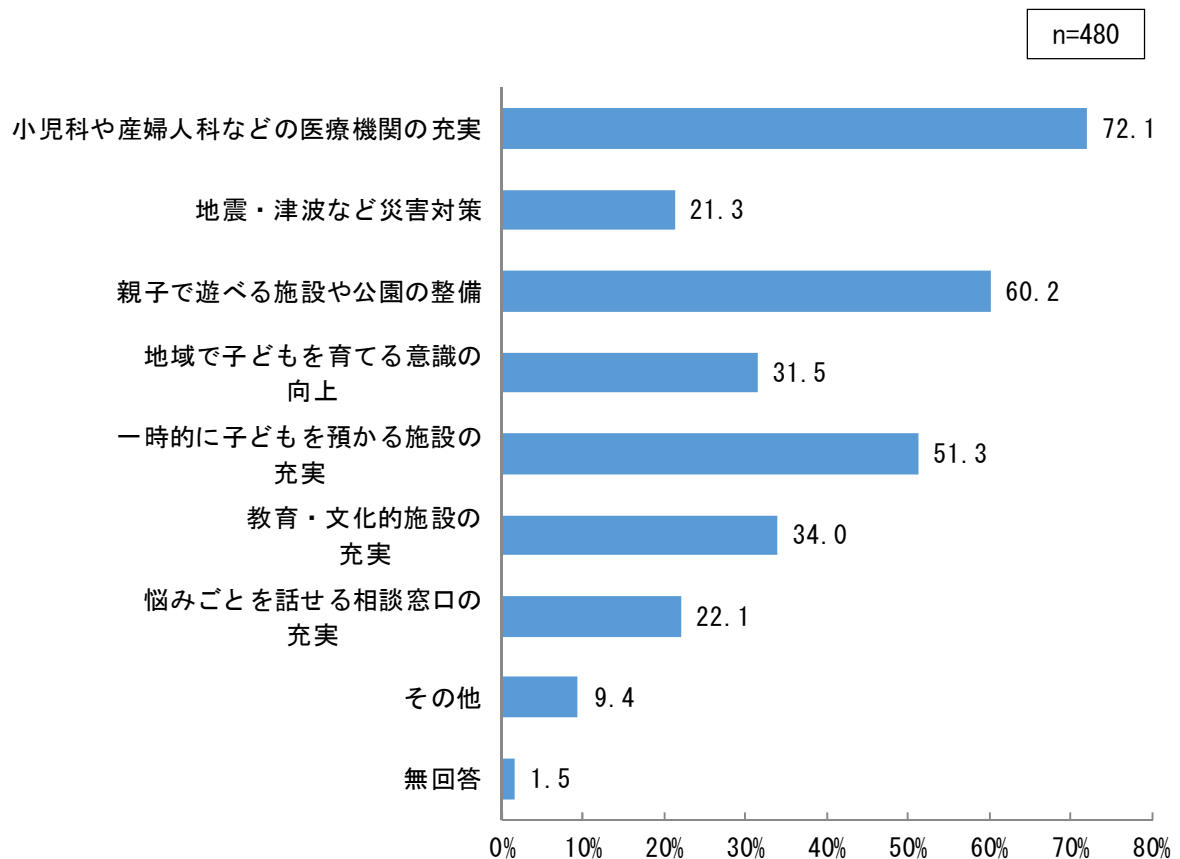
「子どもを持ちたくない」母親が 57.7%と最も多く、次に「さらに子どもを持ちたい」母親が 21.0%と多くなっています。



問 28 子どもを産み育てやすい環境にするため、市が取り組むべきことはどれですか。

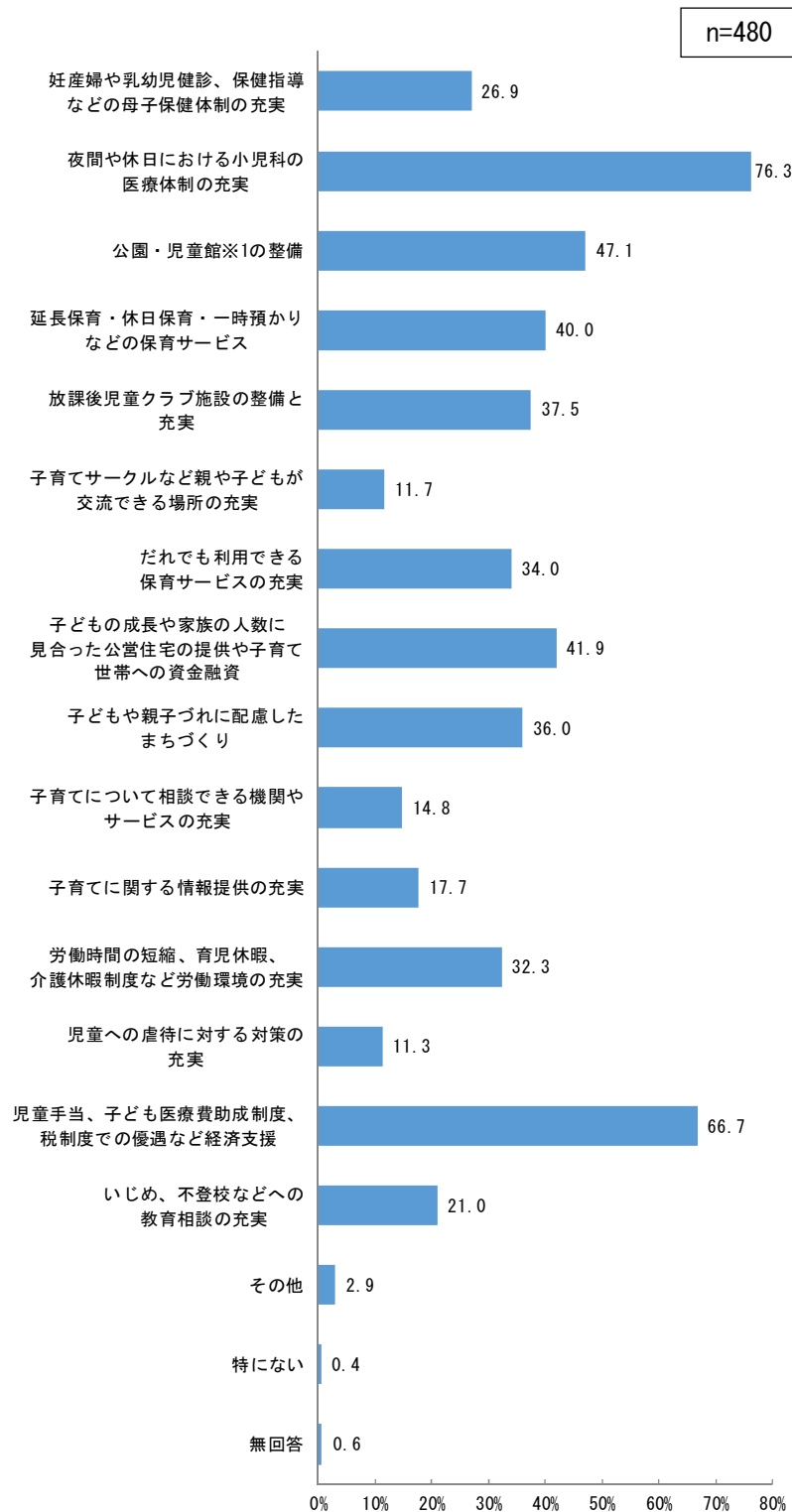
(あてはまるもの全てに○)

子どもを産み育てやすい環境にするための市の取組については、「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」が 72.1%と最も多く、次に「親子で遊べる施設や公園の整備」が 60.2%、「一時的に子どもを預かる施設の充実」が 51.3%と多くなっています。



問 29 市に実施してほしい子育て支援策を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

市に実施して欲しい子育て支援策については、「夜間や休日における小児科の医療体制の充実」が 76.3%と最も多く、次に「児童手当、子ども医療費助成制度、税制度での優遇など経済支援」が 66.7%、「公園・児童館※1の整備」が 47.1%と多くなっています。



※1・・・健全な遊びを通して、子どもの生活安定と能力発達を援助する施設

問 30 結婚・出産・子育てなどで困っている(いた)ことや、それに関する市へのご意見・ご要望・ご提案がありましたら、ぜひご記入ください。

分類2を見ると、「経済支援」が12.3%と最も多く、次に「行政サービス」が10.2%と多くなっています。

「問30 結婚・出産・子育て」 総括

回答者数 n=480

分類1		回答数	分類2	分類3
保育料の軽減	13	経済支援 (12.3% = 59/480)	経済支援 (12.3% = 59/480)	
サービス券配布	11			
教育負担軽減	2			
レンタルサービス	1			
その他経済支援	32			
婚活支援	2	婚活支援 (0.4% = 2/480)	結婚支援 (0.4% = 2/480)	
行政窓口の充実、対応改善	12	行政サービス (10.2% = 49/480)	子育て環境整備 (40.8% = 196/480)	
子育ての適切な情報提供	12			
子育て相談できる環境の整備	9			
子育てイベントの充実	8			
子育て交流支援	3			
育児教室	2			
育児施設の充実	2			
子育てサービスの格差是正	1			
小児科充実	9	子ども医療環境 (7.3% = 35/480)		
医療費軽減	7			
時間外診療	6			
医療サービス	3			
休日診療	3			
その他医療施設充実	7	子ども教育環境 (6.3% = 30/480)		
学童保育の充実	11			
教育環境の充実	8			
学習環境の充実	4			
障害児支援	3			
通学環境の改善	2			
緊急時の学校対応	1			
児童のカウンセリング	1			
保育サービスの充実	11	子ども保育環境 (8.8% = 42/480)		
休日保育	11			
一時保育	7			
病児保育	7			
夜間保育の充実	2			
待機児童の削減	2			
災害時の対応	1			
認定子ども園	1			
公園の充実	18			子ども遊び場所確保 (8.3% = 40/480)
雨天時の子ども施設	11			
遊び場所確保	9			
屋内子ども施設整備	2			
産婦人科充実	7	出産医療環境 (1.5% = 7/480)	出産環境整備 (1.5% = 7/480)	
道路安全性確保	8	住環境 (6% = 29/480)	生活環境整備 (6% = 29/480)	
雇用確保	8			
生活の利便性	6			
治安確保	5			
雇用環境の改善	2			
その他	35	その他 (7.3% = 35/480)	その他 (7.3% = 35/480)	

【アンケート調査票】



結婚・出産・子育てに関する アンケート調査

調査の目的とお願い

皆様におかれましては、日頃から市政にご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、現在わが国では、全国的な人口の減少を背景に「地方創生」に向けた取組が進められております。本市においても、少子高齢化や若者の地域離れを背景に、今後さらに人口減少が進行することが見込まれており、「西村市創生」に向けた取組を強化しているところです。

西村市の創生にあたっては、「結婚・出産・子育て」に関する支援が重要であると考えられるため、皆様から「結婚・出産・子育て」に関する率直なご意見をいただき、西村市の創生に向けた取組へと反映させていきたいと考えております。

この趣旨にご理解をいただき、以下のアンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 27 年 9 月
西村市 企画課 まちづくり戦略室

【ご記入にあたってのお願い】

- ・このアンケートは無記名です。
- ・このアンケートは、12歳以下のお子様を持つお母様を無作為に選んでお願いしております。
- ・お答えはアンケート用紙に直接ご記入ください。アンケートは両面です。
- ・「その他()」を選ばれた方は、()にその内容を簡潔にご記入ください。
- ・回答後、同封の封筒に入れ、封をして9月15日(火)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。
- ・これらのデータはアンケートの分析以外の目的には使用いたしません。
- ・この調査について不明な点があれば、下記までお問い合わせください。

西村市 企画課 まちづくり戦略室 TEL : 0479-73-0081 担当 : 大木、伊藤

I. あなたご自身について

問1 あなたのお住まいの地区を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1. 中央 | 2. 豊栄 | 3. 須賀 |
| 4. 匝瑳 | 5. 豊和 | 6. 吉田 |
| 7. 飯高 | 8. 共興 | 9. 平和 |
| 10. 椿海 | 11. 野田 | 12. 栄 |

問2 あなたの出身地を教えてください。(1つに○)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 匝瑳市内 | 2. 市外 () |
|---------|-----------|

問3 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 19歳以下 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 |
| 4. 40～49歳 | 5. 50～59歳 | 6. 60歳以上 |

問4 あなたの最終卒業学校を教えてください。(1つに○)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 匝瑳市内の学校 | 2. 匝瑳市外の学校 |
|------------|------------|

問5 あなたの雇用形態を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|--------|----------|--------------|
| 1. 正社員 | 2. 契約社員 | 3. 嘱託職員 |
| 4. 自営業 | 5. 農林水産業 | 6. パート・アルバイト |
| 7. 無職 | | |

問6 あなたの昨年の世帯年収を教えてください。(1つに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100万円以上～200万円未満 |
| 3. 200万円以上～300万円未満 | 4. 300万円以上～400万円未満 |
| 5. 400万円以上～500万円未満 | 6. 500万円以上～600万円未満 |
| 7. 600万円以上～700万円未満 | 8. 700万円以上 |

裏にお進みください

II. 結婚について

問7 あなたは結婚(事実婚を含む)されていますか。(1つに○)

1. 既婚（配偶者あり）・・・問8～問11へ
2. 既婚（配偶者と離別・死別）・・・問8、問10～問11へ
3. 未婚・・・問12へ

【問8は問7で1、2を選んだ方のみお答えください。】

問 8 結婚暦は何年ですか。(記入)

() 年

【問9は問7で1を選んだ方のみお答えください。】

問9 共働きですか。(1つに○)

1. はい 2. いいえ

【問 10 は問 7 で 1、2 を選んだ方のみお答えください。】

問10 結婚相手とはどのようなきっかけで知り合いましたか。(1つに○)

1. 学校
2. 職場や仕事関係
3. 幼なじみ・隣人関係
4. 学校以外のサークル・クラブ活動・習い事など
5. 友人の紹介
6. 親・親戚の紹介
7. お見合い
8. 結婚相談所
9. コンパ・合コン
10. 婚活パーティー
11. 街中・旅先など
12. アルバイト先
13. 同窓会
14. インターネット
15. その他（ ）

【問 11 は問 7 で 1、2 を選んだ方のみお答えください。】

問 11 結婚後、市内に住むことを選んだ理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 勤務先に近い | 2. 交通の便がよい |
| 3. スーパーなど生活施設に近い | 4. 近くに友人がいる |
| 5. 医療機関が充実している | 6. 実家に近い |
| 7. 地震や津波など自然災害に強い | 8. 娯楽施設に近い |
| 9. 自然環境ゆたか | 10. 騒音がなく静かな環境 |
| 11. 地価や物価が安い | 12. 資格取得(能力向上)できる場所がある |
| 13. スポーツ施設が近くにある | 14. 会社が多くある |
| 15. 近所付き合いが煩わしくない | 16. 有名なイベントや行事がある |
| 17. 公園や憩いの場がある | 18. 自分の土地が近くにある |
| 19. その他 () | |

問 12 あなたは婚活*経験がありますか。(1 つに○)

1. 婚活をしたことがある・・・問 13、問 14 へ
2. 婚活をしたことがない・・・問 15 へ

※婚活：結婚相手を見つけるための積極的な活動をすること。

【問 13 は問 12 で 1 を選んだ方のみお答えください。】

問 13 婚活の内容を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

1. 友人などに異性の紹介を依頼
2. 合コンに参加
3. お見合い
4. 婚活パーティーなどに参加
5. 魅力を高めるための自分磨き
6. 独身の異性が多い所(サークル、バーなど)に行った
7. 親や親戚や、上司などに異性の紹介を依頼
8. インターネットの婚活サイトなどを利用
9. 結婚相談所や結婚紹介サービスを利用
10. その他 ()

裏にお進みください

【問 14 は問 12 で 1 を選んだ方のみお答えください。】

問 14 婚活を最初に始めたときの一番のきっかけを教えてください。(1つに○)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 結婚する年齢を意識したから | 2. 同性の友人に誘われて |
| 3. 周りの人が結婚しているから | 4. 親や家族・親戚に勧められて |
| 5. 異性の友人に誘われて | 6. 友人が婚活をしているのをみて |
| 7. その他 () | |

Ⅲ. 出産・子育てについて

問 15 お子さんは何人ですか。(記入)

() 人

問 16 あなたのお子さんはどれにあたりますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1. 乳児 (0～1 歳) | 2. 幼児 (2～6 歳) |
| 3. 小学生 | 4. 中学生 |
| 5. 高校生 | |
| 6. 大学生、大学院生 (高専、短大、専修学校を含む) | |
| 7. 学校を卒業して (中退を含む) 未婚 | |
| 8. 学校を卒業して (中退を含む) 既婚 | |

問 17 子育てを主に行っているのはどなたですか。(1つに○)

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. 父母ともに | 2. 主に母親 | 3. 主に父親 |
| 4. 主に祖父母 | 5. その他 () | |

問 18 日頃、子どもを預かってもらえる人はいますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 日常的に祖父母などの親族に預かってもらえる
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族に預かってもらえる
3. 日常的に友人・知人に預かってもらえる
4. 緊急時もしくは用事の際には友人・知人に預かってもらえる
5. いない

問 19 子育てや教育に影響すると思われる環境はどれですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|--------|----------------------|--------|
| 1. 家庭 | 2. 地域 | 3. 幼稚園 |
| 4. 保育所 | 5. その他 (習い事・スポーツクラブ) | |

問 20 子育てについての不安や負担を感じますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|----------------|------------|
| 1. 非常に感じる | 2. どちらかといえば感じる | 3. あまり感じない |
| 4. まったく感じない | | |

問 21 子どもについて悩んでいることや気になることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 子どもの病気や発育や発達に関する事 | 2. 子どもの教育に関する事 |
| 3. 友達との関わりがうまくできない | 4. 登園(登校)がうまくできない |
| 5. いじめに関する問題 | 6. 子どもの心の病に関する問題 |
| 7. 子どもの運動の習慣 | 8. 子どもの睡眠時間が少ない |
| 9. その他 () | 10. 特になし |

問 22 子育てに忙しく、自分自身について悩んでいることや気になることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 健康や美容の時間がとれない | 2. 友達(ママ友)との関わりがうまくできない |
| 3. 睡眠時間が少ない | 4. 運動にあてる時間が少ない |
| 5. 仕事との両立が難しい | 6. 子育ての負担が自分のみに集中している |
| 7. その他 () | 8. 特になし |

問 23 あなたの就労状況を教えてください。(1つに○)

1. フルタイムで就労している (産休、育児、介護休暇は含まない)
2. フルタイムで就労しているが産休、育児、介護休暇中
3. パート・アルバイトで就労している
4. 以前は就労していたが現在は就労していない
5. これまでに就労したことがない

裏にお進みください

問 24 子育てに関する情報の入手先を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 親族 | 2. 近所の人・友人・知人 |
| 3. 子育てサークル仲間 | 4. 保育所・幼稚園・学校 |
| 5. 市役所・市の機関 | 6. 市の広報・パンフレット |
| 7. テレビ・ラジオ・新聞 | 8. 子育て雑誌・育児書 |
| 9. インターネット | 10. 地域情報誌 |
| 11. その他 () | 12. 入手方法がない |

問 25 今後、利用したい教育・保育の事業を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

1. 保育所
2. 幼稚園
3. 延長保育(保育所、幼稚園で通常時間を超えて預かるサービス)
4. 保育ママ(保育者の自宅などを使い、少人数で行われる保育)
5. 事業所内保育施設(企業が従業員用に運営する保育施設)
6. ベビーシッター
7. 認定こども園^{※1}
8. ファミリーサポートセンター^{※2}
9. 一時保育(パートタイム就労や、病気等による緊急時の際に、一時的に子どもを預かるサービス)
10. 休日保育(日曜日、祝日に子どもを預かるサービス)
11. 夜間保育(20時から翌朝7時まで子どもを預かるサービス)
12. 病児・病後児保育
13. その他 ()
14. 特にない

※1・・・教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持った施設。

保護者が働いている、いないにかかわらず、受け入れが可能。

※2・・・育児や介護の援助を受けたい人、行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う
会員組織。

問 26 子どもが生まれたときのあなたの育児休業取得状況を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|---------|------------|-------------|
| 1. 利用した | 2. 利用していない | 3. 働いていなかった |
|---------|------------|-------------|

問 27 あなたは今後、さらに子どもを持ちたいと思いますか。(1つに○)

1. さらに子どもを持ちたい
2. いいえ
3. わからない

問 28 子どもを産み育てやすい環境にするため、市が取り組むべきことはどれですか。

(あてはまるもの全てに○)

1. 小児科や産婦人科などの医療機関の充実
2. 地震・津波など災害対策
3. 親子で遊べる施設や公園の整備
4. 地域で子どもを育てる意識の向上
5. 一時的に子どもを預かる施設の充実
6. 教育・文化的施設の充実
7. 悩みごとを話せる相談窓口の充実
8. その他 ()

問 29 市に実施してほしい子育て支援策を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

1. 妊産婦や乳幼児健診、保健指導などの母子保健体制の充実
2. 夜間や休日における小児科の医療体制の充実
3. 公園・児童館※1の整備
4. 延長保育・休日保育・一時預かりなどの保育サービス
5. 放課後児童クラブ施設の整備と充実
6. 子育てサークルなど親や子どもが交流できる場所の充実
7. だれでも利用できる保育サービスの充実
8. 子どもの成長や家族の人数に見合った公営住宅の提供や子育て世帯への資金融資
9. 子どもや親子づれに配慮したまちづくり
10. 子育てについて相談できる機関やサービスの充実
11. 子育てに関する情報提供の充実
12. 労働時間の短縮、育児休暇、介護休暇制度など労働環境の充実
13. 児童への虐待に対する対策の充実
14. 児童手当、子ども医療費助成制度、税制度での優遇など経済支援
15. いじめ、不登校などへの教育相談の充実
16. その他 ()
17. 特にない

※1・・・健全な遊びを通して、子どもの生活安定と能力発達を援助する施設

裏にお進みください

Ⅳ. ご意見等について

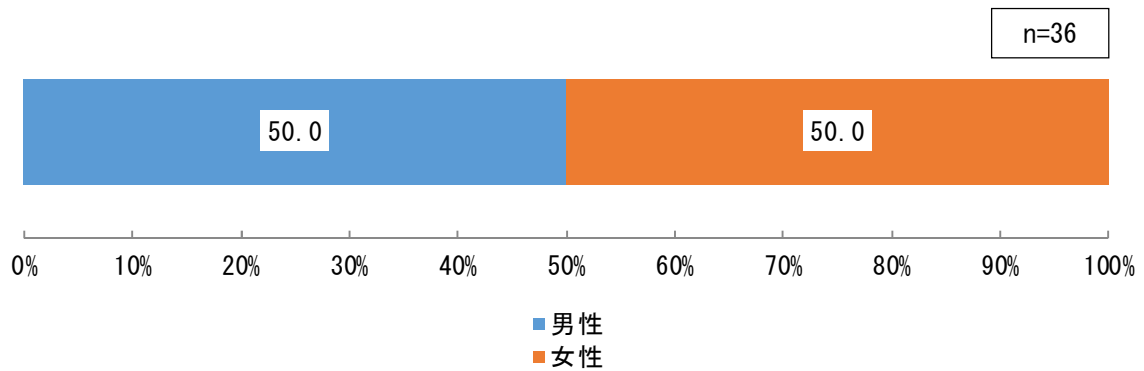
[illegible]

ご協力ありがとうございました

6 匝瑳市の転入者に対するアンケート調査結果

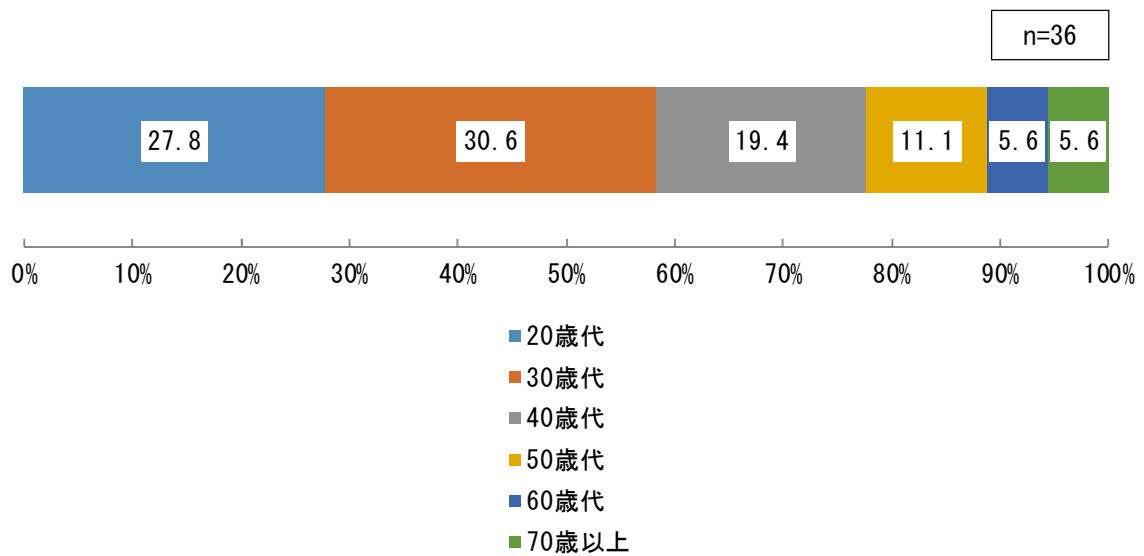
問1 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

「男性」「女性」とも50.0%となっています。



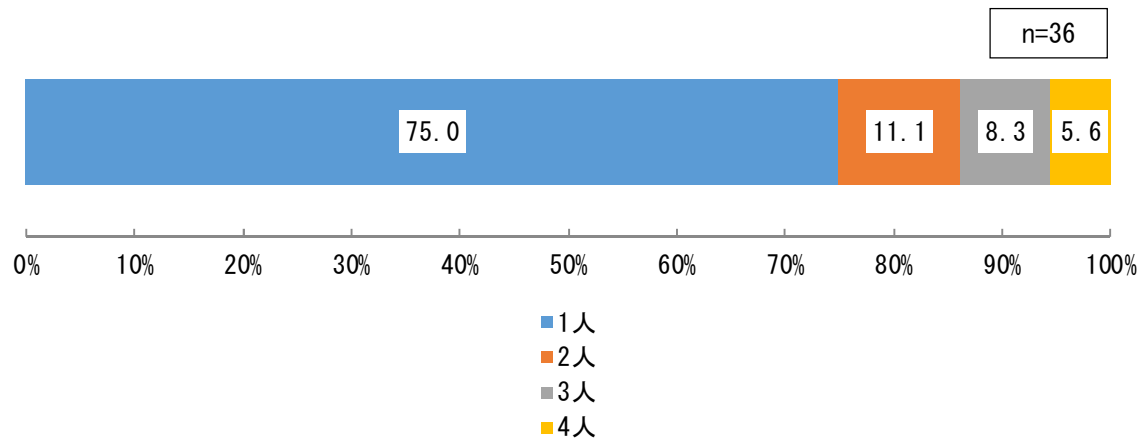
問2 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

「30歳代」が30.6%と多く、次に「20歳代」が27.8%と多くなっています。



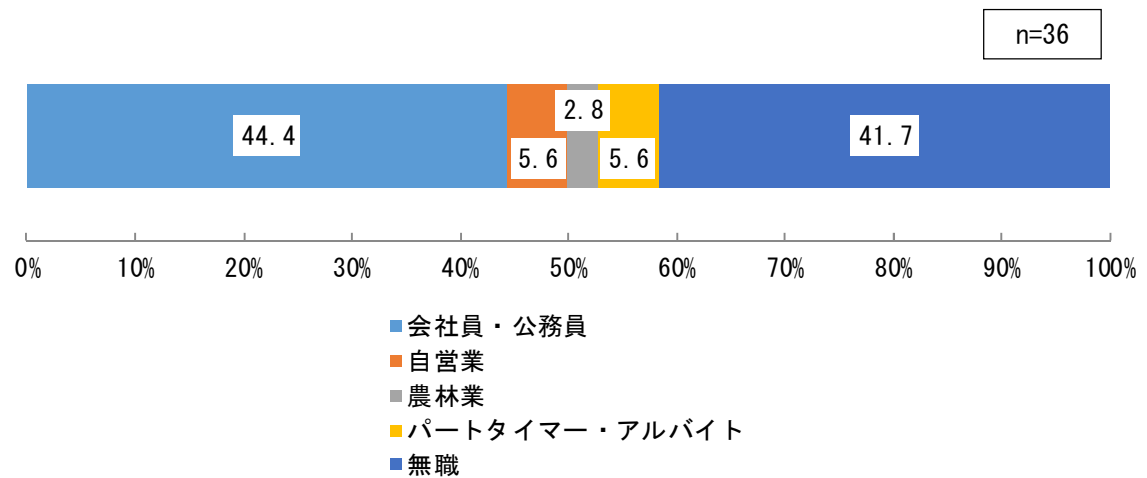
問3 転入人数を教えてください。(1つに○)

転入人数は「1人」が75.0%と最も多くなっています。



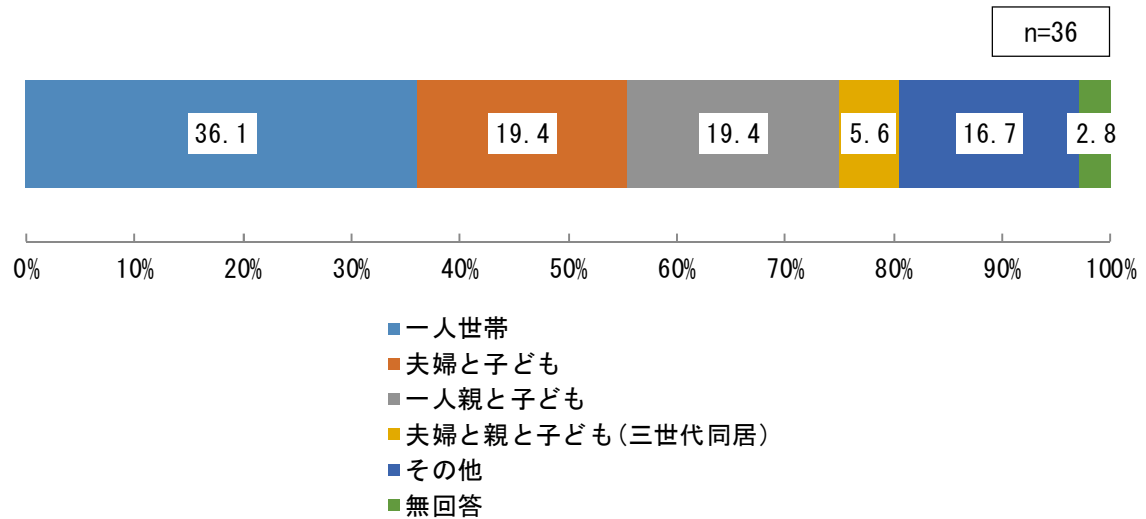
問4 あなたの職業を教えてください。(1つに○)

「会社員・公務員」が44.4%と最も多く、次に「無職」が41.7%と多くなっています。



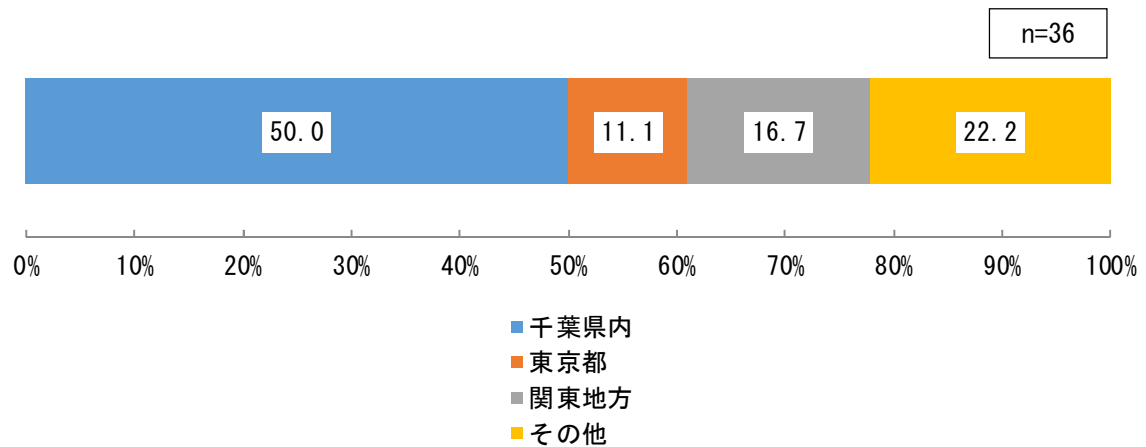
問 5 あなたの転入後の家族構成を教えてください。(1 つに○)

「一人世帯」が 36.1%と最も多く、次に「夫婦と子ども」「一人親と子ども」が 19.4%と多くなっています。



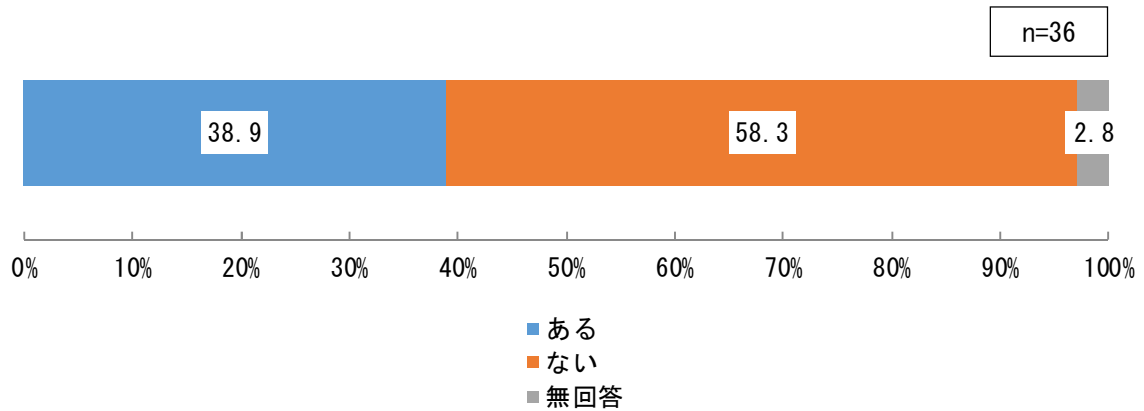
問 6 あなたの転入前の居住地を教えてください。(1 つに○)

「千葉県内」が 50.0%と最も多く、次に「その他」が 22.2%と多くなっています。



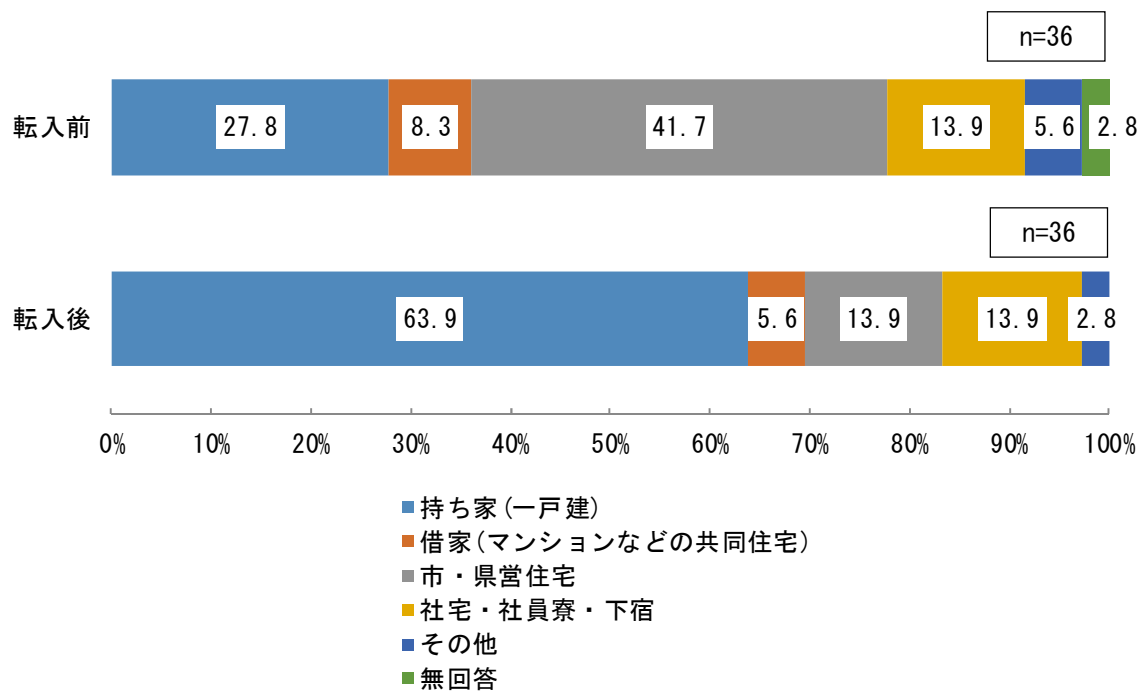
問 7 あなたの転入以前の匝瑳市への居住経験を教えてください。(1 つに○)

匝瑳市に住んだことが「ない」転入者が 58.3%となり、住んだことが「ある」転入者の 38.9%より多くなっています。



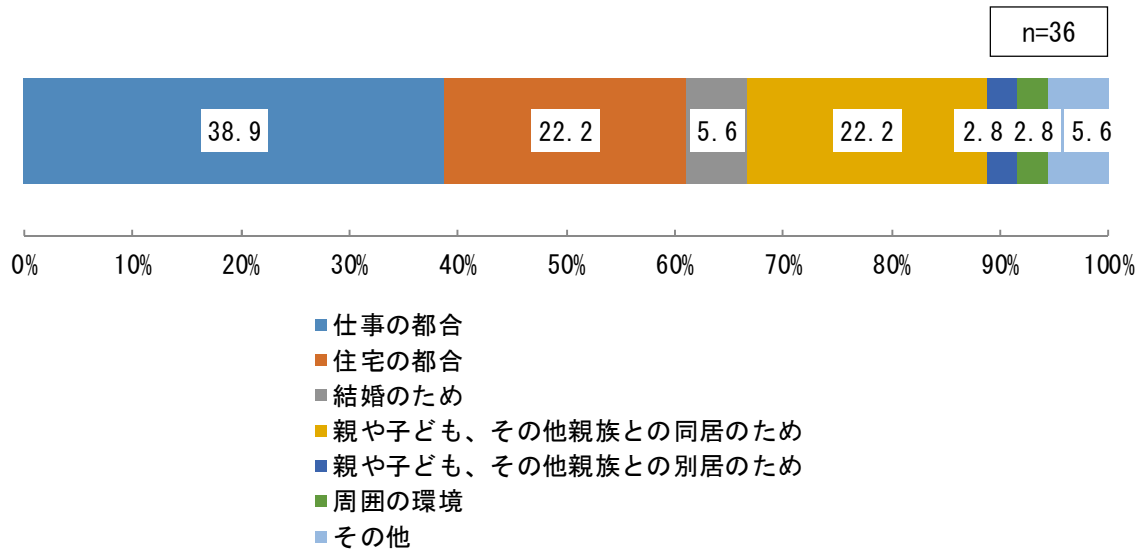
問 8 あなたの転入前・転入後のお住まいの状況を教えてください。(1 つに○)

転入前は「市・県営住宅」が 41.7%と最も多く、転入後は「持ち家(一戸建)」が 63.9%と最も多くなっています。



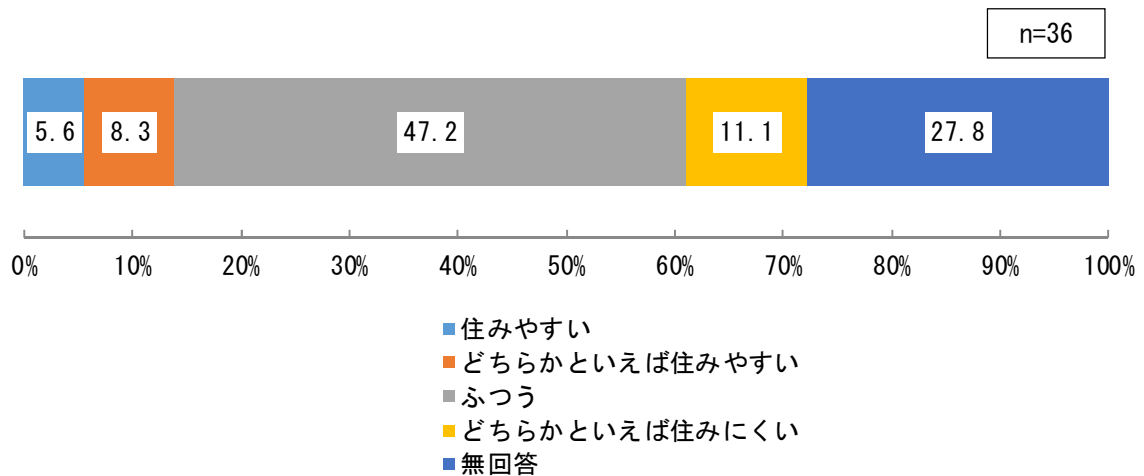
問 9 あなたの転入要因を教えてください。(1 つに○)

「仕事の都合」が 38.9%と最も多く、次に「住宅の都合」「親や子ども、その他親族との同居のため」が 22.2%と多くなっています。



問 10 あなたの匝瑳市に対する現在の評価を教えてください。(1 つに○)

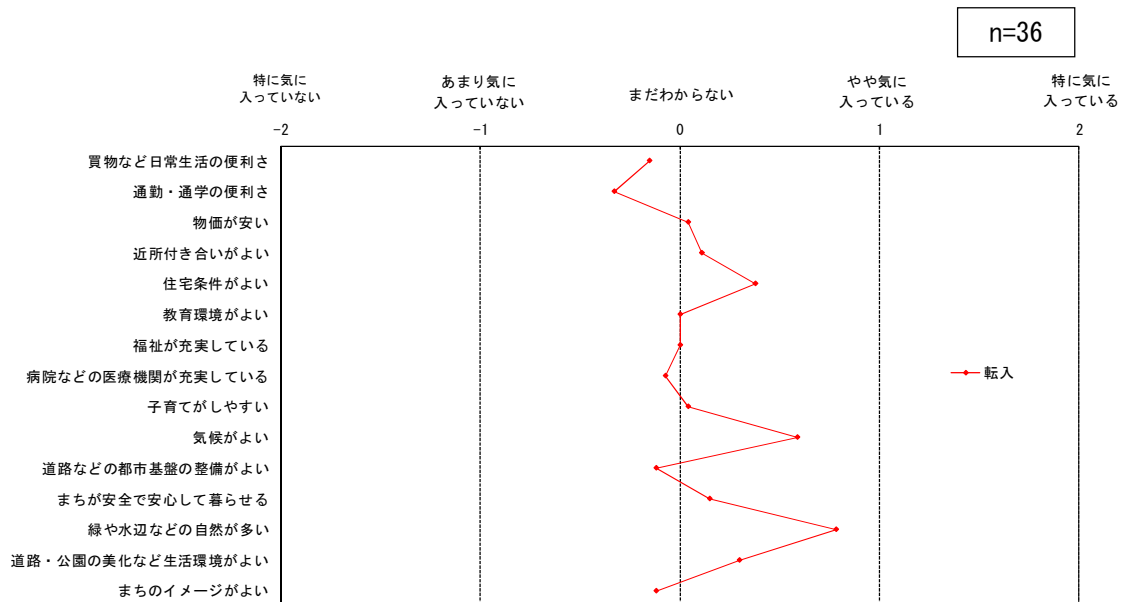
「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が合わせて 13.9%と多くなっています。一方、「どちらかといえば住みにくい」が 11.1%となっています。



問 11 あなたの匝瑳市に対する現在の評価を項目毎に教えてください。(項目毎に1つ○)

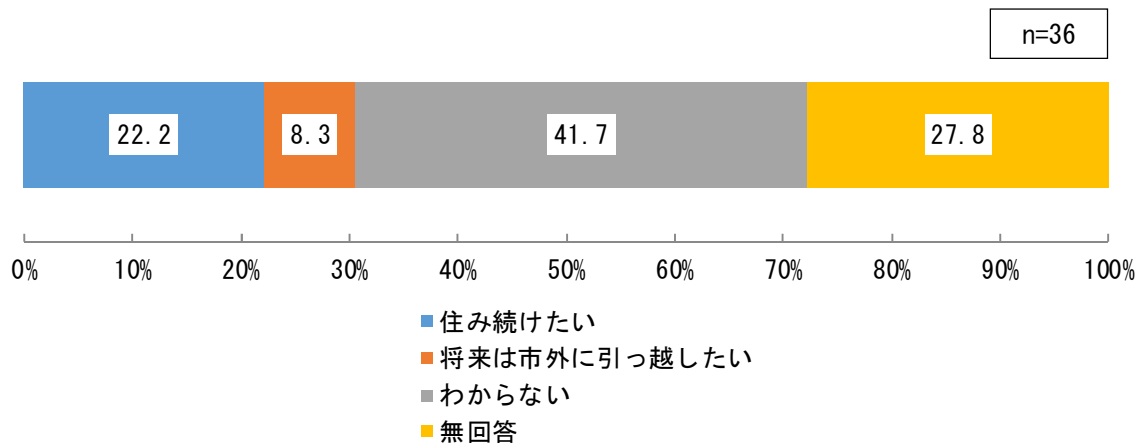
※「16. その他」の回答はありませんでした。

「緑や水辺などの自然が多い」の評価が最も高く、次に「気候がよい」の評価が高くなっています。一方、「通勤・通学の便利さ」の評価が最も低くなっています。



問 12 あなたの今後の匝瑳市での居留意向を教えてください。(1つに○)

「わからない」が41.7%と最も多くなっている。



【アンケート調査票】

匝瑳市の転入者へのアンケート

今後の匝瑳市の定住促進対策の考え方の参考にさせていただきますので、アンケートへのご協力をお願いします。

あてはまる回答に「○」を付け、具体的な内容・理由がある場合は()内に記入してください。

- 問1. あなたの性別を教えてください。(1つに○)
1. 男性 2. 女性
- 問2. あなたの年齢を教えてください。(1つに○)
1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代
4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代
7. 70歳以上
- 問3. 転入人数を教えてください。(1つに○)
1. 1人 2. 2人 3. 3人
4. 4人 5. 5人 6. 6人以上
- 問4. あなたの職業を教えてください。(1つに○)
1. 会社員・公務員 2. 自営業
3. 農林業 4. パートタイマー・アルバイト
5. 学生 6. 無職
7. その他()
- 問5. あなたの転入後の家族構成を教えてください。(1つに○)
1. 一人世帯 2. 夫婦のみ
3. 夫婦と子ども 4. 一人親と子ども
5. 夫婦と親と子ども(三世帯同居) 6. その他()
- 問6. あなたの転入前の居住地を教えてください。(1つに○)
1. 千葉県内 2. 東京都
3. 関東地方 4. その他()
- 問7. あなたの転入以前の匝瑳市への居住経験を教えてください。(1つに○)
1. ある 2. ない
- 問8-1. あなたの転入前のお住まいの状況を教えてください。(1つに○)
1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなどの共同住宅)
3. 借家(一戸建) 4. 借家(マンションなどの共同住宅)
5. 市・県営住宅 6. 社宅・社員寮・下宿
7. その他()
- 問8-2. あなたの転入後のお住まいの状況を教えてください。(1つに○)
1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなどの共同住宅)
3. 借家(一戸建) 4. 借家(マンションなどの共同住宅)
5. 市・県営住宅 6. 社宅・社員寮・下宿
7. その他()
- 問9. あなたの転入要因を教えてください。(1つに○)
1. 仕事の都合
2. あなたの学校の都合
3. お子さんの学校の都合
4. 住宅の都合
5. 結婚のため
6. 親や子ども、その他親族との同居のため
7. 親や子ども、その他親族との近居のため
8. 親や子ども、その他親族との別居のため
9. 周囲の環境
10. その他()

裏につづく

問10. あなたの匝瑛市に対する現在の評価を教えてください。(1つに○)

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. ふつう | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 5. 住みにくい | |

問11. あなたの匝瑛市に対する現在の評価を項目毎に教えてください。
(項目毎に1つ○)

	特に 気に入 っている	やや 気に入 っている	まだ わから ない	あま り気に入 っていない	特に 気に入 っていない
(例) 買物など日常生活の便利さ		○			
1. 買物など日常生活の便利さ					
2. 通勤・通学の便利さ					
3. 物価が安い					
4. 近所付き合いがよい					
5. 住宅条件がよい					
6. 教育環境がよい					
7. 福祉が充実している					
8. 病院などの医療機関が充実している					
9. 子育てがしやすい					
10. 気候がよい					
11. 道路などの都市基盤の整備がよい					
12. まちが安全で安心して暮らせる					
13. 緑や水辺などの自然が多い					
14. 道路・公園の美化など生活環境がよい					
15. まちのイメージがよい					
16. その他()					

問12. あなたの今後の匝瑛市での居留意向を教えてください。(1つに○)

1. 住み続けたい
2. 将来は市外に引っ越したい
3. わからない

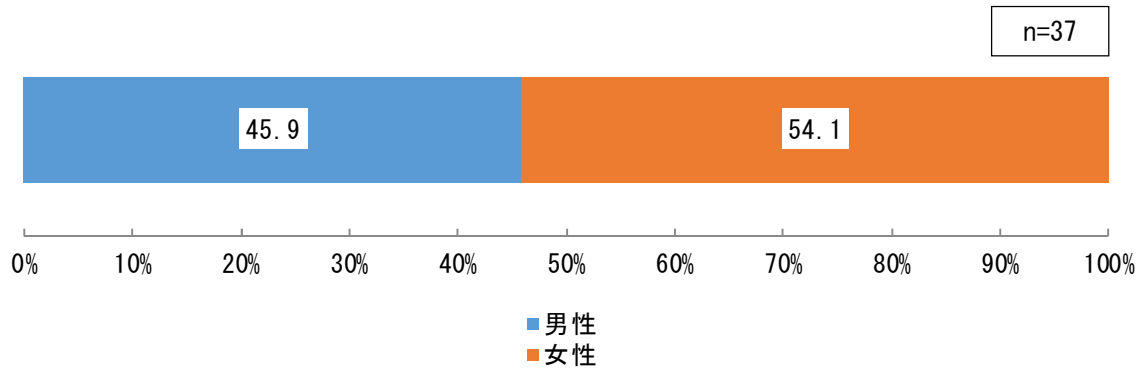
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

(匝瑛市役所 企画課 まちづくり戦略室)

7 匝瑳市の転出者に対するアンケート調査結果

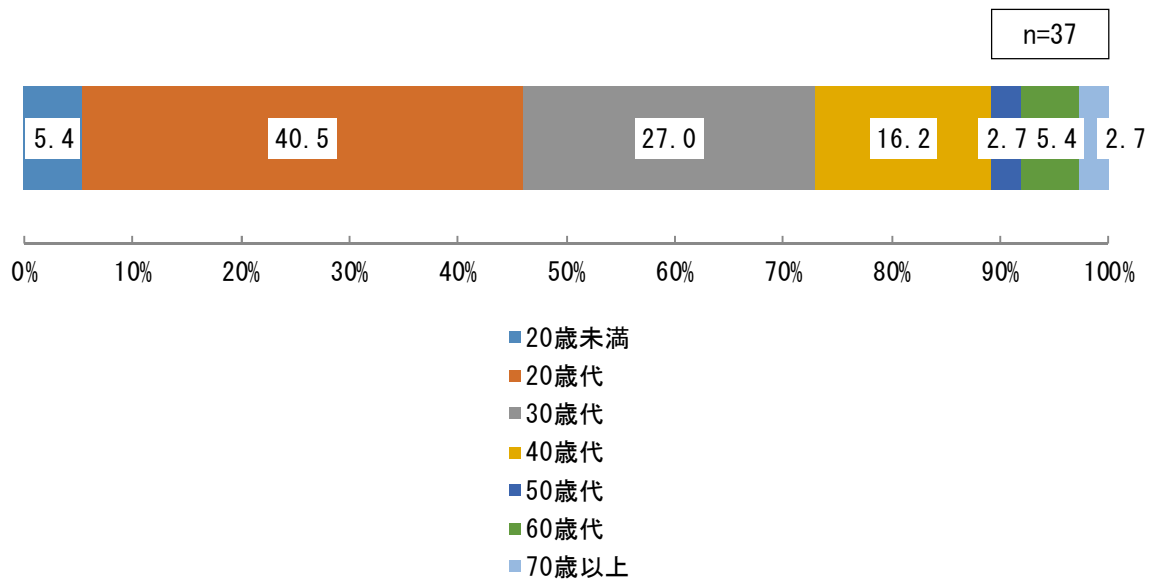
問1 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

「女性」が54.1%となり、「男性」の45.9%より多くなっています。



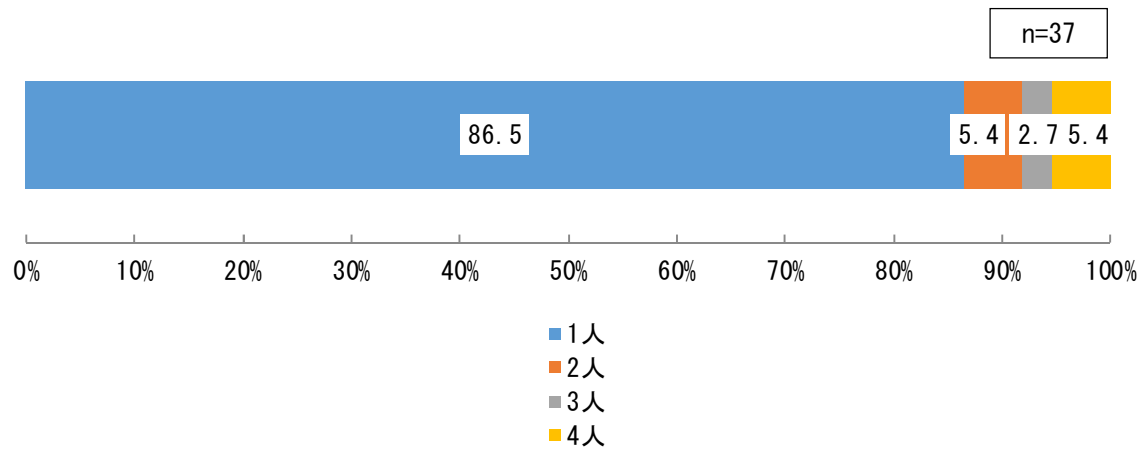
問2 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

「20歳代」が40.5%と最も多く、次に「30歳代」が27.0%と多くなっています。



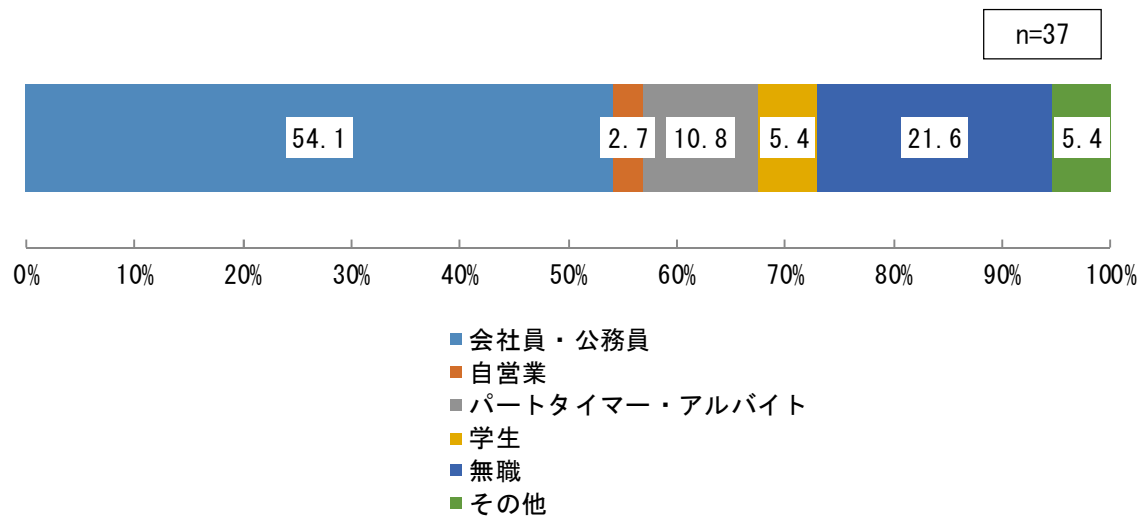
問3 転出人数を教えてください。(1つに○)

転出人数は「1人」が86.5%と最も多くなっています。



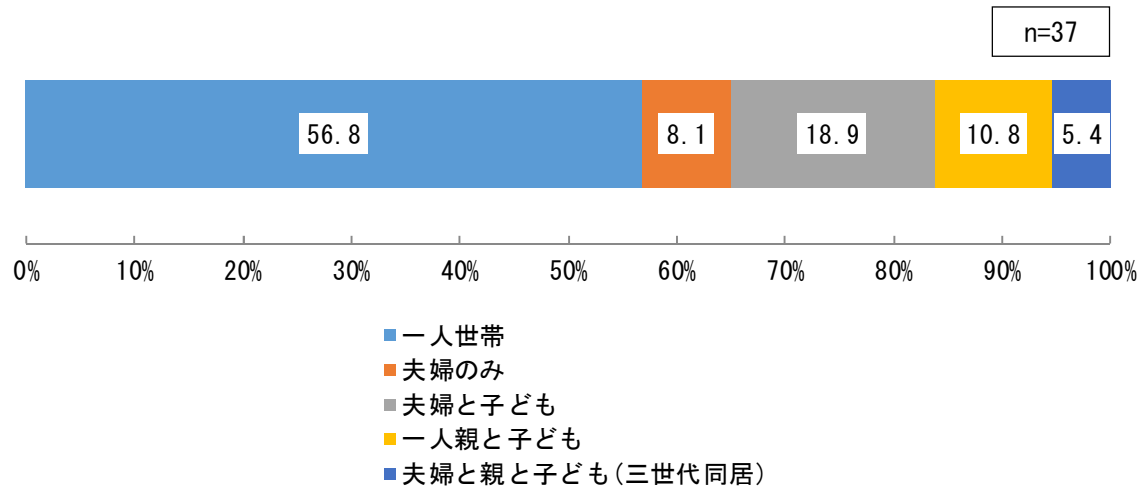
問4 あなたの職業を教えてください。(1つに○)

「会社員・公務員」が54.1%と最も多く、次に「無職」が21.6%と多くなっています。



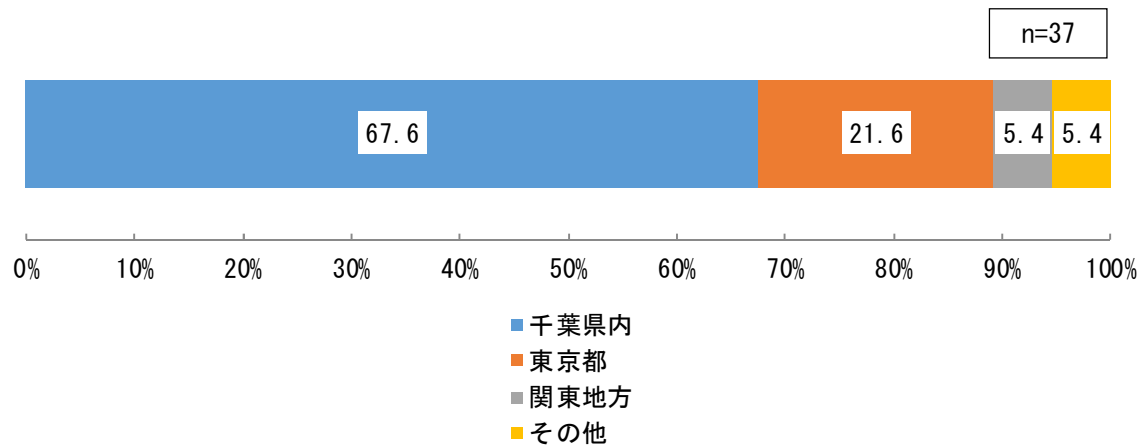
問5 あなたの転出後の家族構成を教えてください。(1つに○)

「一人世帯」が56.8%と最も多く、次に「夫婦と子ども」が18.9%と多くなっています。



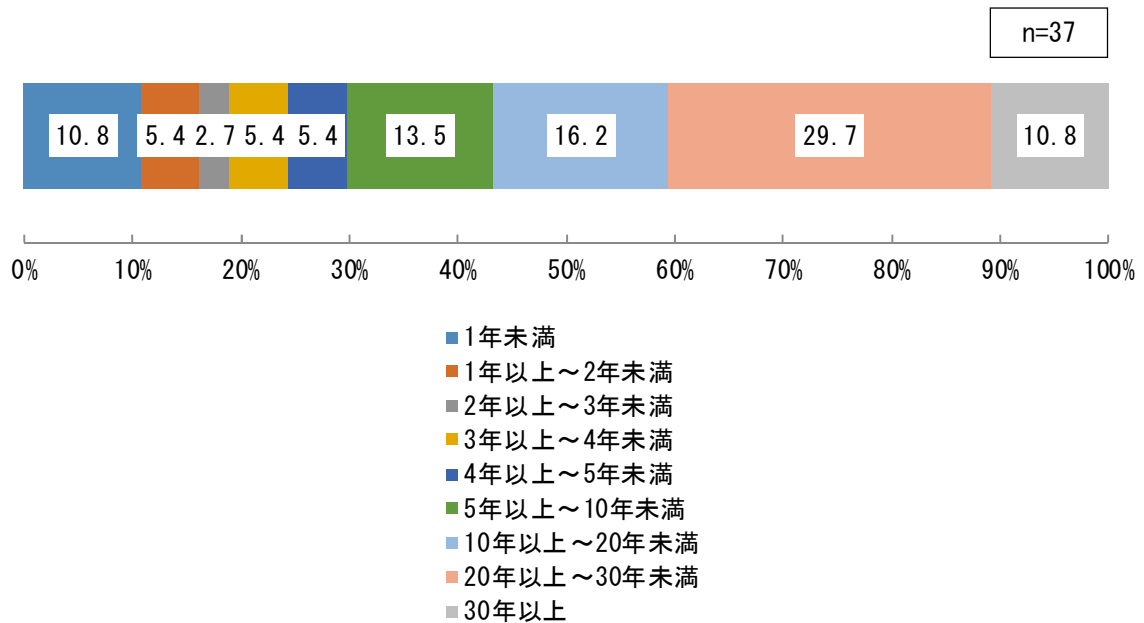
問6 あなたの転出後の居住地を教えてください。(1つに○)

「千葉県内」が67.6%と最も多く、次に「東京都」が21.6%と多くなっています。



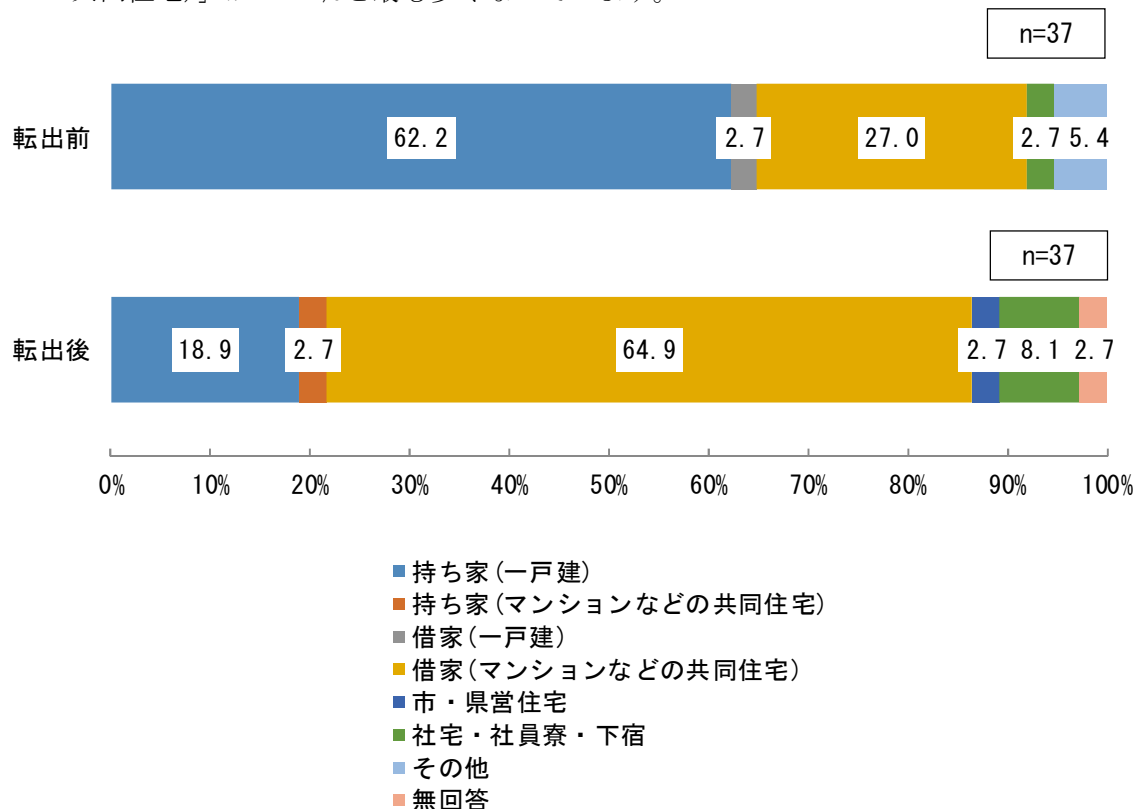
問7 あなたの匝瑳市での居住年数を教えてください。(1つに○)

「20年以上～30年未満」が29.7%と最も多く、次に「10年以上～20年未満」が16.2%と多くなっています。



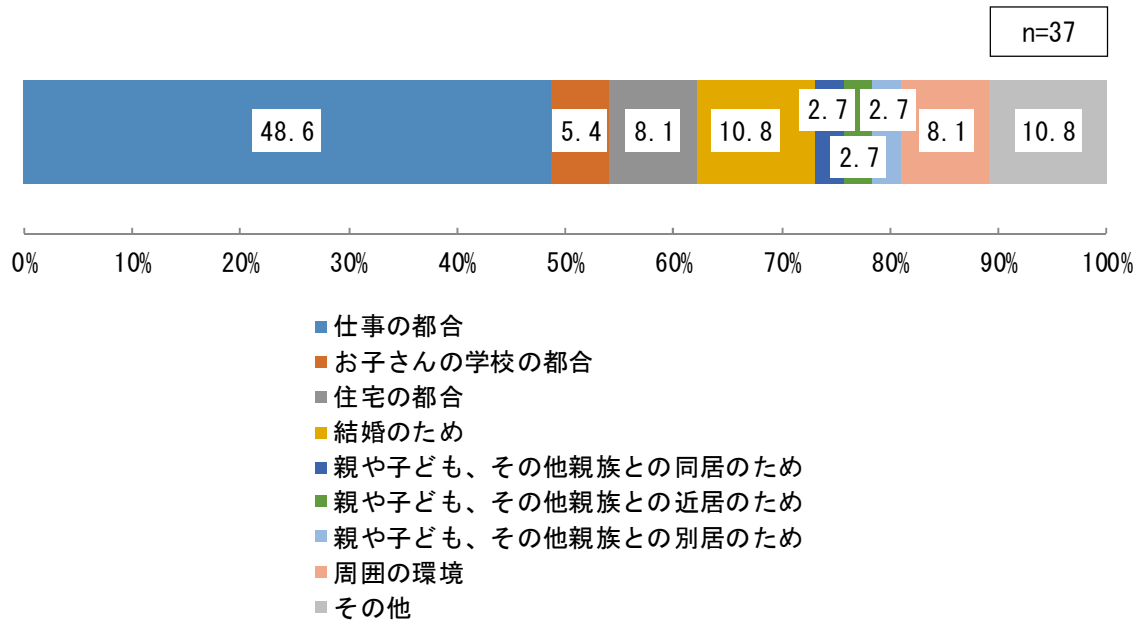
問8 あなたの転出前・転出後のお住まいの状況を教えてください。(1つに○)

転出前は「持ち家(一戸建)」が62.2%と最も多く、転出後は「借家(マンションなどの共同住宅)」が64.9%と最も多くなっています。



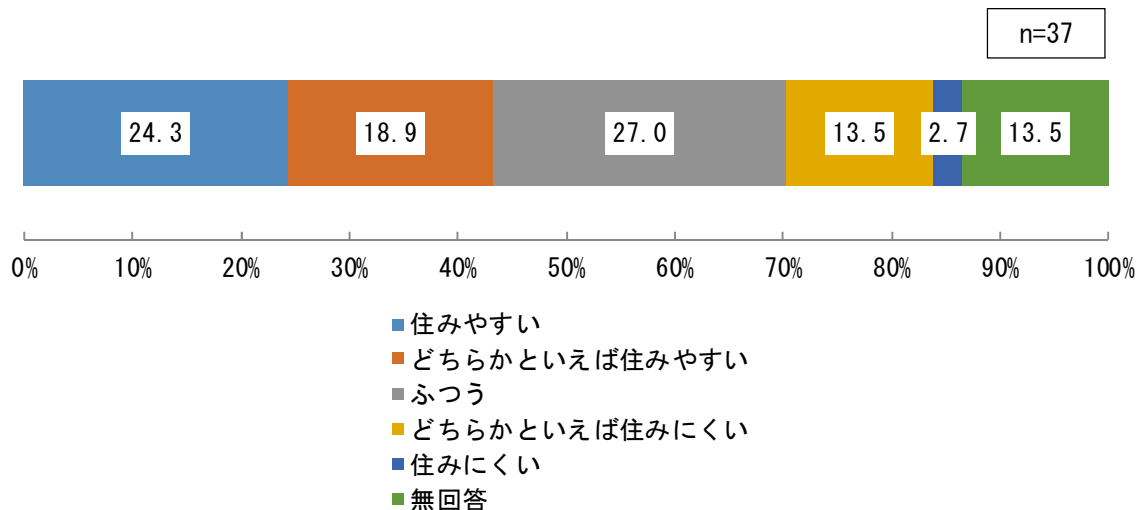
問9 あなたの転出要因を教えてください。(1つに○)

「仕事の都合」が48.6%と最も多く、次に「結婚のため」が10.8%と多くなっています。



問10 あなたの匝瑛市に対する住みやすさを教えてください。(1つに○)

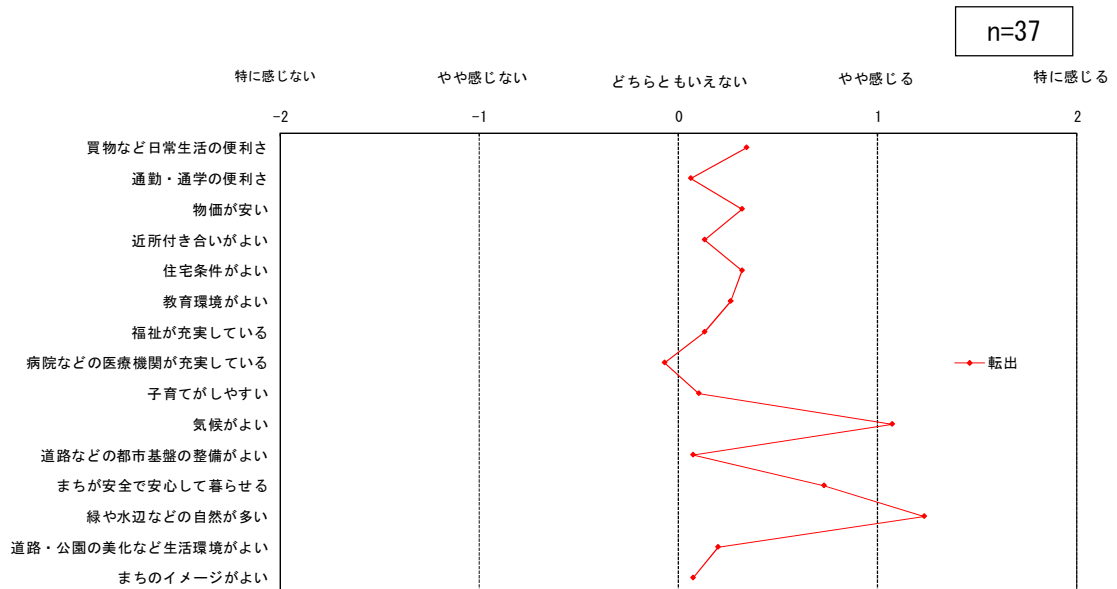
「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が合わせて43.2%と多くなっています。一方、「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」が合わせて16.2%となっています。



問 11 あなたの本市に対する項目毎の評価を教えてください。(項目毎に1つ○)

※「16. その他」の回答はなし。

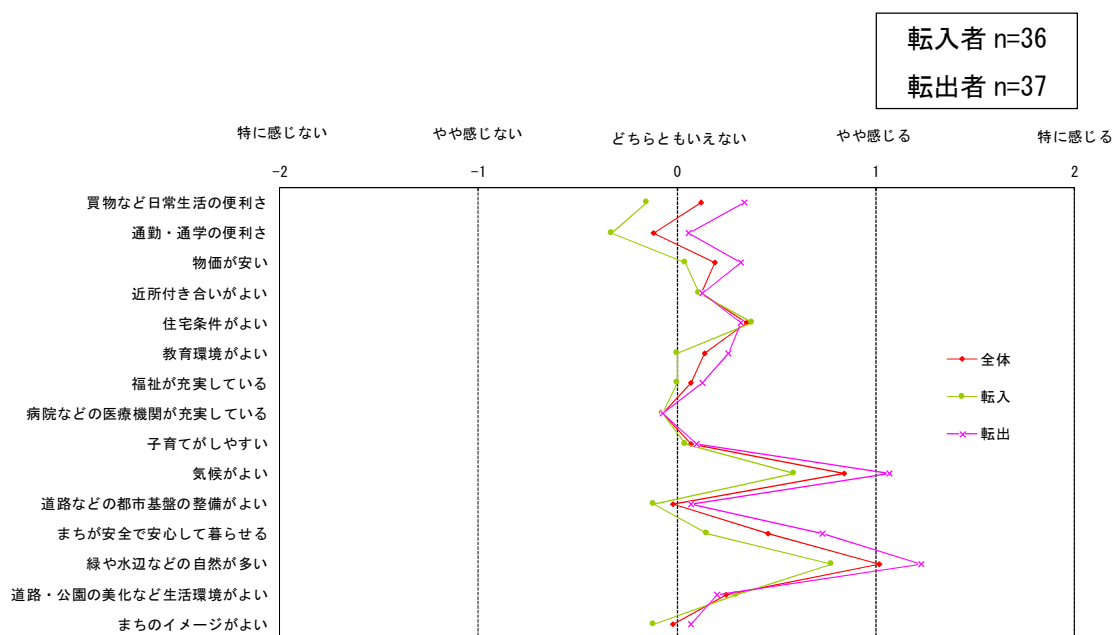
「緑や水辺などの自然が多い」の評価が最も高く、次に「気候がよい」の評価が高くなっています。一方、「病院などの医療機関が充実している」の評価が最も低くなっています。



問 11 あなたの本市に対する項目毎の評価を教えてください。(項目毎に1つ○)

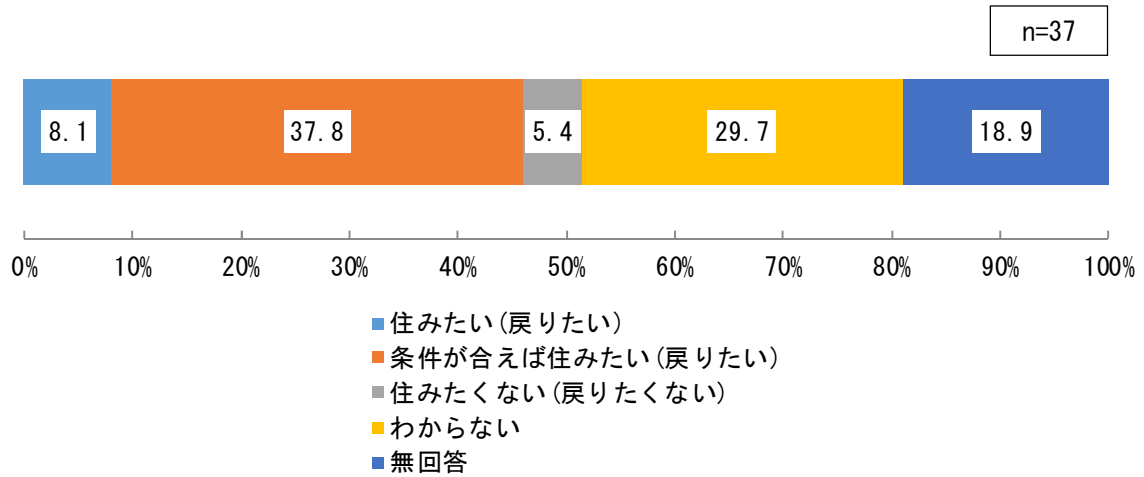
※「16. その他」の回答はなし。

転入者と転出者の評価を比較すると、概ね転出者の評価が転入者の評価より高くなる傾向があります。



問 12 あなたの今後の匝瑳市での居留意向を教えてください。(1つに○)

「条件が合えば住みたい(戻りたい)」が 37.8%と最も多く、「住みたい(戻りたい)」の 8.1%と合わせると 45.9%となっています。その他、「わからない」が 29.7%と多くなっています。



参考: 千葉県 人口減少・少子高齢化に対応した施策検討に係るアンケート調査

・ 千葉県から転出した女性のうち、千葉県への再居留意向を持つ人の割合

千葉県にふたたび「とても住みたい」 23.7%

千葉県にふたたび「やや住みたい」 29.4% 計 53.1%

【アンケート調査票】

匝瑳市の転出者へのアンケート

今後の匝瑳市の定住促進対策の参考にさせていただきますので、アンケートへのご協力をお願いします。

あてはまる回答に「○」を付け、具体的な内容・理由がある場合は()内に記入してください。

問1. あなたの性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性 2. 女性

問2. あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代
4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代
7. 70歳以上

問3. 転出人数を教えてください。(1つに○)

1. 1人 2. 2人 3. 3人
4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

問4. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

1. 会社員・公務員 2. 自営業
3. 農林業 4. パートタイマー・アルバイト
5. 学生 6. 無職
7. その他()

問5. あなたの転出後の家族構成を教えてください。(1つに○)

1. 一人世帯 2. 夫婦のみ
3. 夫婦と子ども 4. 一人親と子ども
5. 夫婦と親と子ども(三世同居) 6. その他()

問6. あなたの転出後の居住地を教えてください。(1つに○)

1. 千葉県内 2. 東京都
3. 関東地方 4. その他()

問7. あなたの匝瑳市での居住年数を教えてください。(1つに○)

1. 1年未満 2. 1年以上～2年未満
3. 2年以上～3年未満 4. 3年以上～4年未満
5. 4年以上～5年未満 6. 5年以上～10年未満
7. 10年以上～20年未満 8. 20年以上～30年未満
9. 30年以上

問8-1. あなたの転出前のお住まいの状況を教えてください。(1つに○)

1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなどの共同住宅)
3. 借家(一戸建) 4. 借家(マンションなどの共同住宅)
5. 市・県営住宅 6. 社宅・社員寮・下宿
7. その他()

問8-2. あなたの転出後のお住まいの状況を教えてください。(1つに○)

1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなどの共同住宅)
3. 借家(一戸建) 4. 借家(マンションなどの共同住宅)
5. 市・県営住宅 6. 社宅・社員寮・下宿
7. その他()

問9. あなたの転出要因を教えてください。(1つに○)

1. 仕事の都合 2. あなたの学校の都合
3. お子さんの学校の都合 4. 住宅の都合
5. 結婚のため
6. 親や子ども、その他親族との同居のため
7. 親や子ども、その他親族との近居のため
8. 親や子ども、その他親族との別居のため
9. 周囲の環境 10. その他()

裏につづく

問10. あなたの匝瑛市に対する住みやすさを教えてください。(1つに○)

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. ふつう | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 5. 住みにくい | |

問11. あなたの本市に対する項目毎の評価を教えてください。(項目毎に1つ○)

	特に感じる	やや感じる	どちらでもない	やや感じない	特に感じない
(例) 買物など日常生活の便利さ		○			
1. 買物など日常生活の便利さ					
2. 通勤・通学の便利さ					
3. 物価が安い					
4. 近所付き合いがよい					
5. 住宅条件がよい					
6. 教育環境がよい					
7. 福祉が充実している					
8. 病院などの医療機関が充実している					
9. 子育てがしやすい					
10. 気候がよい					
11. 道路などの都市基盤の整備がよい					
12. まちが安全で安心して暮らせる					
13. 緑や水辺などの自然が多い					
14. 道路・公園の美化など生活環境がよい					
15. まちのイメージがよい					
16. その他()					

問12. あなたの今後の匝瑛市での居住意向を教えてください。(1つに○)

1. 住みたい(戻りたい)
2. 条件が合えば住みたい(戻りたい)
3. 住みたくない(戻りたくない)
4. わからない

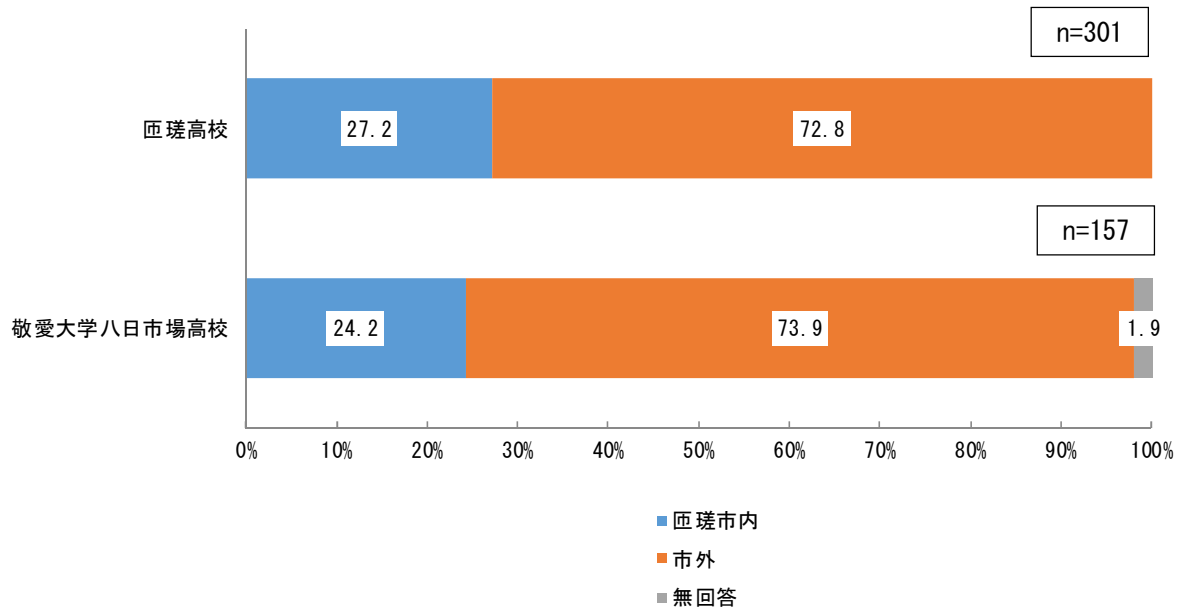
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

(匝瑛市役所 企画課 まちづくり戦略室)

8 匝瑳市の高校3年生に対するアンケート調査結果

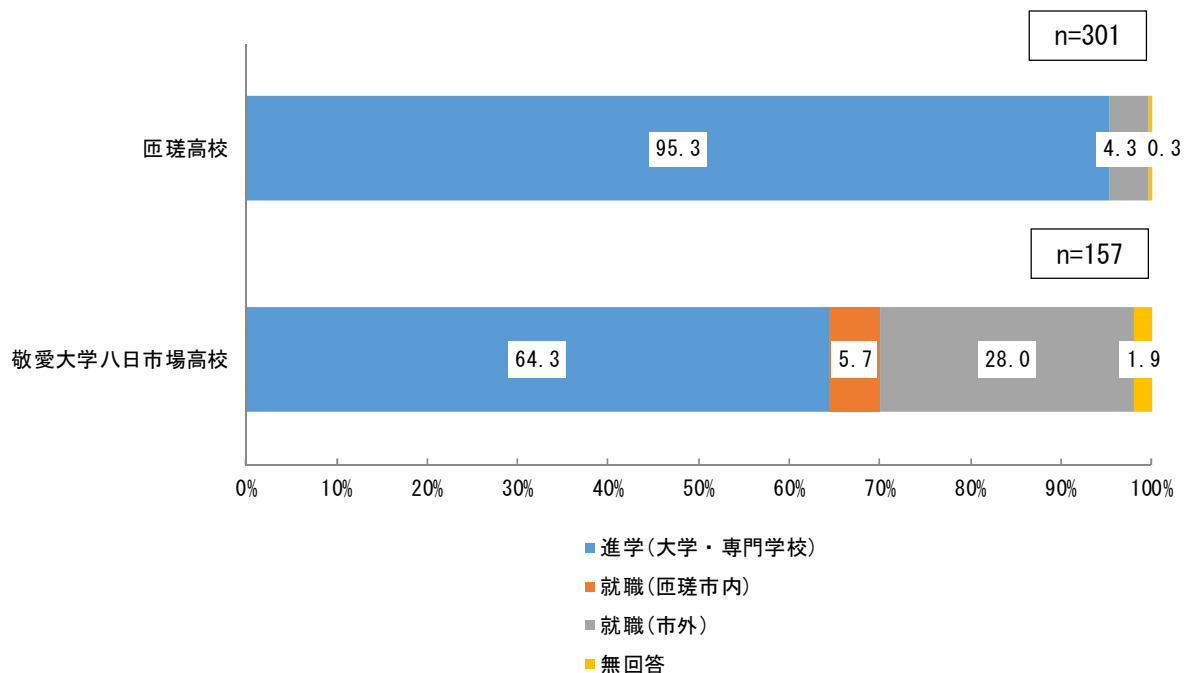
問1 あなたのお住まいを教えてください。(1つに○)

両校ともに「市外」が70%以上と多く、「匝瑳市内」が30%未満と少なくなっています。



問2 あなたの来年の進路予定を教えてください。(1つに○)

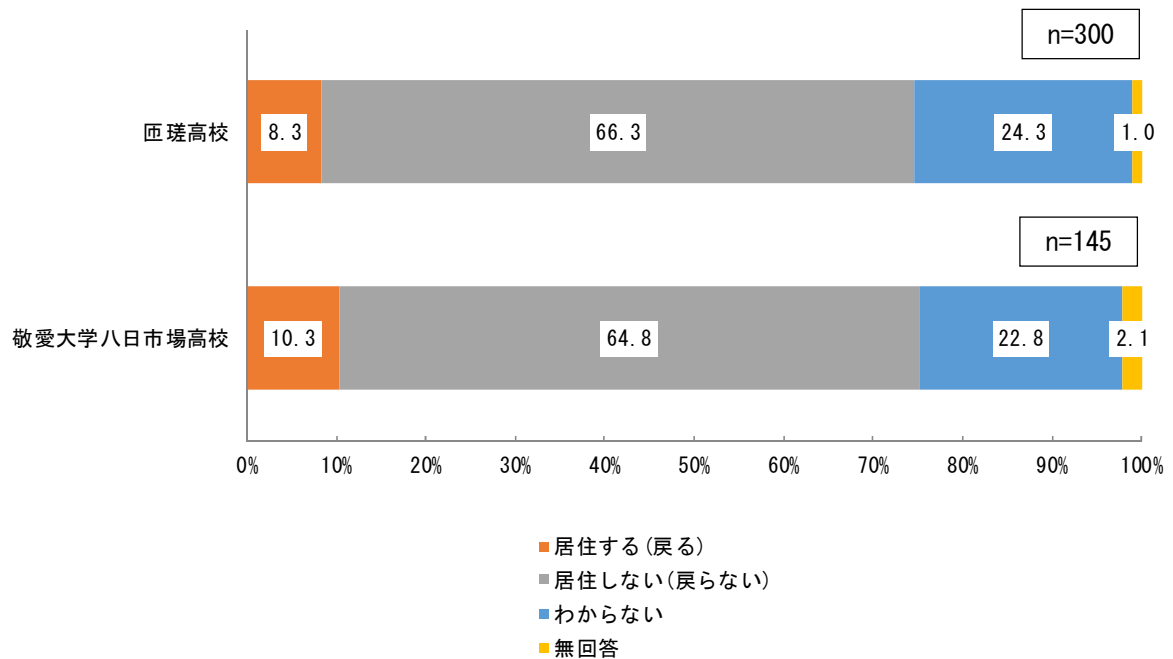
「進学(大学・専門学校)」については、匝瑳高校が95.3%とかなり多く、敬愛大学八日市場高校が64.3%と少なくなっています。また、敬愛大学八日市場高校については、「就職(市外)」が28.0%と次に多く、「就職(匝瑳市内)」が5.7%と少なくなっています。



問3 卒業(大学・専門学校・高校)したら匝瑳市に居住する(戻る)と思いますか。(1つに○)

※問3は「問2進路予定」で「1進学」「3就職(市外)」を選んだ方のみ

両校ともに「居住しない(戻らない)」が60%以上と高く、「わからない」が25%未満となっています。



参考: 千葉県 人口減少・少子高齢化に対応した施策検討に係るアンケート調査

・千葉県から転出した女性のうち、千葉県への再居住意向を持つ人の割合

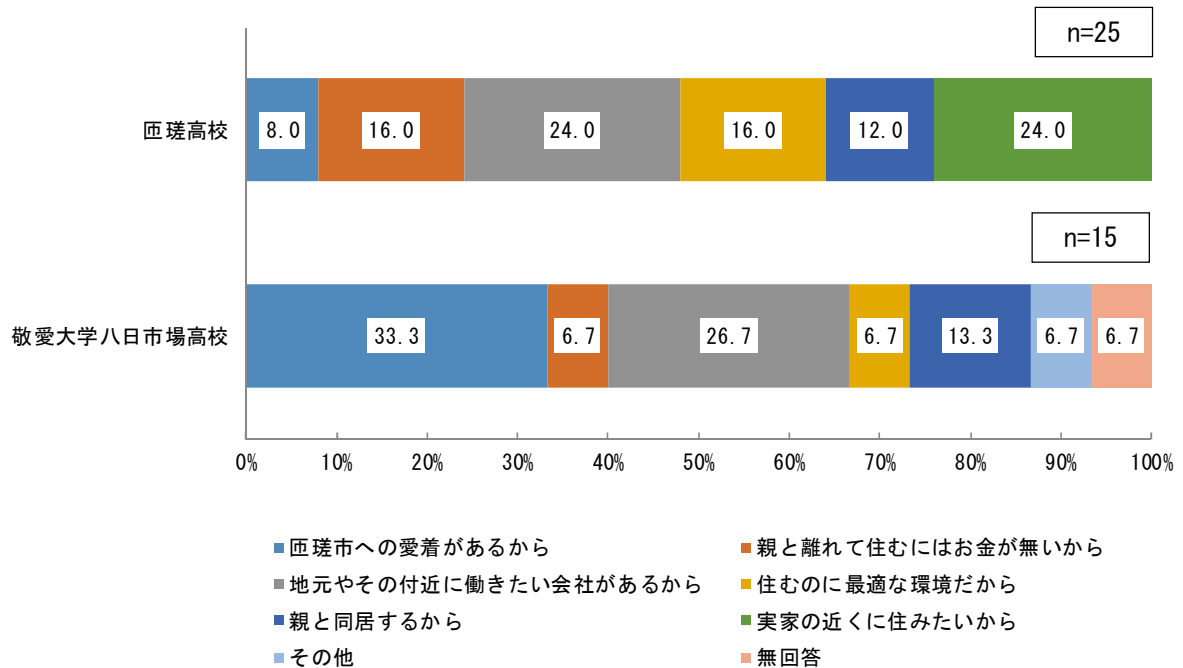
千葉県にふたたび「とても住みたい」23.7%

千葉県にふたたび「やや住みたい」29.4% 計 53.1%

問4 その理由を教えてください。(1つに○)

※問4は「問3卒業後の匝瑳市の居住意向」で「1 居住する(戻る)」を選んだ方のみ

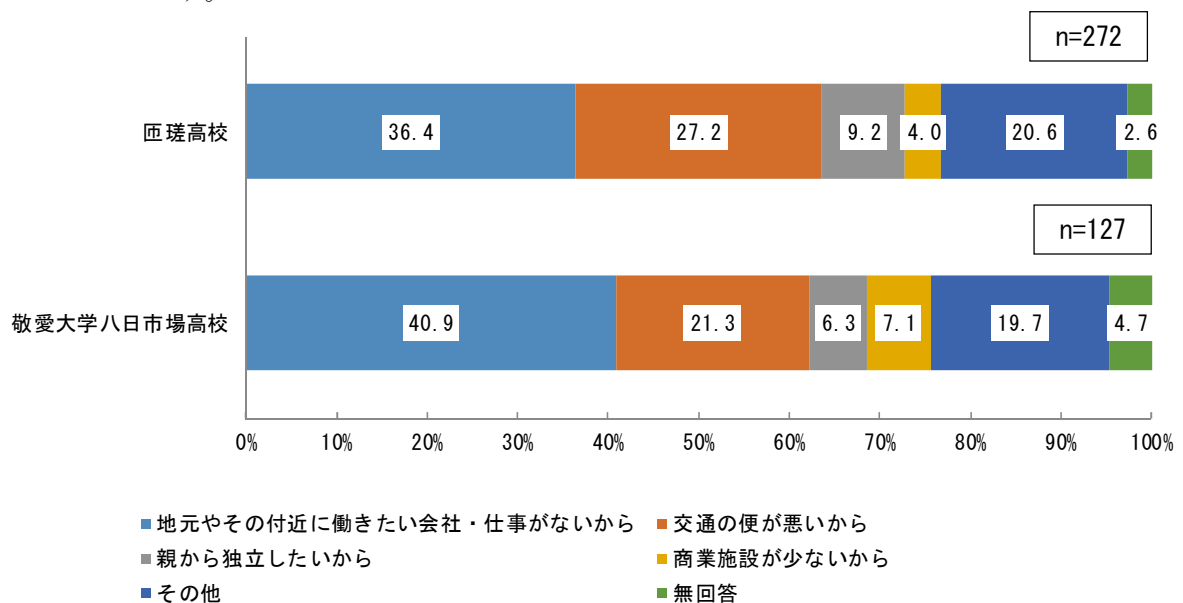
匝瑳高校については、「地元や付近に働きたい会社がある」や「実家の近くに住みたい」理由が多く、敬愛大学八日市場高校については、「匝瑳市への愛着」や「地元や付近に働きたい会社がある」理由が多くなっています。



問5 その理由を教えてください。(1つに○)

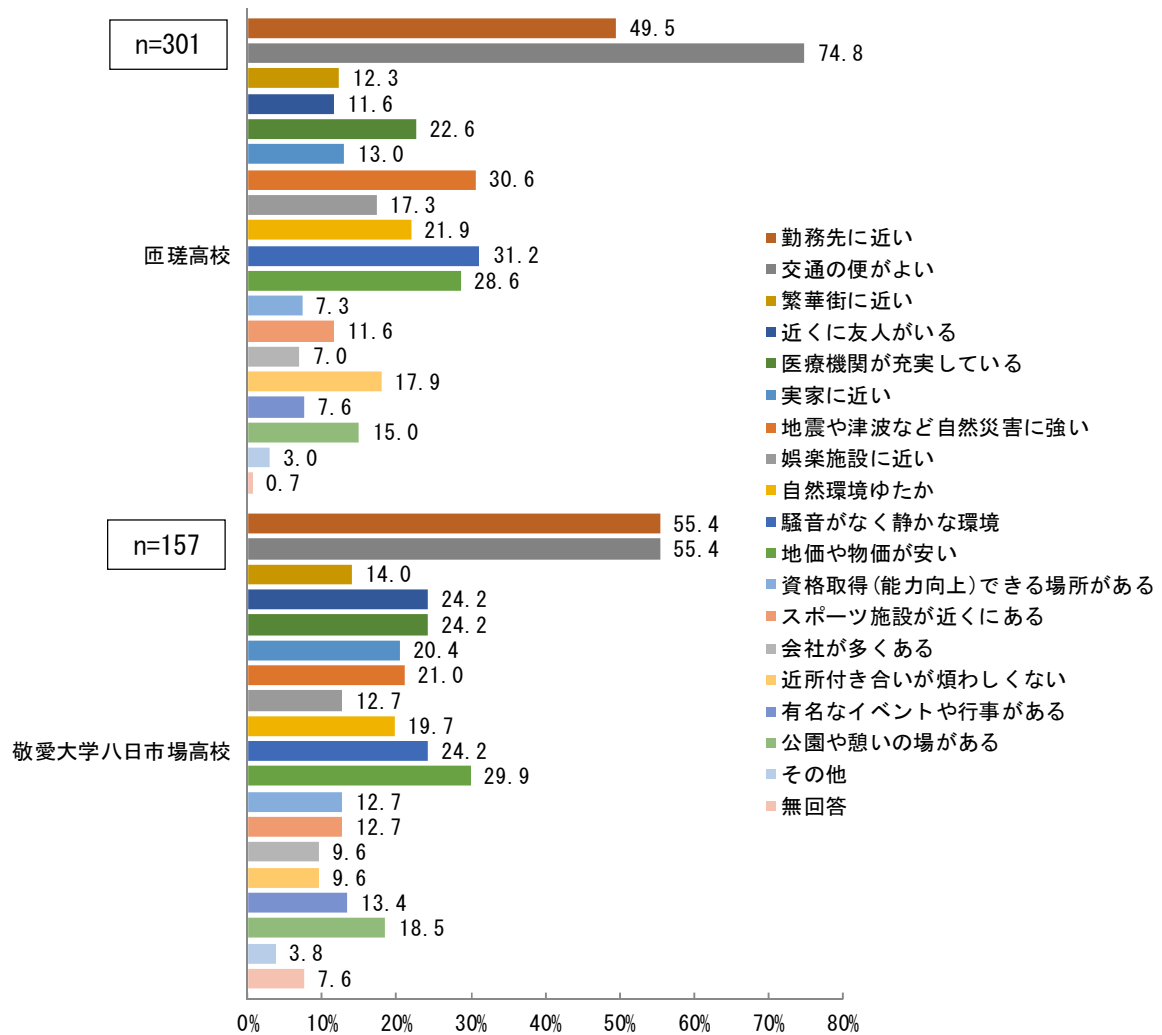
※問5は「問3卒業後の匝瑳市の居住意向」で「2 居住しない(戻らない)」 「3 わからない」を選んだ方のみ

両校ともに「地元や付近に働きたい会社がない」や「交通の便が悪い」理由が多くなっています。



問 6 居住する場所を選択するのに重要視することは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

匝瑳高校については、「交通の便がよい」「勤務先に近い」「騒音が無く静かな環境」の順に重要視しています。敬愛大学八日市場高校については、「勤務先に近い」「交通の便がよい」を最も重要視しており、次に「地価や物価が安い」を重要視しています。



【アンケート調査票】

匝瑳市の高校3年生へのアンケート

今後の匝瑳市のまちづくりの参考にさせていただきますので、アンケートへのご協力をお願いします。

あてはまる回答に「○」を付け、具体的な内容・理由がある場合は()内に記入してください。

問1. あなたのお住まいを教えてください。(1つに○)

1. 匝瑳市内 2. 市外

問2. あなたの来年の進路予定を教えてください。(1つに○)

1. 進学(大学・専門学校)・・・問3へ
2. 就職(匝瑳市内)・・・問6へ
3. 就職(市外)・・・問3へ

【問3は問2で「1」「3」を選んだ方のみお答えください。】

問3. 卒業(大学・専門学校・高校)したら匝瑳市に居住する(戻る)と思いますか。
(1つに○)

1. 居住する(戻る)・・・問4へ
2. 居住しない(戻らない)・・・問5へ
3. わからない・・・問5へ

【問4は問3で「1」を選んだ方のみお答えください。】

問4. その理由を教えてください。(1つに○)

1. 匝瑳市への愛着があるから
2. 親と離れて住むにはお金が無いから
3. 地元やその付近に働きたい会社があるから
4. 住むのに最適な環境だから
5. 親と同居するから
6. 実家の近くに住みたいから
7. その他()

【問5は問3で「2」「3」を選んだ方のみお答えください。】

問5. その理由を教えてください。(1つに○)

1. 地元やその付近に働きたい会社・仕事がないから
2. 交通の便が悪いから
3. 親から独立したいから
4. 商業施設が少ないから
5. その他()

【問6は全員お答えください。】

問6. 居住する場所を選択するのに重要視することは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 勤務先に近い | 10. 騒音がなく静かな環境 |
| 2. 交通の便がよい | 11. 地価や物価が安い |
| 3. 繁華街に近い | 12. 資格取得(能力向上)できる場所がある |
| 4. 近くに友人がいる | 13. スポーツ施設が近くにある |
| 5. 医療機関が充実している | 14. 会社が多くある |
| 6. 実家に近い | 15. 近所付き合いが煩わしくない |
| 7. 地震や津波など自然災害に強い | 16. 有名なイベントや行事がある |
| 8. 娯楽施設に近い | 17. 公園や憩いの場がある |
| 9. 自然環境ゆたか | 18. その他() |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

(匝瑳市役所 企画課 まちづくり戦略室)

9 ワークショップ実施結果(意見集)

雇用創出	
強み	〈豊かな土地や農業について〉 ・農業用地が広大で、水源にも恵まれている。 ・農業・造園業などが盛んである。 ・周辺に新鮮な魚、野菜、絶品のお米、おいしい肉がある。 ・TPPにより、新しい農業に変わる事で地方雇用(新しく)が図られる可能性がある。 ・稲作では、米価格は現状維持となる見込みから大型経営・営農集団に収れんする。 ・近年、農業経験のない若者などが、農業をやりたいという希望がある。 ・政策パッケージにある「農林水産業の成長産業化」や「新規就農者への総合支援」の対象となる農業が主要産業である。 ・植木の技術は日本一で、地場産業であり、輸出も伸びている。 ・地場産業(植木・造園)は日本一の栽培面積を有し、中国やヨーロッパ向けなどの輸出も増加している。 ・その他、農業の6次産業化に学生の関心が高く、ある中小企業では県内を飛び越え全国の大学から学生の応募がきているところもある。 〈立地やインフラについて〉 ・成田 AP 関連企業に通勤できる。 ・医療介護施設の設置数は少ない。 ・東京などの大消費地、成田空港に近い。 ・住むための社会インフラは、確保されている。 ・旭市に中央病院がある。 ・銚子連絡道からのアクセスが比較的良好(旭、銚子に比べても有利)。 ・今後圏央道との全面つながりで地の利を得る可能性がある。 〈工業について〉 ・工業団地があり、誘致を進め、工業の振興を図っている。 ・「みどり平工業団地」については、28 社約 900 人の雇用がある点は良く、企業誘致に期待できる。 〈自然について〉 ・自然に恵まれている(住みやすい)。 ・海があり、夏季のリゾート客の誘致が見込める。 〈その他〉 ・日本最古の大学がある。 ・匝瑳市の医療・介護施設の設置割合は県内市町村の中でも高いレベルにある。

弱み	<農業について> ・ 農業後継者が不足しており、人材の確保ができない。 ・ 高齢化が進み、農業粗生産額が低い。 ・ 野菜生産などでは、旭市・銚子市とは大きな差がある。 ・ 農業で生きて行けるモデルは近隣市町にあると思う。 ・ 植木産業認知度が低い(日本一を知らない人が多い)。 <インフラについて> ・ 東京から遠い。 ・ 都心(都市部)へのアクセスに費用がかかる(本支店間出張など)。 ・ 電車の本数が少ない。 ・ 終電の時間が早い。 ・ 連合の構成単組(匠瑳市)は、JP・JR 関東バス(多古に移転)・大塚製靴・美和電気・千教組と少ない。 ・ みどり平工業団地が、成田、鹿島と競合している。 ・ 工業団地で太陽光ソーラーパネルなど雇用とつながらない利用がある。 <雇用について> ・ 会社(職場)が少ないので働く場がない。 ・ 事業主の高齢化・後継者難・人手不足などの課題を抱えている。 ・ 労働者視点から、労組の取組が都市部に比べて少ない(労働者保護の点で)。 ・ 雇用に対する具体策が少なく感じる。 ・ 労働者の視点から、労働組合のない企業に比べると安心して働くことができる環境が少ない。 <観光について> ・ 観光産業が少ない。 ・ 宿泊施設が少ない。 ・ 開発したのに使われないものが多い(駅、サイクリングロード)。 ・ 海が活用できていない。 ・ 海岸エリアで、夏の海水浴ができなくなり海岸の活用ができないままになっている。
----	---

今後の 取組案	<農業について> ・ 転入者が新規就農しやすいようにする(家業を継ぐことが困難な場合)。 ・ 新規就農・就業者へのバックアップと現在、就農している担い手への積極的な厚みのある支援を講じる政策を行い、販売額 2,000 万円以上の経営体を育成(所得率 50%)する。 ・ 農業の企業経営化を図り、一定規模を確保する。 ・ 6 次産業化を行い、生産→加工→販売まで一連の取組を行う。 ・ アイガモ農法など特化した手法で差別化を図る。 ・ 植木・造園業の更なる成長と雇用創出に向けて、輸出振興に取り組む。 <みどり平工業団地について> ・ 会社存続のため人材は必要(伝承)。 ・ どんな会社が入っているか知ってもらう取組が必要である。 ・ 地元高校から入社するケースが少なく、もっと企業を魅力的に見せる必要がある。 ・ みどり平工業団地へのさらなる工場誘致。 <情報発信について> ・ 情報発信を若年世代に任せてやってみる→新しい発想。 <その他> ・ 海浜地区の活性化。 ・ 医療・介護・サービス・レベルの維持・向上に向けて、人材の確保に取り組む。 ・ 各企業における労組の確立(自治労)。 ・ 強みの部分の利用・展開ができていないので、まずは、より明確により詳しく、強みを理解することから始める。
--------------------	--

移住・定住促進	
強み	〈環境(自然・住環境)について〉 ・ 自然環境(海、緑)に恵まれている。 ・ 匝瑳市の最大の強みは、気候温暖、災害の少なさにある。 ・ 恵まれた自然条件のなかで、豊かな生活に欠かせない農業、漁業、畜産などがバランスよく調和していることである。 ・ 里山が美しく、緑のいやしがあり、道路沿いの木がきれいである。 ・ 植木が全国有数産地(松山庭園美術館)である。 ・ 遠浅の九十九里海岸に面して海が近い。 ・ 海岸があり、サーフィンやバーベキューができる。 ・ 「ふれあいパーク」の農作物が安い。 ・ ふるさと納税のお礼の品(米、野菜、イワシ、鯖、落花生、キンメ、ピーマンドレッシング、ハマグリ、味噌)。 〈人の気質について〉 ・ 市民が誇りをもっている。 ・ 団結力が強い。 ・ おすそ分けの精神。 〈歴史と伝統について〉 ・ 女みこしが有名。 ・ オハヤシ付のみこしはめずらしい。 ・ 祭りが盛り上がる。 ・ 日本最古の大学がある。 ・ 飯高寺の木が高く、歴史を感じる。 〈その他〉 ・ (市の)名称 匝瑳市。 ・ 空き家が多い(選択肢が多い)。 ・ 民宿が安い。 ・ 高校がある。 ・ 弓道が強い(匝瑳高)。

弱み	〈市のイメージについて〉 ・ 全てに平均的で特長がない(突出したものがない)。 ・ 匝瑳と聞いて何も思いつかない。 ・ 匝瑳市の認知度が低い。 〈産業について〉 ・ 特産物、サービス業がない。 ・ 集落施設設備、観光資源がない。 〈交通の整備について〉 ・ 車がないと生活できず、インフラ(病院)やアクセス(JR、道路)が整っていない。 ・ バス・電車の本数が少ない。 〈各種施設の不足について〉 ・ 集落施設設備がない。 ・ 商店街のシャッターが閉まっていることが多い。 ・ 駅の南側がさみしい。 ・ BBQ ぐらいいしか遊ぶところがない。 ・ 宿泊するところがない(特にホテル)。 ・ 飲み屋が少ない。 〈その他〉 ・ 海沿いの自転車道の利用者の少なさ。 ・ 砂浜が無い。 ・ 空屋が多い(1,300 戸)。 ・ 大学がない。 ・ 福祉や教育の充実がない(若者の老親介護が今後の大問題になる)。 ・ 雇用がない(産業がない)→移住・定住しない(人口減)→税収がない→社会福祉の衰退。 ・ スピード感がない。 ・ 保守的で排他的。 ・ リーダーが少ない(いない)。
----	---

今後の 取組案	〈農業などの産業について〉 ・「農・産業を中核としたまちづくり」。 ・農業大学の設置→老いも若きも農業に関心のある人を教育する。現代版「開拓民」を全国から募集。 ・農業大学を中心に居住区、商業区、教育区、医療区などを整備したコンパクトシティづくり。 ・6次産業化で地域内経済を循環させ、雇用を促進する(担い手も育成する)。 ・モノ、産業のブランド化→ブランドの開発(農産物、加工品、6次産業)。 〈福祉施策について〉 ・強み→九十九里ホームを中核とした福祉都市づくり。 ・老親介護のため、家族と一緒に匝瑳市に移住することにより、安心な介護を受けることが出来る仕組みづくり。 〈スポーツ施設の整備について〉 ・日本一のグランドゴルフ場を創る(日本一難しいコース設定)。 ・マイナースポーツのレース場を創る。(マウンテンバイクのレース場、ゴーカートレース場(自転車レースも可能なもの)クロスカントリー競技場など、競技人口は少ないがスキ間をねらった施設づくり。 〈市のPRについて〉 ・あえて「ふりがな」を付けずPR→問い合わせてもらって、その時に詳しくPR。 〈その他〉 ・弱みを強みに変えてオリジナルな自立したまちを構築する。 ・全国レベルで突出したものを創造し自立したまちを創る。 ・マイナーなものでもいいので、全国的な認知を得られるものを創造することで、人を引き寄せる。
--------------------	---

結婚・出産・子育て	
強み	〈自然環境について〉 ・ 住みやすい自然環境にある。 ・ 地震・津波・水害などの自然災害が近隣市町に比較して少ない。 ・ 南は九十九里海岸から始まり、中部は平らな田園地帯で緑豊かな植木が多い。 ・ 北は台地で里山や飯高壇林などがあり、全体としてバランス良く、家族で楽しめる場や心を癒してくれる自然豊かな環境がある。 〈出産・子育てについて〉 ・ 出産費用が都心に比べ少ない。 ・ 第3子以降の保育料無料化、第3子以降の給食費減免、チャイルドシートの購入費助成、放課後児童クラブの設置、つどいの広場の設置。 ・ こども医療費無料化。 ・ 敷地内の同居であればよい。2世代近くにいるだけで助かる。 ・ 保育園の待機児童が少ない。 ・ 娯楽がないから、非行にはしらない。 ・ 保育園の待機児童が少ない。 ・ 耳鼻科・皮膚科の充実。 ・ 老人が多い→同居は大変だが、子供を安心して育てられる。親だけでなく祖父母も一緒に子どもをみるだけで助かる。余裕ができる。 〈結婚について〉 ・ 婚活の支援事業が実施されている。 ・ 家や庭が広い。 ・ 2世代同居。敷地が広い。 ・ 社会の多様化によって出会いの場が少ない(昔は青年団活動が活発で出会いが多かったが、現在は若い人の活動が変化し、偏っている)。 ・ また、職場も男性だけ、女性だけのかたまりで、男女話し合う場が少ない。 ・ 子供を産み育てる養育コストの増大。出産してから保育園、小・中・高・大学と養育費が莫大であり、二人目・三人目と生みたいけれども経済的に一人であきらめる傾向にある。

弱み	<出産について> ・産婦人科の病院が少ない。 ・一人目は出産後、商品券がもらえたが二、三人目はなかった。 ・健診代が高いし、健診時間は午後が多く、子供が眠くてぐずってしまう。 ・母親学級の開催日数が少ない。 ・双子の手当がない。 ・初産婦の数カ月は家事や食事が大変なので、それをフォローできる割引クーポンや宅食などがない。 <子育てについて> ・オムツ券がない(旭市では支給している)。 ・病児保育がない(小児科・夜間救急がない)。 ・教育コストの増大。 ・所得税に関係なく母子手当の支給がない。 ・頼れる人がいないので、家に来て育児を手伝ってくれる制度がない。 ・小さい子と出かける場所が少ない(平日・土日・年齢問わず室内で遊べるところ)。 ・プール・公園(じゃぶじゃぶ池)・室内遊びの充実が乏しい。 ・不要な子供服・おもちゃ・余ったオムツなどを引き取り、必要な家族に無償か有償で引き渡せる場がない。 ・買い物できる場所が少ない。 ・子供の遊び場があるレストランが少ない。 ・0～3 歳児の習い事ができる場所が少ない。 ・気軽に預けられる託児所妊婦さんなどがいない、一時保育に気軽に預けられない、少しの時間預けられるところがない。 ・保育園の一時預かりに持っていくものが多すぎる(オムツやバスタオル、着替えなど、園で用意して欲しい。その分使用料で調整するなど)。 ・道路の整備(道が狭い。歩道がない。ベビーカーで散歩できる場所が少ない。草が伸びていて困る場所がある)。 ・田んぼ・用水路などにガードレールが少ない。 <結婚について> ・結婚に対する価値観が変化している。女性の雇用環境が変わり、経済力が高まって、生涯未婚の考えが多い。 ・結婚に対する価値観が変化している。女性の収入がある。 ・女性が求める結婚相手の所得が高い。民間調査では、女性が求める相手の年収は 300 万以上であると言われている。 ・婚活事業知らない人も多く、婚活イベントの告知が弱い。 ・男性も育児を手伝う→中学生から教育していない。 ・バツ 1 専用のイベント、優遇サービスが少ない。
----	---

今後の 取組案	<出産・子育てについて> ・安心できる出産・小児医療体制の充実。 ・子供のいない家庭の把握←不妊治療の助成。 ・現在行っている出産・子育ての経済的支援を継続すると共に拡充をする。補助金について。出産のお金、保育料(一人目、二人目、三人目)。 ・自然を生かした教育をする。青空教室など。 ・病児保育の開設。 ・金銭的な補助(予防接種、オムツ、健診代など) ・人的サポートがあり、気軽に預けられる施設、一時保育の充実。 ・保育ママ(ベビーシッター)、チャイルドマインダー。 ・交流の場、遊べる場、つどい、公園、施設。 ・働く場所(パートでも)。 ・子育ての環境整備。 ・男性も育児を分担することの重要性を中・高生の時から教育する。 ・保育園土日解放(室内も)。 <結婚について> ・市域を超えた婚活事業の展開。 ・年5回実施している婚活にもっと参加してもらえるよう関係機関・関係団体・企業・事業所などをお願いをする。 ・企業に対し職場結婚を推奨し、結婚後も出産後も処遇を維持するよう働きかけをする。 ・結婚後、同居ではなく夫婦2人で住めるように賃貸などの優遇措置をする。 ・結婚をあと押しする人の確保。 ・広く色々な人に周知できるように、市民に対する施策の十分な広報。 ・FB や婚活誌の発行、独身への郵送、テレビ、トラックアート、ツイッターや広報誌による情報発信。 <その他> ・「〇〇のまち匠瑤市」キャッチフレーズ、トラックアート※若者、子育て世代に魅力がある市 ・若い人が住みたいと思えるような市、まちづくり ・経済的支援の継続・拡充をする。
--------------------	---

10 用語の解説

C

CCRC 構想

CCRC は Continuing Care Retirement Community の略。東京圏をはじめとする地域の高齢者が希望に応じ地方に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指すもの。

I

ICT

Information and Communication Technology(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略。IT の概念をさらに一步進め、IT＝情報技術に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。

N

NPO 法人

NPO は、Non Profit Organization の略で、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称。NPO 法人は、特定非営利活動促進法(NPO 法)に基づき法人格を取得した特定非営利活動法人のこと。

P

PDCA サイクル

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つであり、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善すること。

T

TPP

環太平洋パートナーシップ(Trans-Pacific Partnership)の略。我が国を含むアジア太平洋地域において、物品およびサービスの貿易並びに投資の自由化および円滑化を進めるとともに、知的財産、電子商取引、国有企業、環境など幅広い分野で 21 世紀型の新たなルールを構築する経済連携協定。

U

UIJ ターン

大都市圏の居住者が地方に移住することで、U ターンは出身地に戻る形態、J ターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態、I ターンは出身地から離れた地方へ移住する形態を指す。

ア 行

アンタルヤ国際園芸博覧会

平成 28 年(2016 年)4 月 23 日～10 月 30 日に、トルコ共和国南西部のアンタルヤ県において、「花と子供達 (Flowers and Children)」をテーマに開催される国際園芸博覧会。

一般会計

会計年度(4 月 1 日～翌年 3 月末日)における国および地方自治体の収入(歳入)と支出(歳出)の出納を経理する会計。

オブザーバー

会議などで特別に出席することを許された人。発言はできるが、議決権や発議権はない。

カ 行

観光コンテンツ

観光の内容や中身を示すもの。

合計特殊出生率

15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。1 人の女性が生涯、何人の子どもを産むのかを表す。

公有財産

国または地方公共団体などが所有する財産（地方自治法上、地方公共団体の所有する不動産や、地上権・地役権などの権利、有価証券などの財産）。

国勢調査

我が国に住んでいる全ての人と世帯を対象とする国の最も重要な統計調査。

国民希望出生率

結婚や出産に関する国民の希望が叶った場合の出生率。

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)

厚生労働省に所属する国立の研究機関であり、人口や世帯の動向を捉えるとともに、内外の社会保障政策や制度についての研究を行う機関。

コンパクトシティ

都市中心部に様々な機能を集めることによって、相乗的な経済交流活動を活発化させ、持続可能な暮らしやすい街をつくっていかうとする考え方。

コーディネーター

様々な要素を統合・調整し、一つにまとめ上げる係や職業。

サ 行

サ高住

サービス付き高齢者向け住宅の略。民間事業者などによって運営され、都道府県単位で認可・登録された賃貸住宅であり、主に自立あるいは軽度の要介護状態の高齢者を受け入れている。

サテライトオフィス

企業または団体の本拠（職場）から離れた場所に設置されたオフィスのこと。本拠を中心として見た時に、衛星（サテライト）のように存在するオフィスの意味。

自然増減

ある地域における出生と死亡による人口の増減。出生が死亡を上回れば自然増、死亡を出生が上回れば自然減となる。

社会増減

ある地域の人口において、他地域からの転入、あるいは他地域への転出によって生じる増減。転入が転出を上回れば社会増、転出が転入を上回れば社会減となる。

重要業績評価指標 (KPI)

KPI は Key Performance Indicator の略。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標を指す。

縮小スパイラル

相互作用(スパイラル)的に進行し、連鎖的に低下する悪循環。

純移動数

ある地域の一定期間中における転入数と転出数の差。プラスかマイナスの符号を持ち、転入が転出を上回るときはプラス、転出が転入を上回るときはマイナスとなる。

純移動率

純移動数を当初の人口で割った値。

生涯活躍のまち

日本版 CCRC の別称。

少子高齢化

出生数が低下する一方で平均寿命が伸びたことにより、人口全体に占める子どもの割合が低下し、高齢者の割合が高まること。

常住人口

調査時に常住している場所で調査する方法(常住地方式)による人口。

人口ピラミッド

ある地域における年齢階層別人口を、低年齢層から高年齢層へとピラミッド状に積み上げてつくった図。

シーズ

企業が新たに開発することによって、消費者に提供されるようになる技術・材料・サービスのこと。

タ 行

団塊の世代

昭和 22～24 年(1947～1949 年) ごろの第 1 次ベビーブーム時代に生まれた世代。

地産地消

地元で生産されたものを地元で消費すること。

長期ビジョン

日本全体の人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」のこと。

調査信頼度

アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのか信頼度を示すもの。

転出超過

一定期間における転出数が転入数を上回っている状態をいう。

転入超過

一定期間における転入数が転出数を上回っている状態をいう。

ナ 行

二地域居住

都市住民が農山漁村などの地域にも同時に生活拠点を持つこと。

日本創成会議

10 年後の世界・アジアを見据えた日本全体のグランドデザインを描き、その実現に向けた戦略を策定すべく、産業界労使や学識者など有志が立ち上げた組織。

ニューツーリズム

従来の物見遊山的な観光旅行に対して、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態(エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光など)。

年齢 3 区分別人口

15 歳未満人口(年少人口)、15～64 歳人口(生産年齢人口)、65 歳以上人口(老年人口)で人口を区別し、年齢 3 区分別に分けたもの。

ハ 行

パブリックコメント

公的な機関が規則あるいは命令などを制定しようとするときに、広く公(パブリック)に意見・情報・改善案など(コメント)を求める手続。

ファシリテーター

人々の活動が円滑になるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りをする人のこと。

ふるさと納税

自分の選んだ自治体に寄附(ふるさと納税)を行った場合に、寄附額のうち 2,000 円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除される制度。

プロモーション活動

商品(サービス)の販売、認知、理解、好感度を促進・向上させる一切の活動。

ほ場

農産物を育てる場所や区画

マ 行

まち・ひと・しごと創生総合戦略

長期ビジョンを踏まえ、2015 年度を初年度とする今後 5 か年の国の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの。

まち・ひと・しごと創生本部

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指し設置された機関。

ラ 行

6 次産業化

農林水産業・畜産業などの第 1 次産業とこれに関連する第 2 次産業(加工)、第 3 次産業(販売など)に係る事業の融合などにより地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を行う取組。

ワ 行

ワークショップ

参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究集会。

ワークライフバランス

やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発などにかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活。

匝瑳市

まち・ひと・しごと創生総合戦略

発 行：平成28年3月

発行者：千葉県匝瑳市

編 集：匝瑳市役所企画課

〒289-2198 千葉県匝瑳市八日市場ハ793番地2

TEL：0479-73-0081 ／ FAX：0479-72-1114



叵瑳市

SOSA CITY